

### 第3章 県の特定期題について

#### 1 若者の就業支援や雇用環境の整備について

若者の県内就職の増加に必要な施策（問4-43）

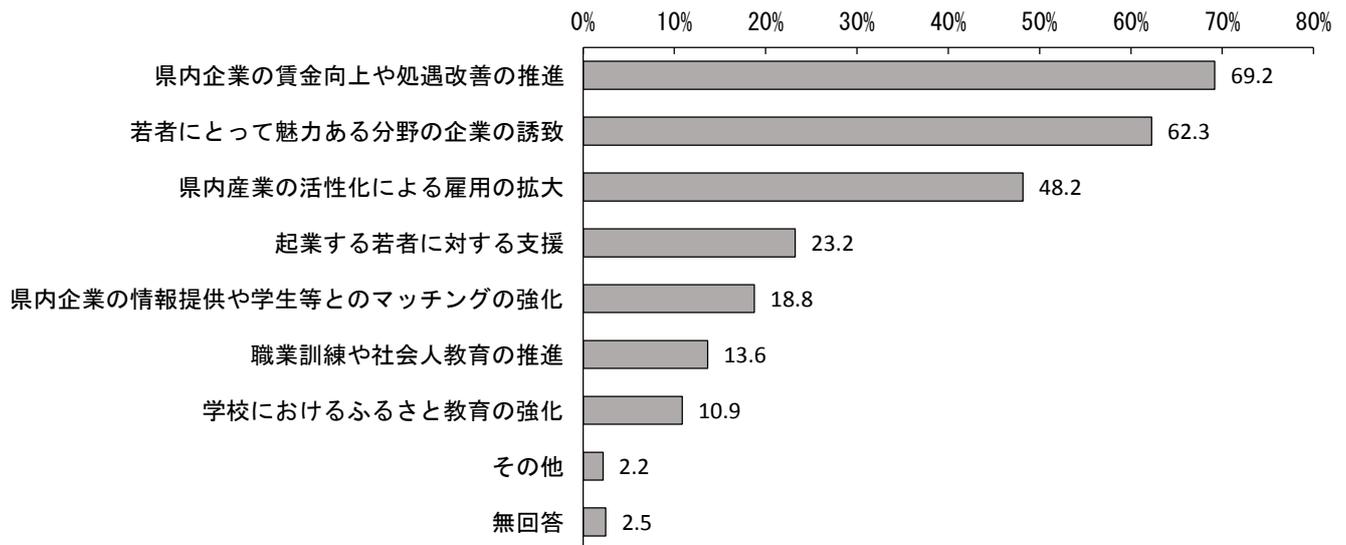
◆あなたは、若者の県内就職を増加させるために必要な施策は次のうちどれだと思いますか。（○は3つまで）

全体では、「県内企業の賃金向上や処遇改善の推進」、「若者にとって魅力ある分野の企業の誘致」が60%を超え、続いて「県内産業の活性化による雇用の拡大」が48.2%となっている。

性別では、大きな違いは見られない。

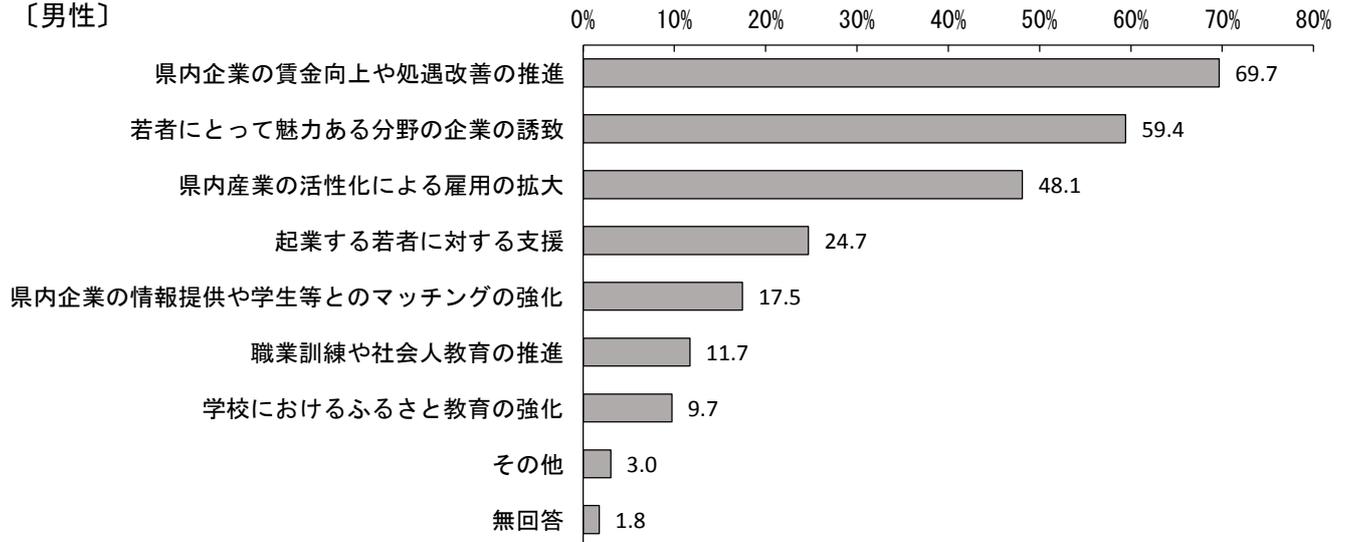
年代別では、20歳代～60歳代では「県内企業の賃金向上や処遇改善の推進」が第1位となっているが、10歳代と70歳以上では、「若者にとって魅力ある分野の企業の誘致」が、第1位となっている。

#### 【全体】

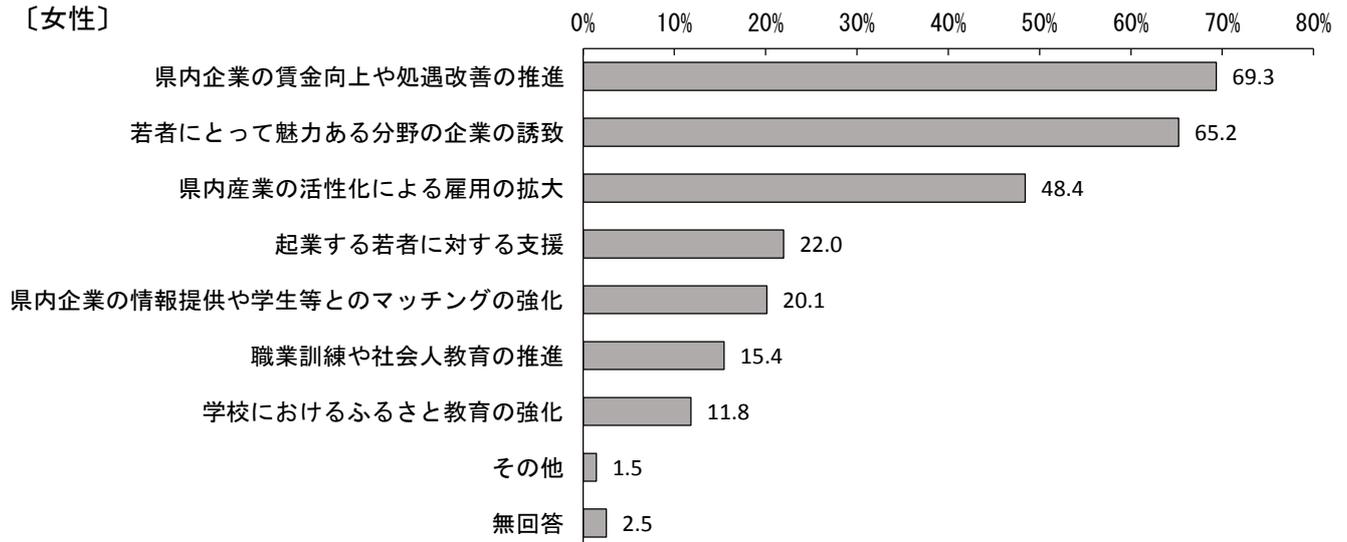


【性別】

〔男性〕

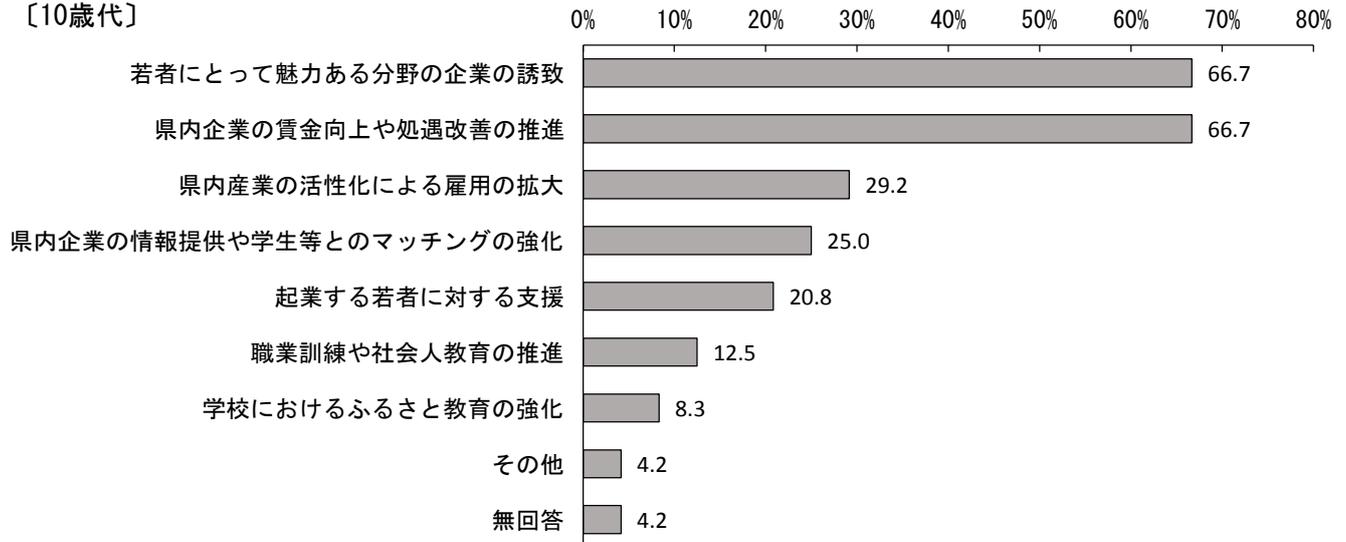


〔女性〕

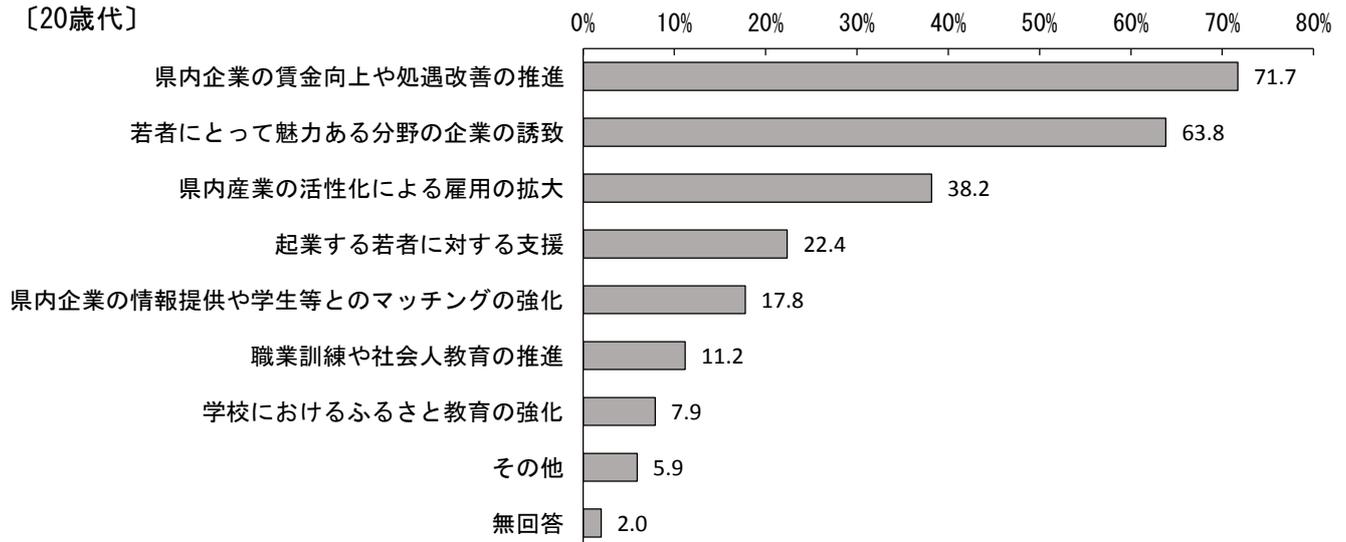


## 【年代別】

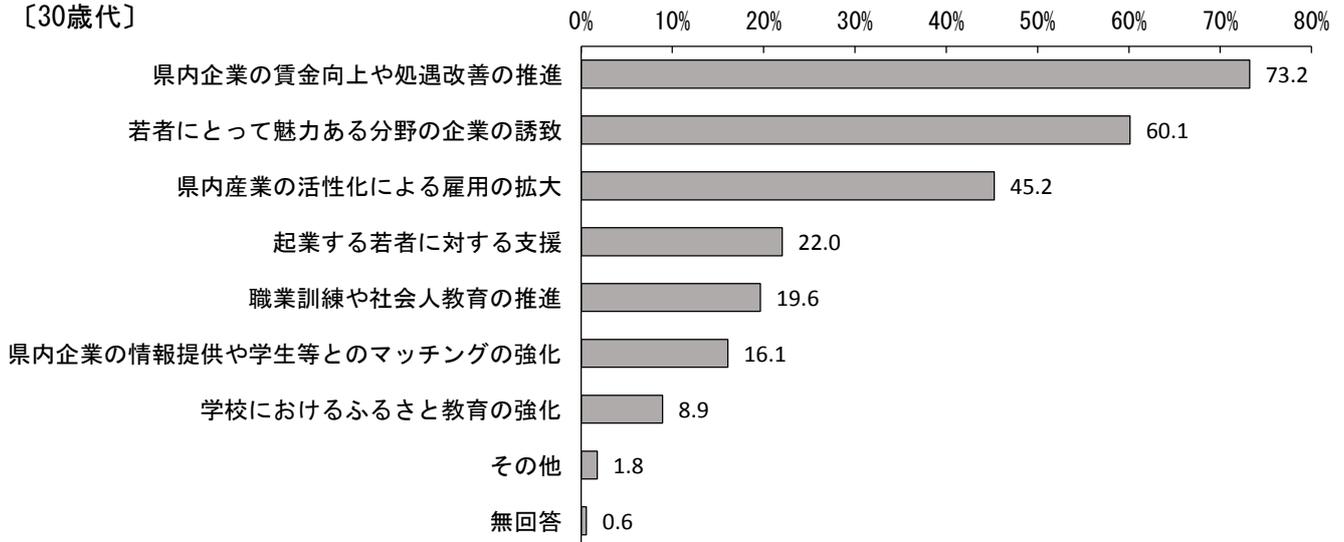
### 〔10歳代〕



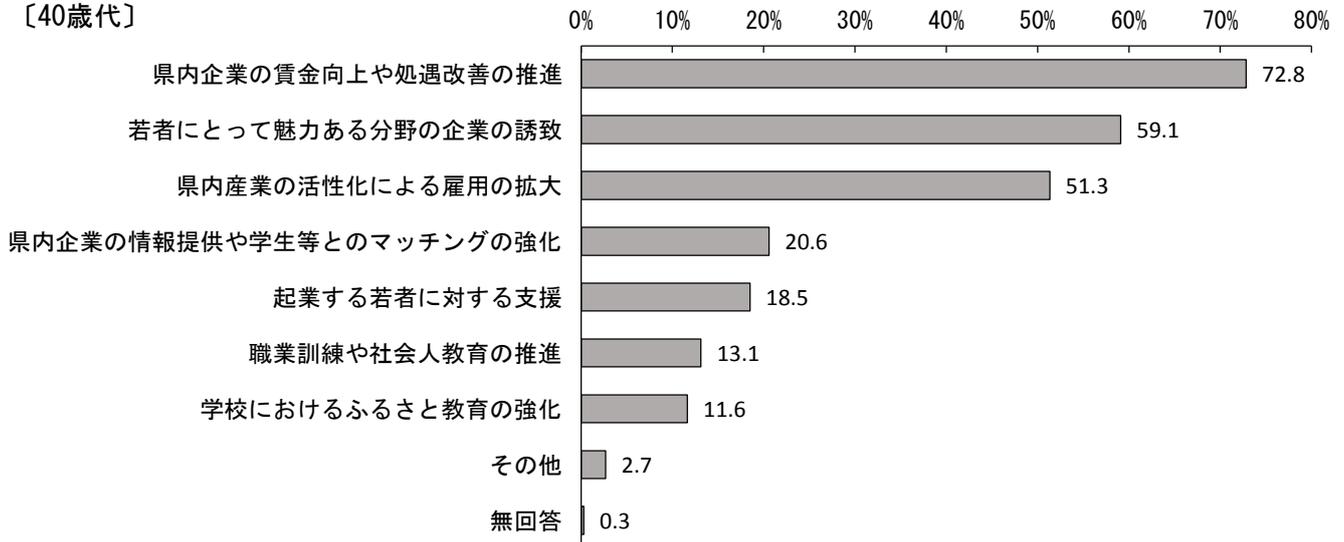
### 〔20歳代〕



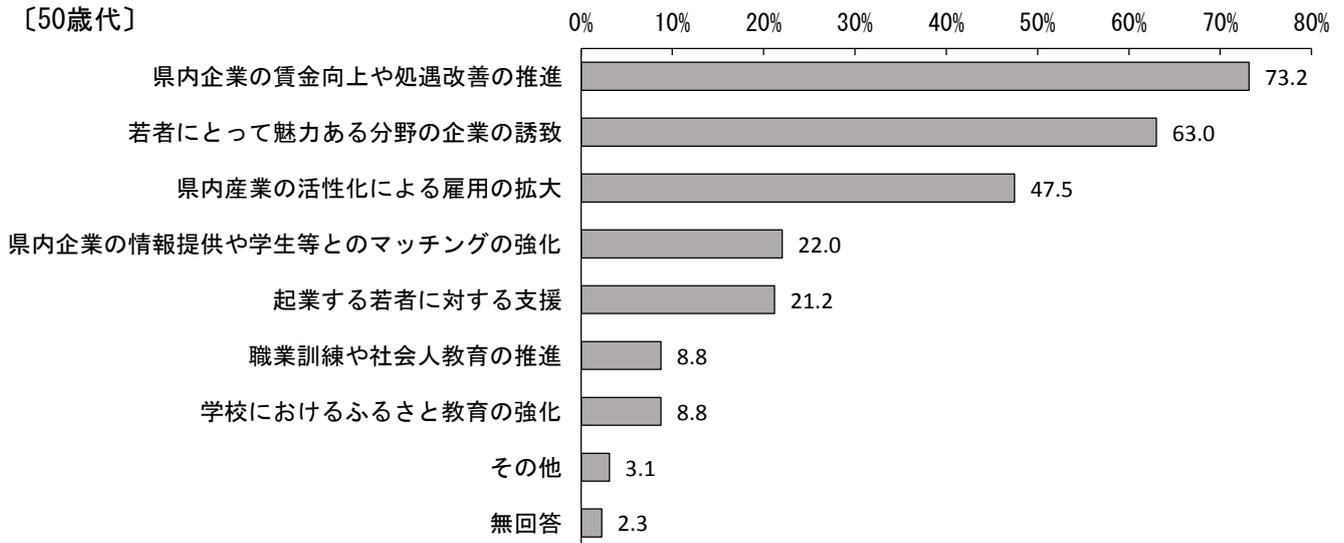
[30歳代]



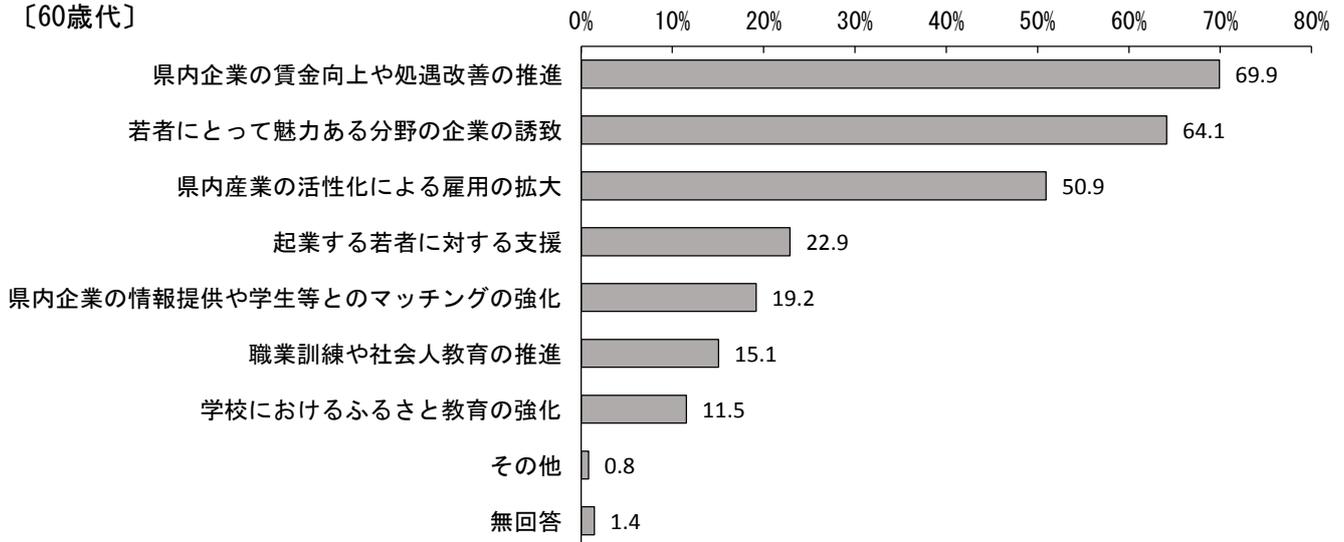
[40歳代]



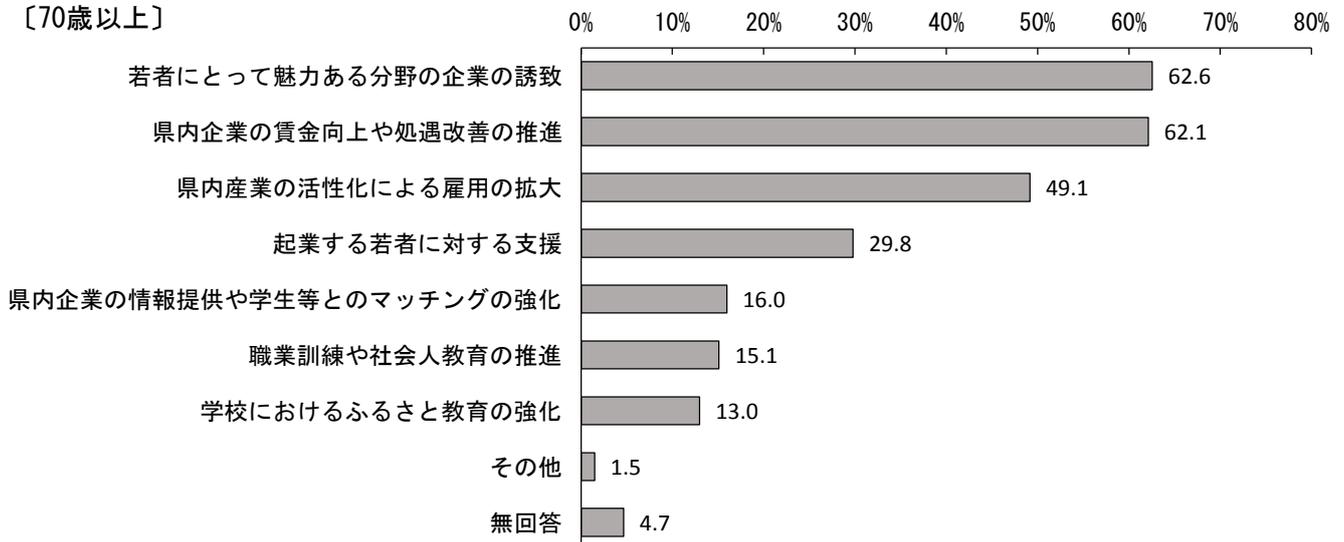
[50歳代]



〔60歳代〕



〔70歳以上〕



## 2 県の広報活動について

### (1) 県が発信する情報の取得方法（問4-44）

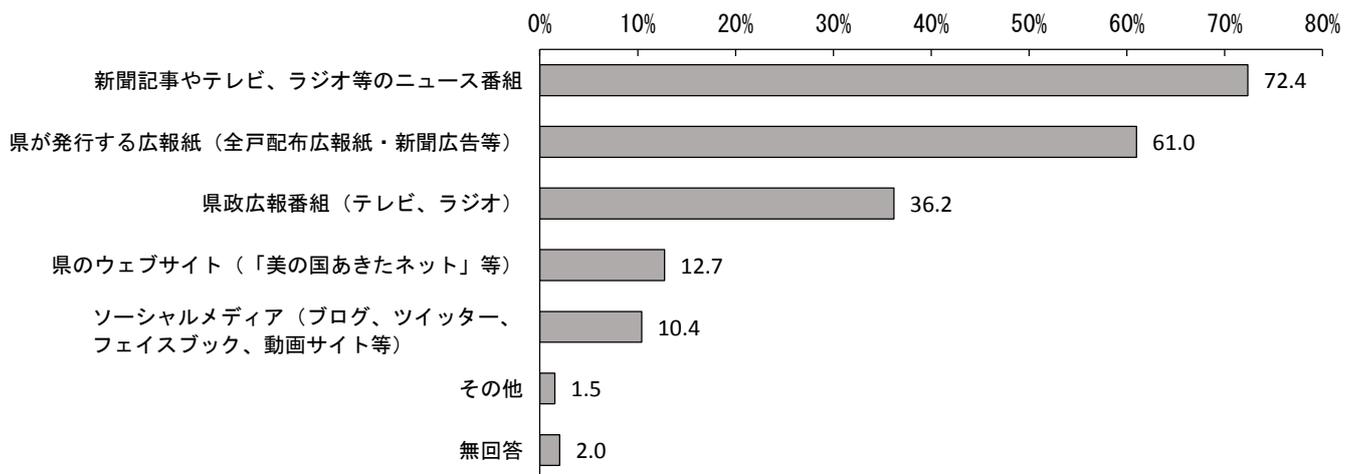
◆あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか。（〇はいくつでも）

全体では、「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が72.4%と最も高く、「県が発行する広報紙」の61.0%、「県政広報番組」の36.2%と続いている。「県のウェブサイト」は12.7%、「ソーシャルメディア」は10.4%である。

性別でも、上位3項目は全体と同様の傾向であるが、男性では「県のウェブサイト」の割合が女性より5.1ポイント高く、女性では「県が発行する広報紙」と「県政広報番組」の割合がそれぞれ約7ポイント男性より高くなっている。

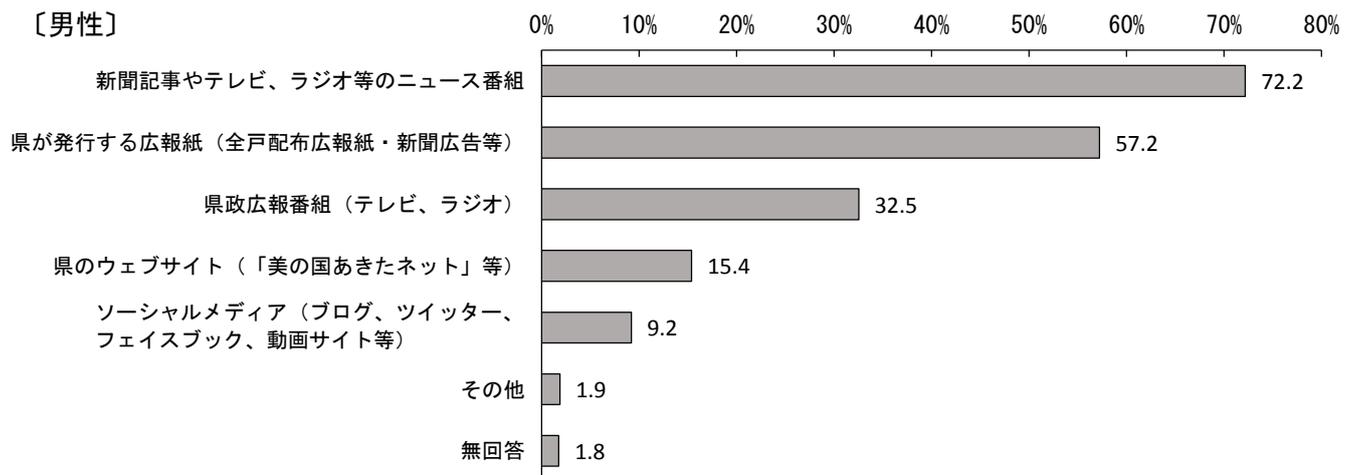
年代別では、10～30歳代の「ソーシャルメディア」の割合が他の年代に比べて高くなっており、60歳代以下の年代では、年代が上がるほど「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が高くなる傾向にある。

#### 【全体】

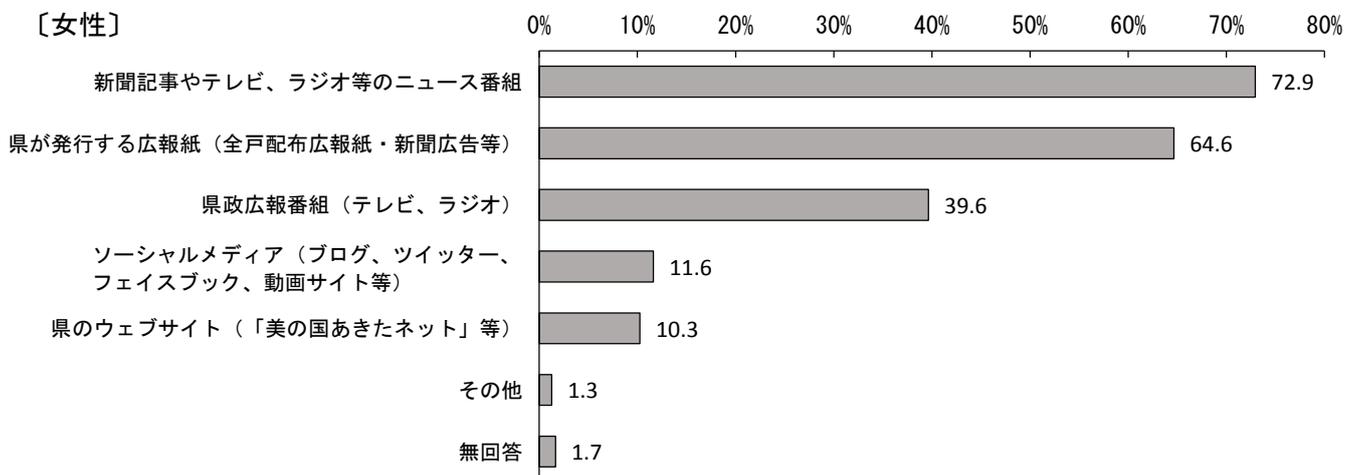


## 【性別】

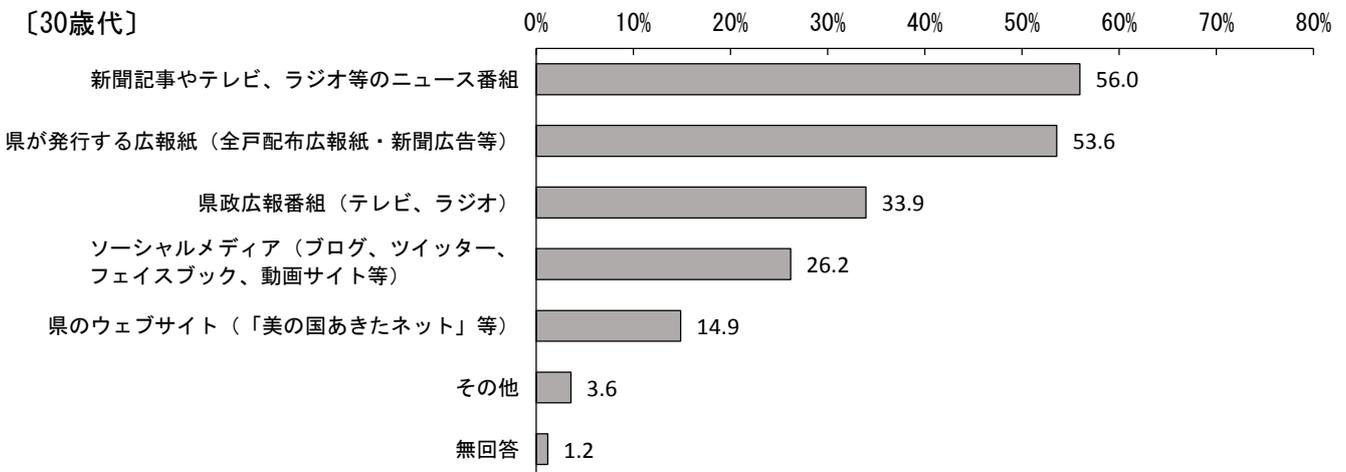
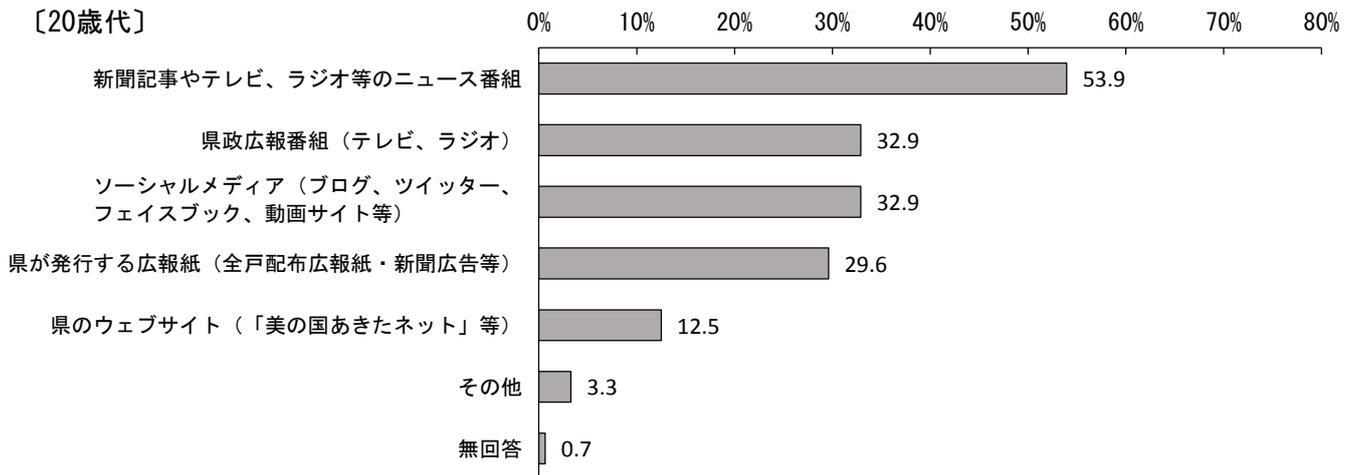
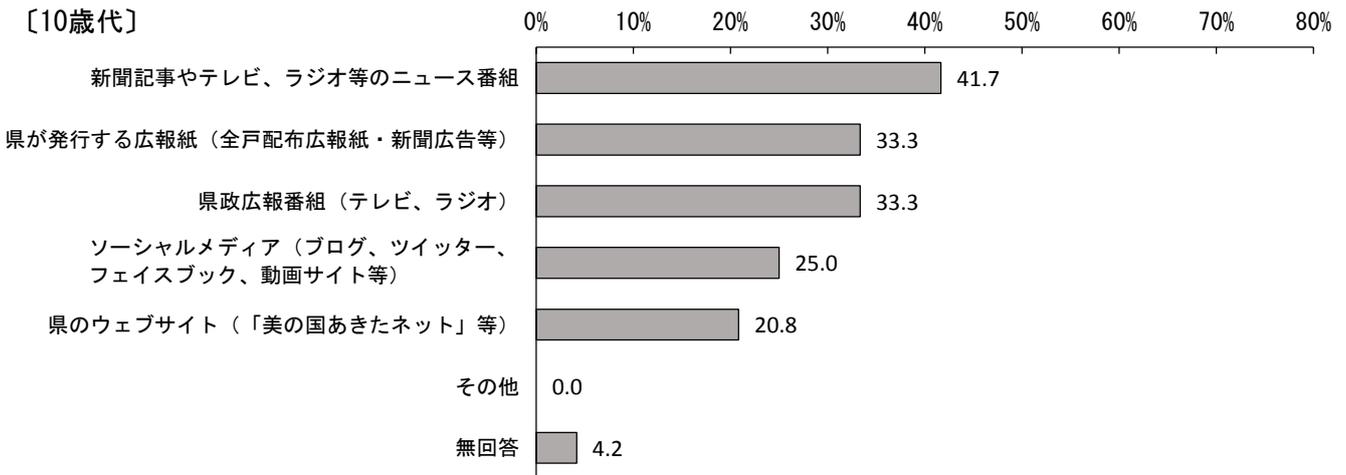
### 〔男性〕



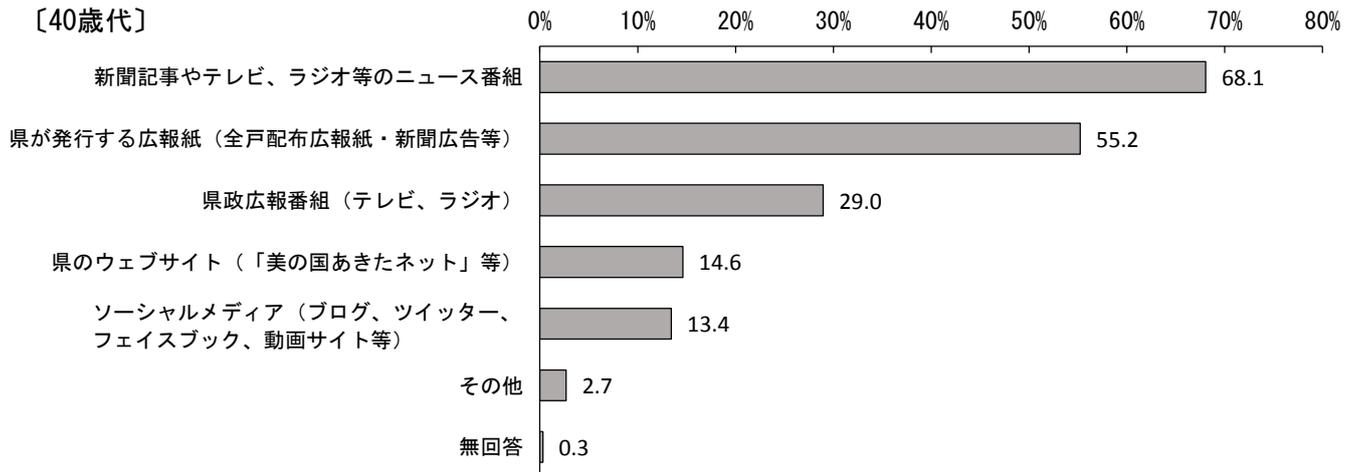
### 〔女性〕



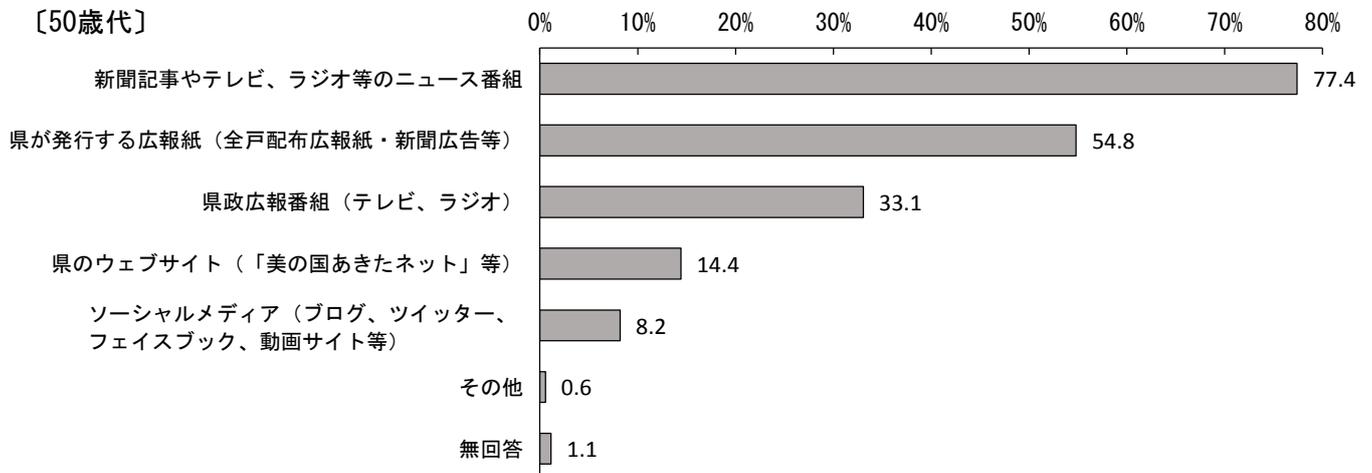
## 【年代別】



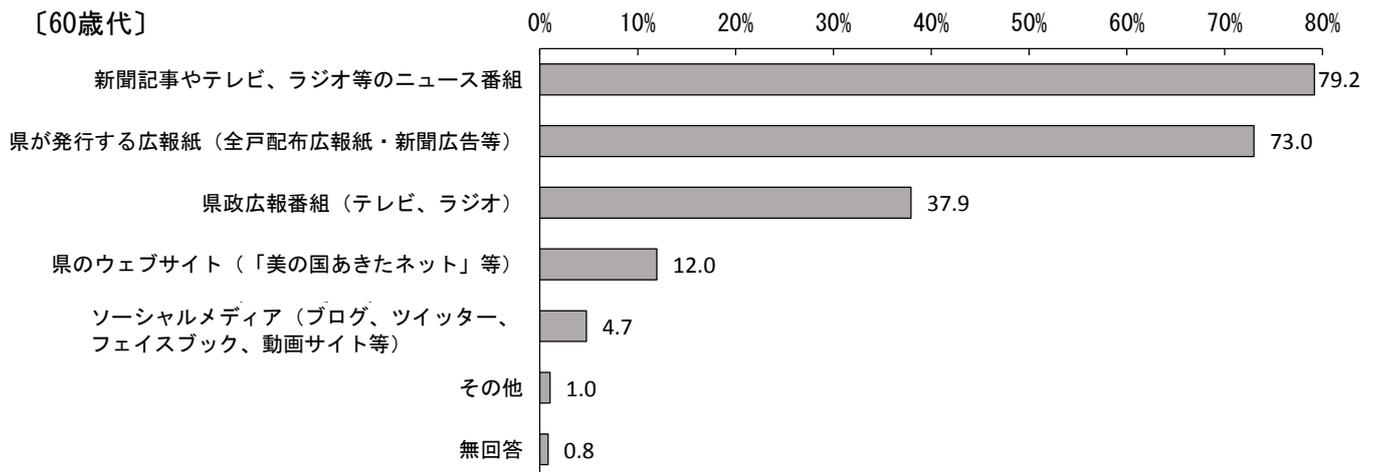
〔40歳代〕



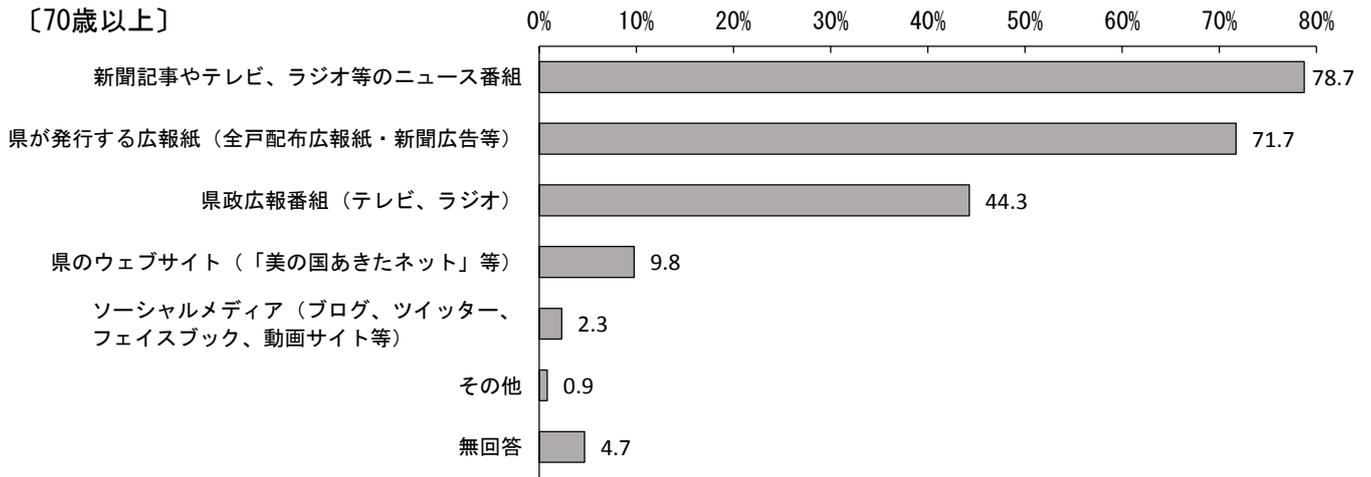
〔50歳代〕



〔60歳代〕



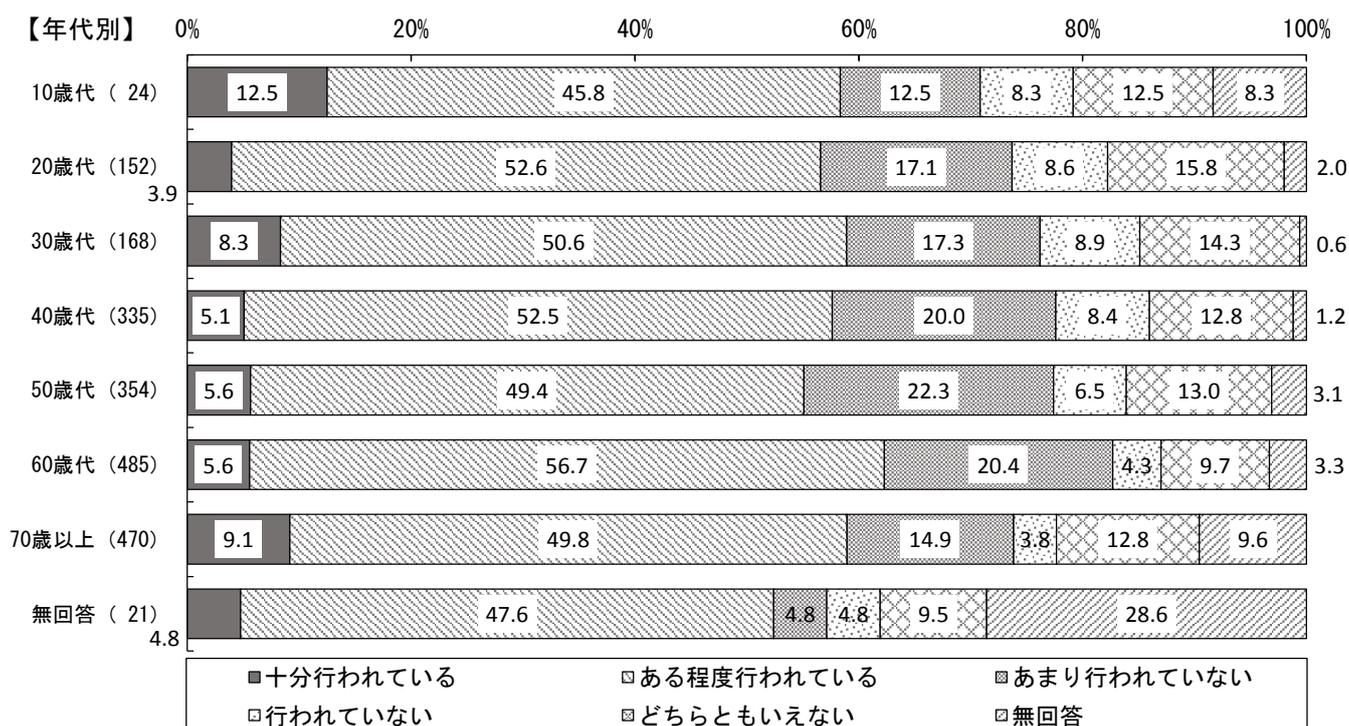
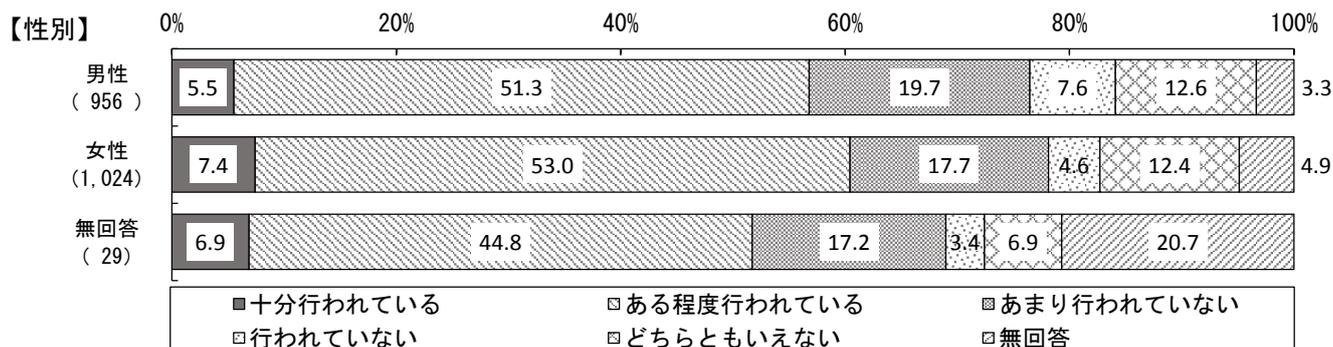
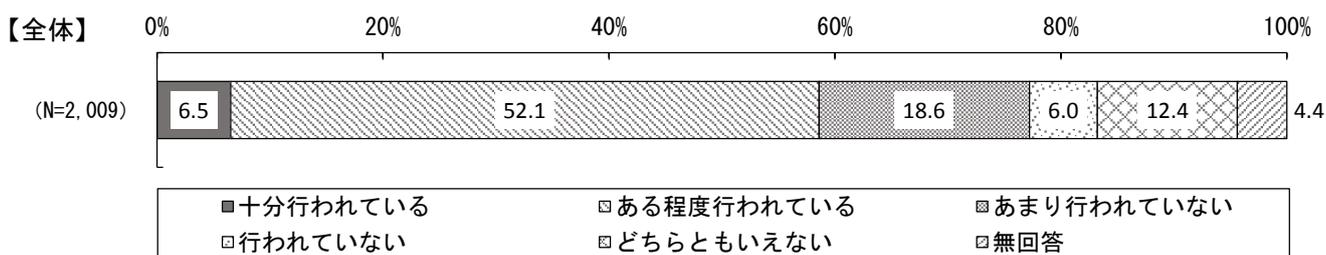
[70歳以上]



(2) 広報活動の現状評価 (問4-45)

◆あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか。(〇は1つ)

全体では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は58.6%となっている。性別では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は、女性が男性より高い。年代別では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は60歳代が62.3%で最も高く、他の年代は55.0~58.9%となっている。



### 3 家庭での防災活動について

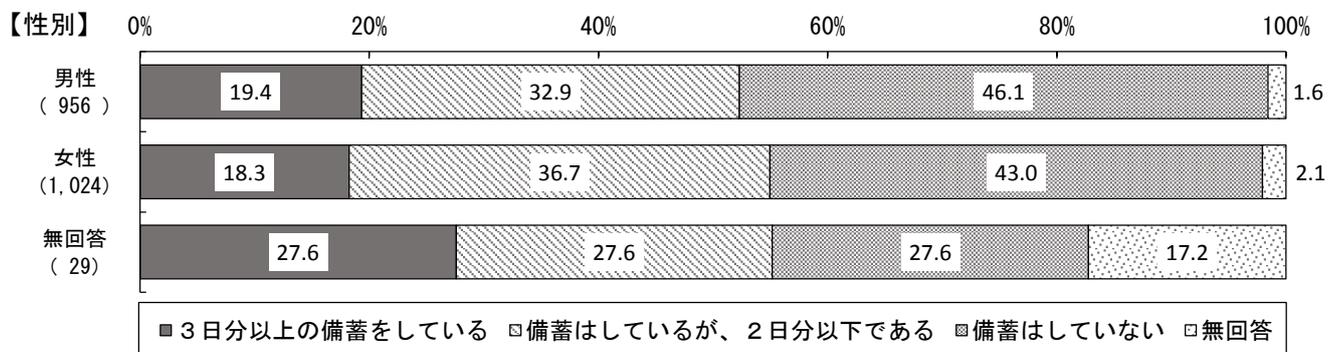
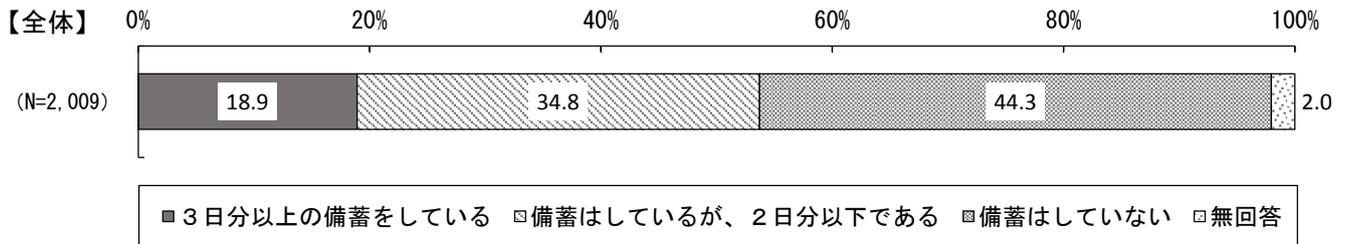
#### (1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況（問4-46）

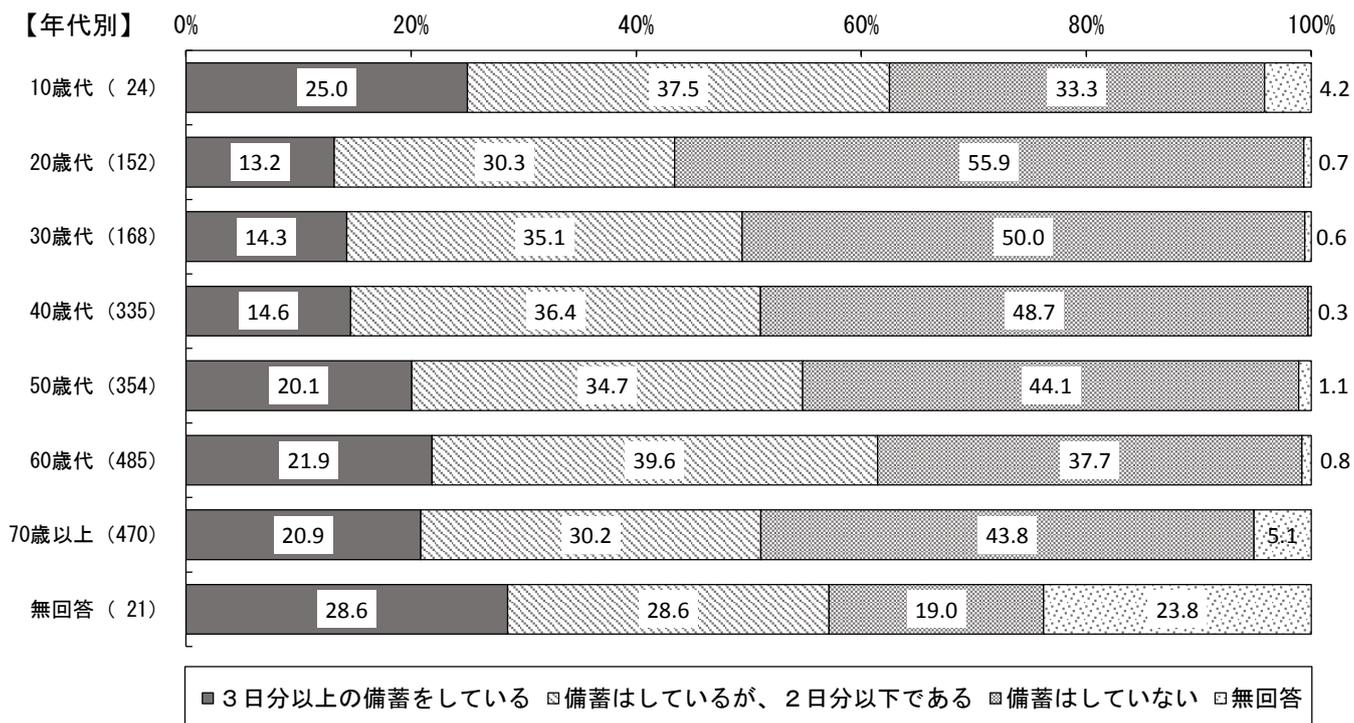
◆あなたの家庭では、災害時の備えとして、家族人数×3日分の水・食料等の備蓄（※）をしていますか。  
（○は1つ）

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管しており、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰などの飲料水、食料品なども含まれます。

全体では、「3日以上の備蓄をしている」の割合が18.9%、「備蓄はしているが、2日分以下である」の割合が34.8%で、それらの合計は53.7%と、「備蓄をしていない」の割合44.3%を上回る。

性別では、「3日以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」の合計は、女性が男性より高い。年代別では、「3日以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」の合計は、10歳代と60歳代で60%を超え、他の年代より高い。





(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況 (問4-47)

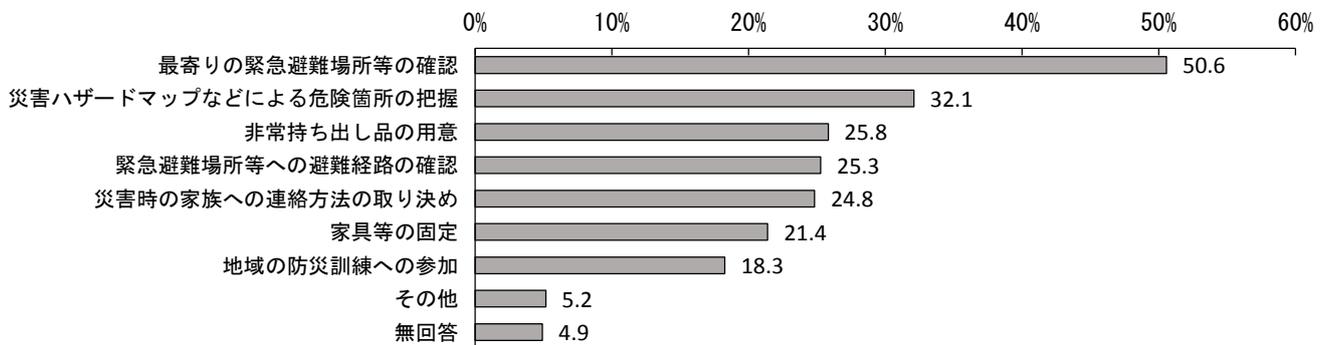
◆あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか。(〇はいくつでも)

全体では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」が50.6%と最も高く、「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」の32.1%、「非常持ち出し品の用意」の25.8%、「緊急避難場所等への避難経路の確認」の25.3%と続く。

性別では、「非常持ち出し品の用意」は女性が男性より7.5ポイント高い。

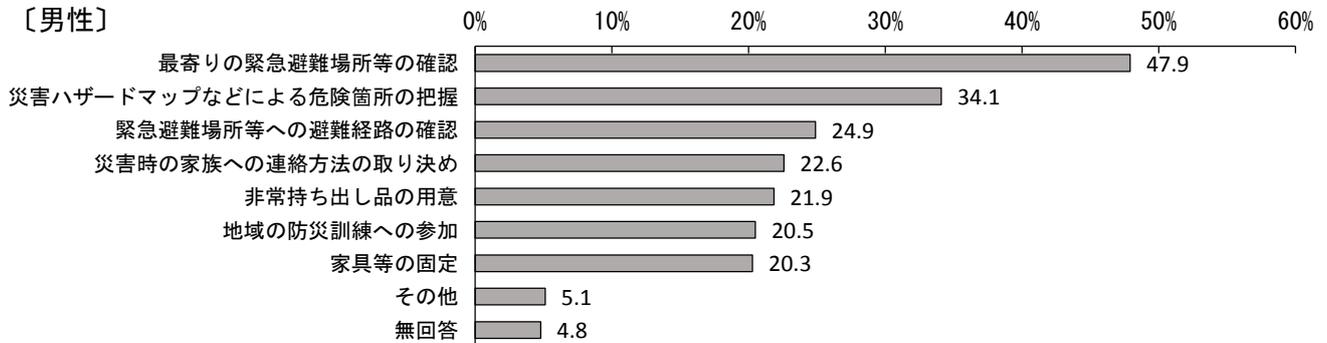
年齢別では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」は、20歳代では38.8%と、全体より11.8ポイント下回っている。また、「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」は、40歳代以上では3割を超えているのに対し、10、20歳代では20%を下回る。

【全体】

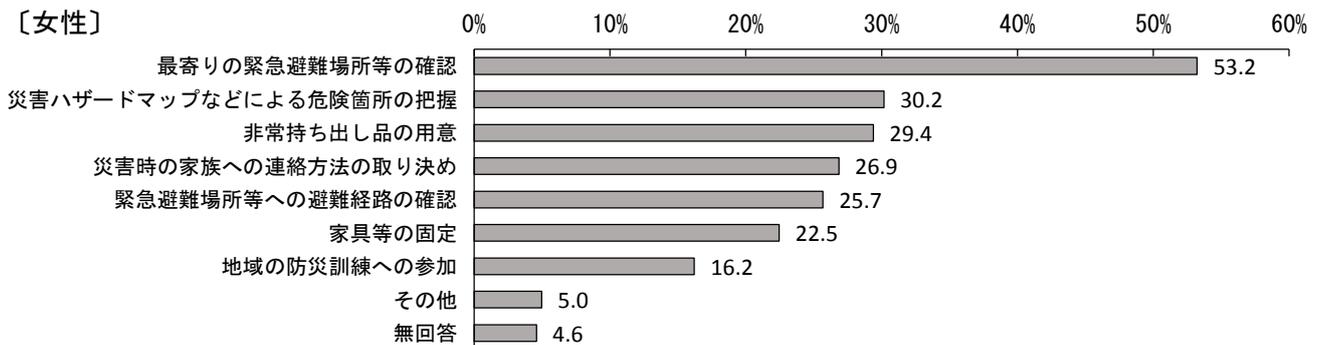


【性別】

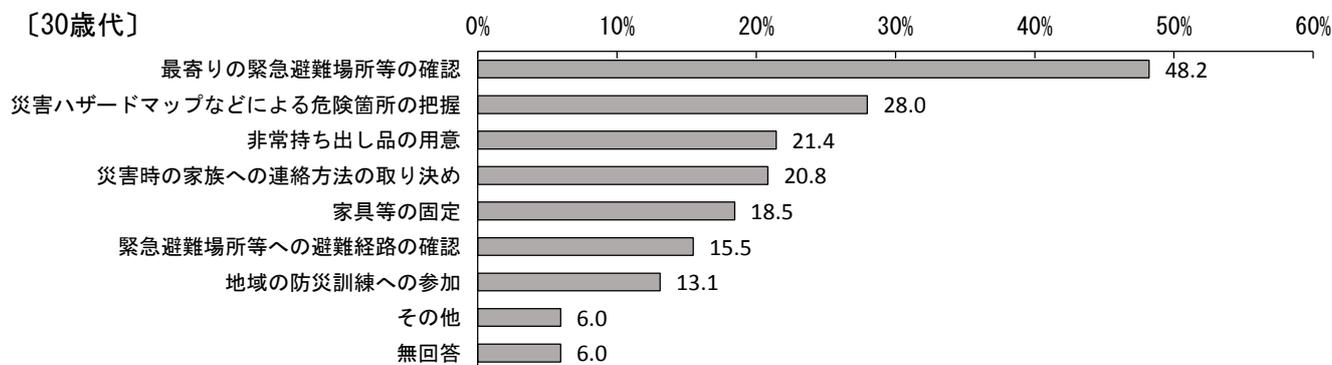
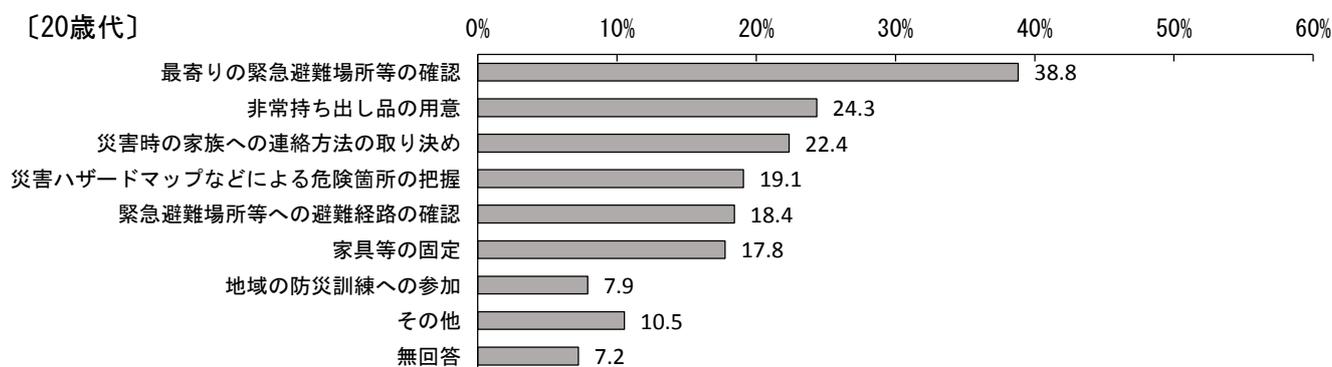
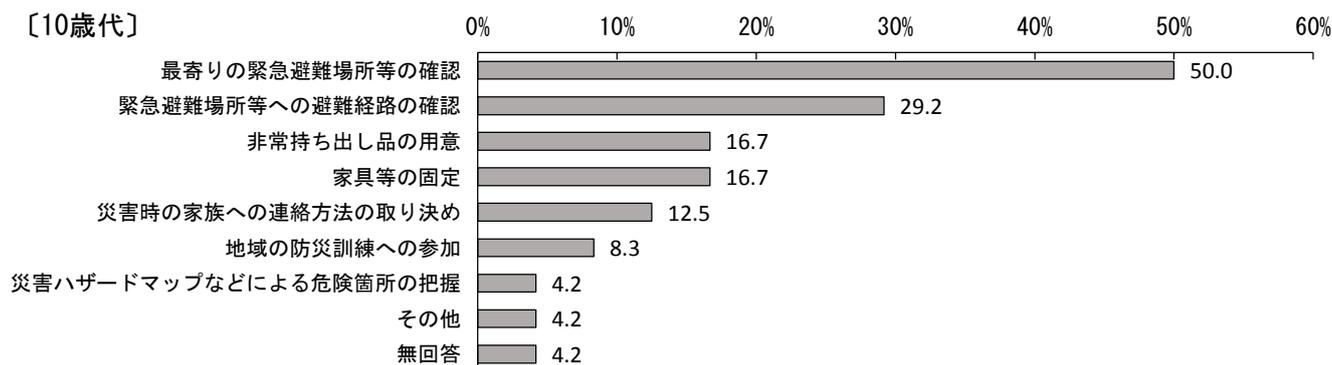
〔男性〕

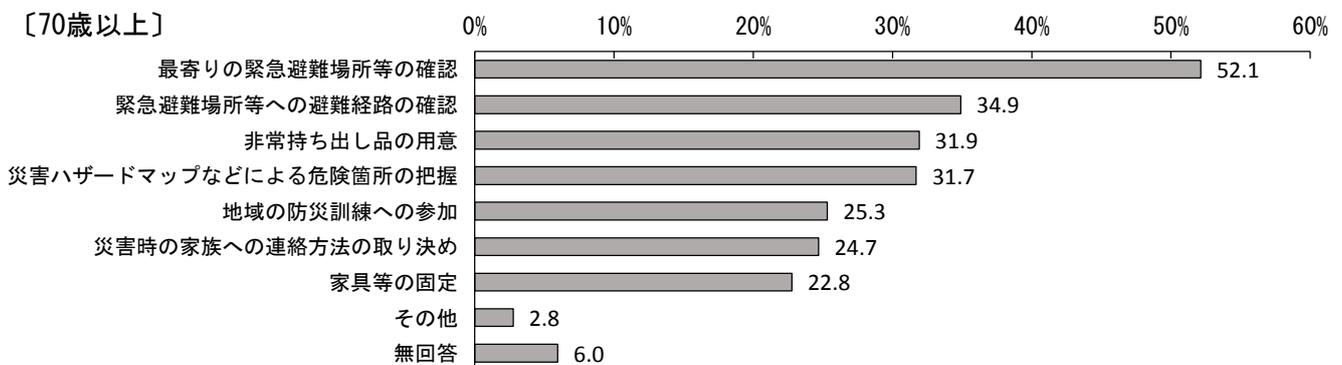
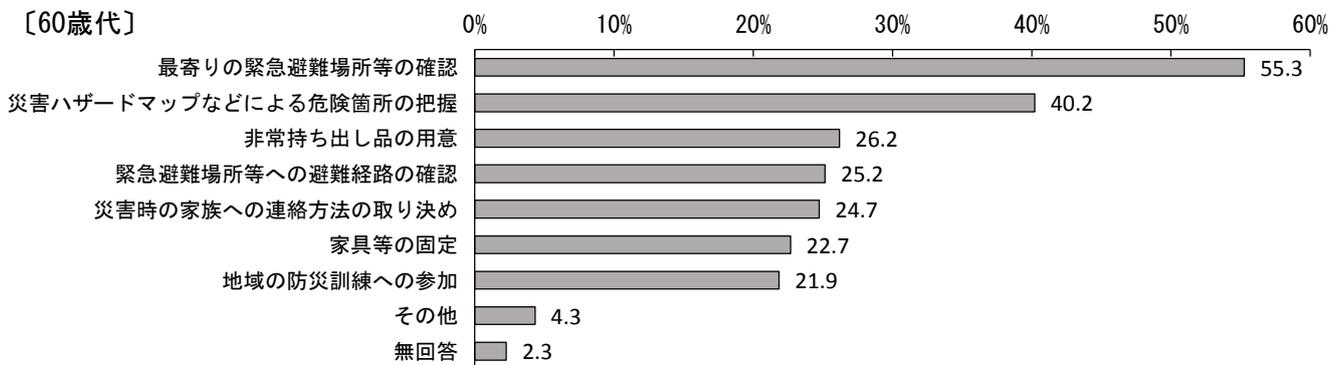
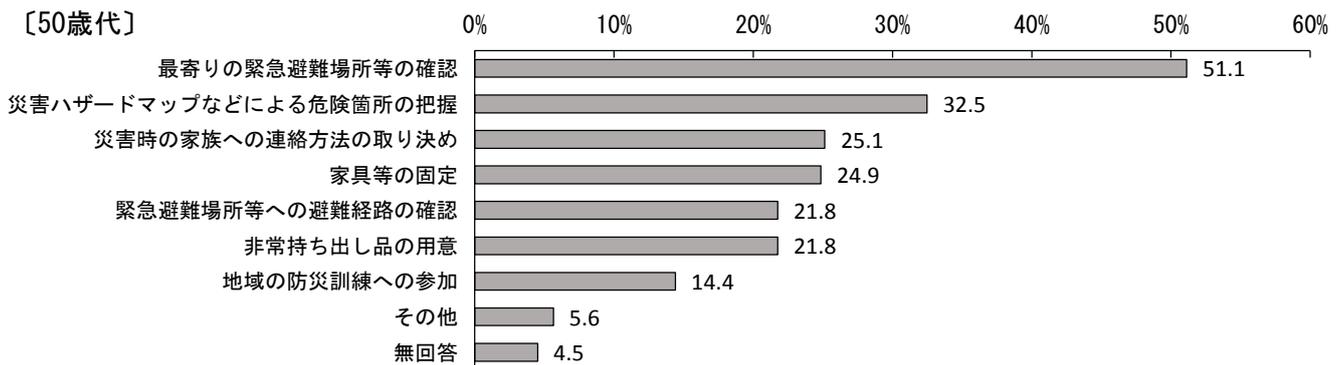
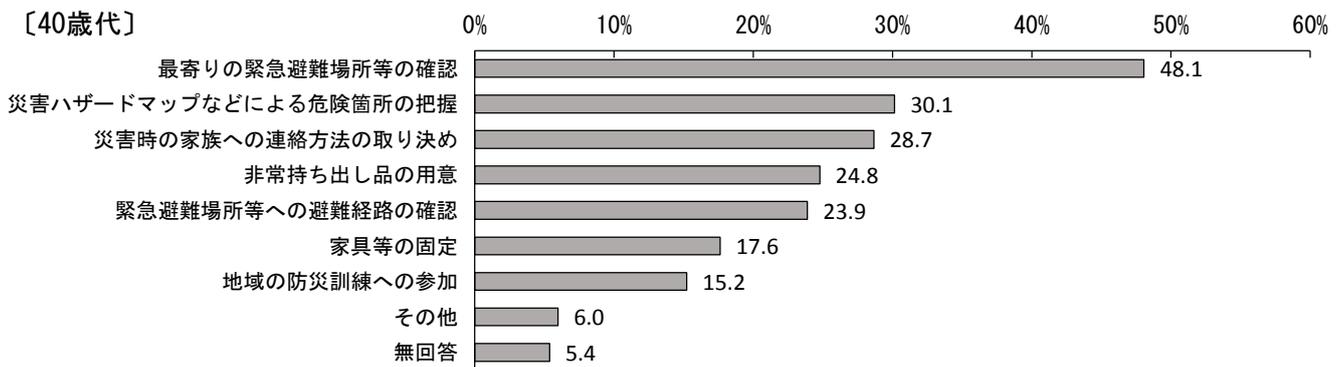


〔女性〕



【年代別】





## 4 読書活動について

### (1) 読書への興味 (問4-48)

#### ◆あなたは、読書(※)が好きですか。(○は1つ)

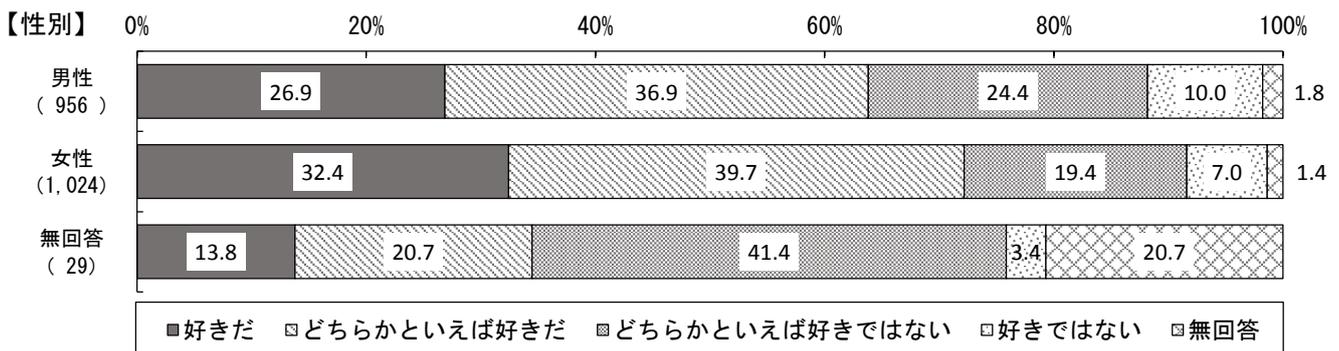
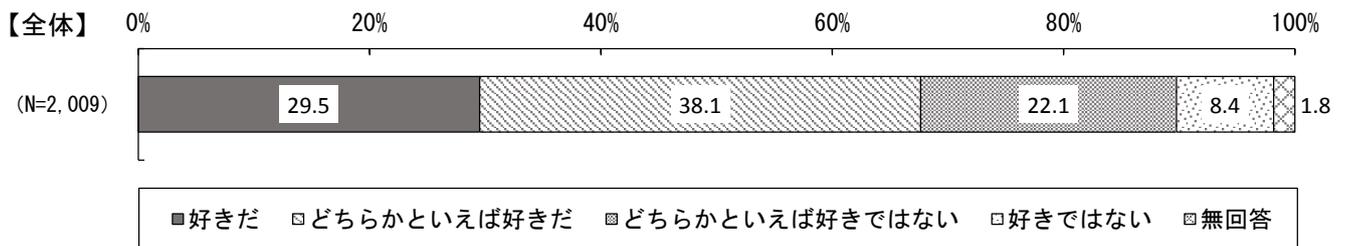
※読書には、本、雑誌、新聞、オーディオブック、電子書籍、子どもへの読み聞かせも含まれます。オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット等のことです。

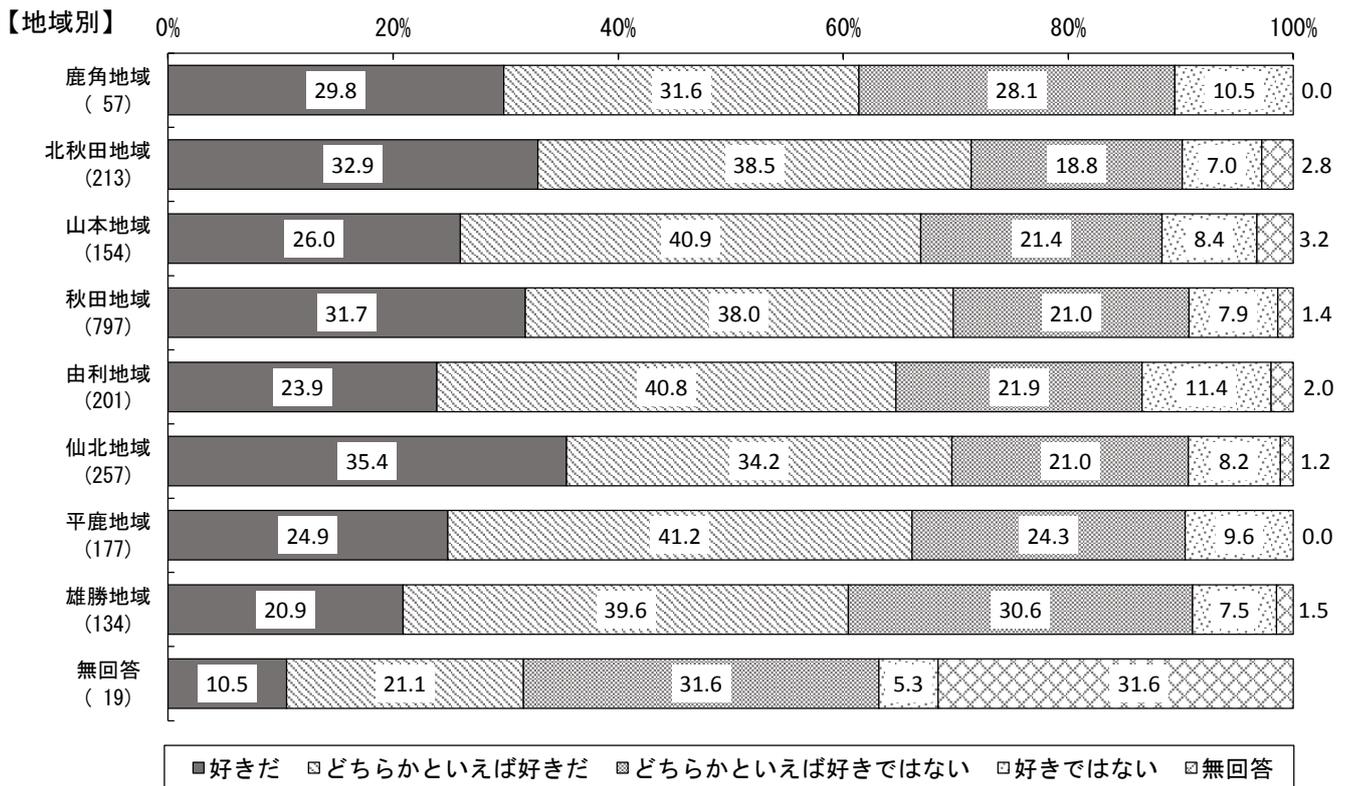
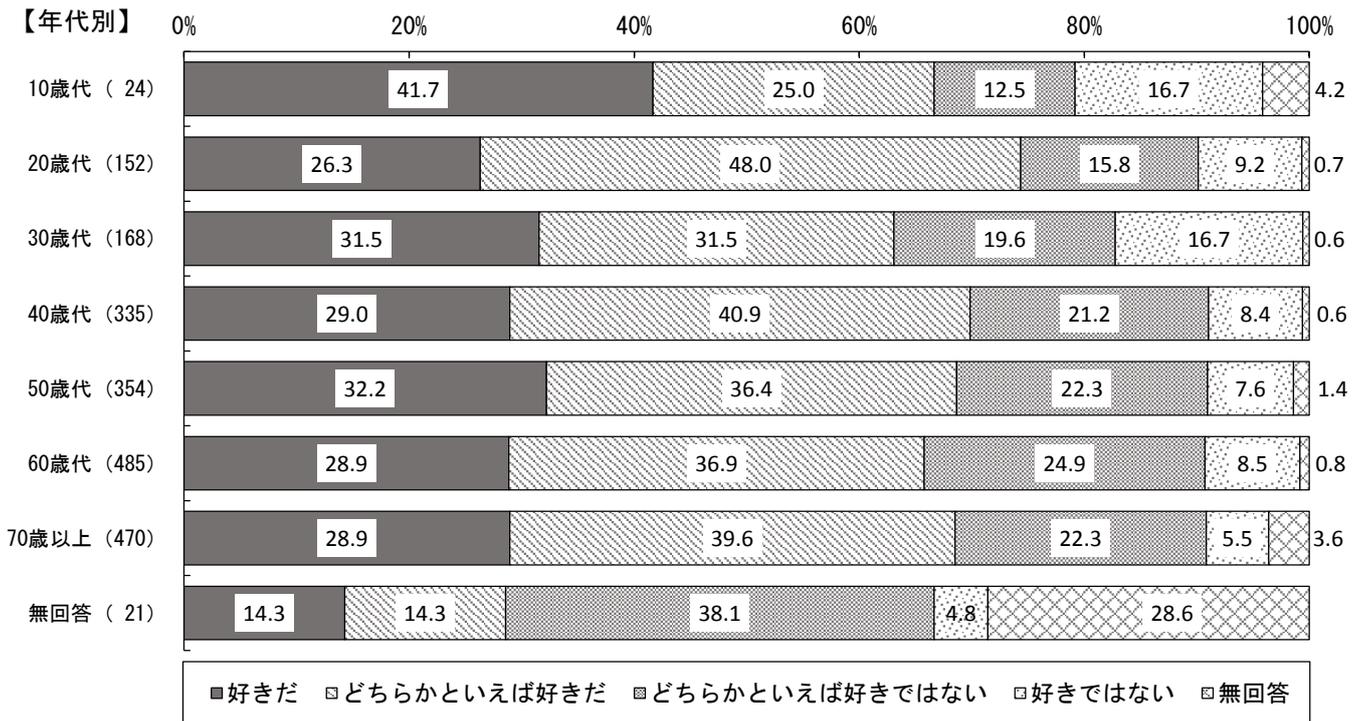
全体では、「好きだ」は29.5%で、「どちらかといえば好きだ」の38.1%と合わせると、好きと感じている人の割合は、67.6%となり、「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合30.5%を上回る。

性別では、「好きだ」と「どちらかといえば好きだ」を合わせた割合は、女性が男性より高い。

年代別では、「好きだ」と「どちらかといえば好きだ」を合わせた割合は20歳代が74.3%で最も高く、40歳代が69.9%でそれに続いている。最も低いのは30歳代で、63.0%となっている。

地域別では、「好きだ」と「どちらかといえば好きだ」を合わせた割合が最も高いのは、北秋田地域の71.4%で、秋田地域の69.7%、仙北地域の69.6%がそれに続いている。一方、最も低いのは雄勝地域で、60.5%となっている。





(2) 1日の平均読書時間（問4-49）

◆あなたは、平均どれくらい読書をしていますか。（○は1つ）

※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

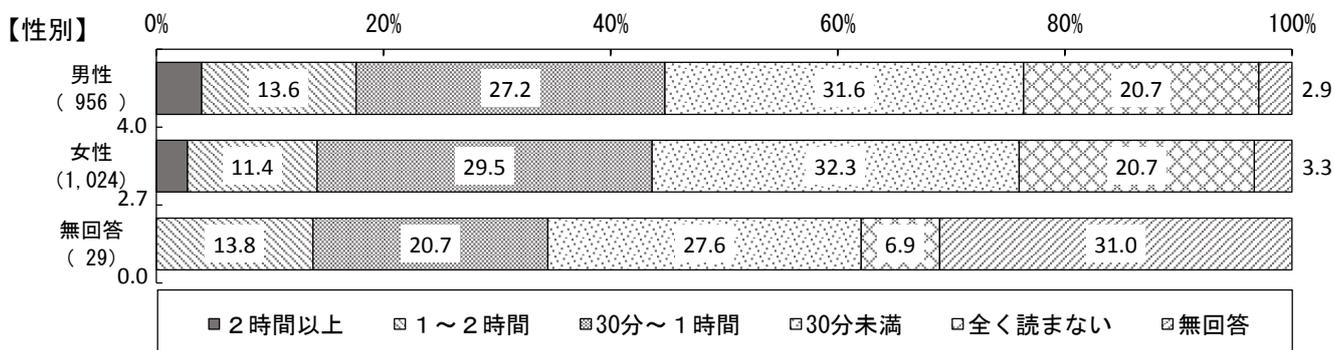
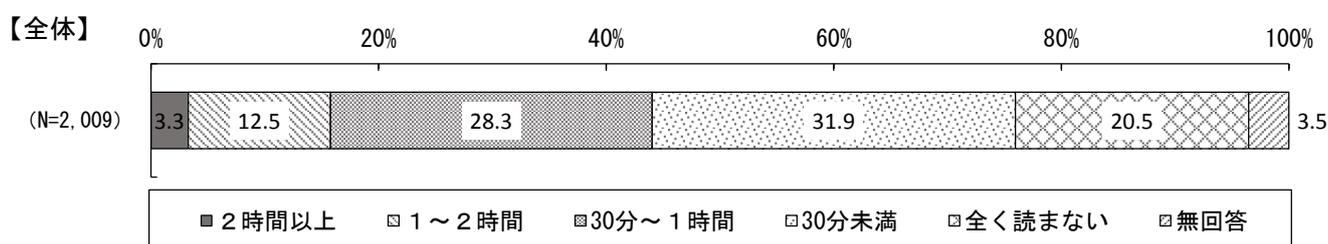
※休日まとめ読みの場合は、一日平均に置き換えてください。

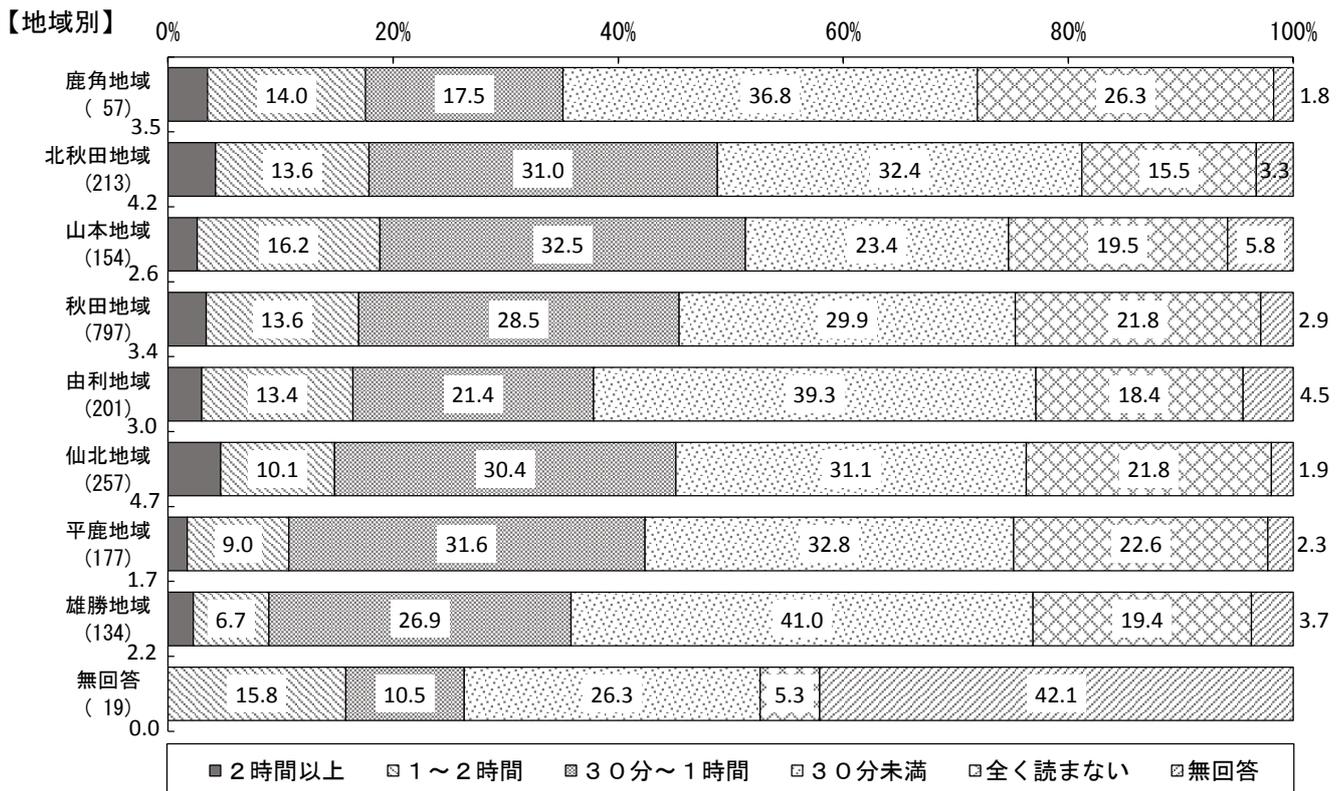
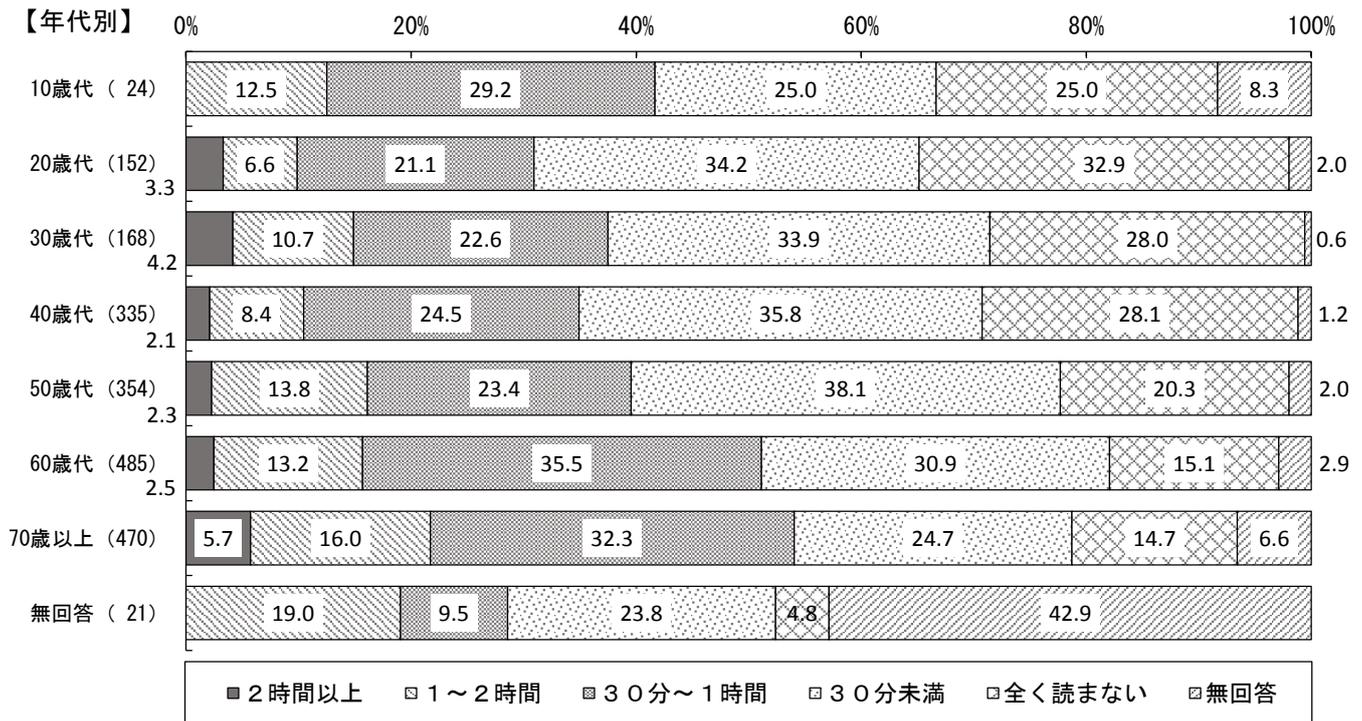
全体では、30分以上読書をする人の割合は44.1%であり、「全く読まない」は20.5%となっている。

性別では、30分以上読書をする人の割合は、男女で大きな違いがない。

年代別では、30分以上読書をする人の割合は、70歳以上が最も高く、20歳代が最も低い。「全く読まない」も70歳以上が最も低く、20歳代が最も高い。

地域別では、30分以上読書をする人の割合は、山本地域が最も高く、鹿角地域が最も低い。





### (3) 読書をしない理由 (問4-50)

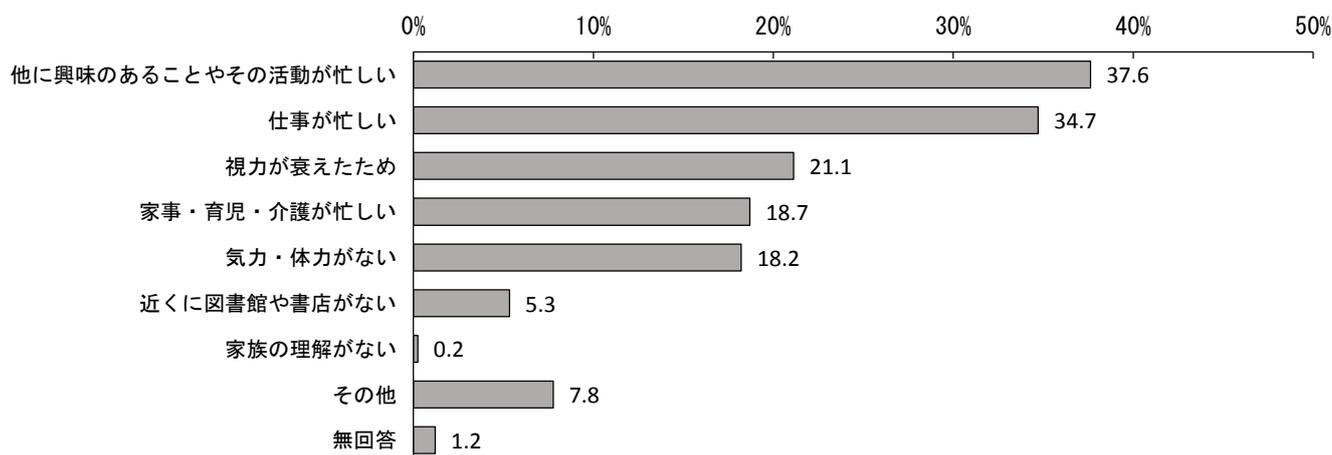
◆前の質問で「全く読まない」を選んだ方にお聞きします。あなたが読書をしない理由は何ですか。(〇は2つまで)

全体では、「他に興味のあることやその活動が忙しい」が37.6%で最も高く、「仕事が忙しい」が34.7%、「視力が衰えたため」が21.1%、「家事・育児・介護が忙しい」が18.7%、「気力・体力がない」が18.2%と続いた。

性別では、男性は「他に興味があることやその活動が忙しい」が最も高く、「仕事が忙しい」がそれに続く。女性は「仕事が忙しい」が最も高く、ほぼ同じ割合で「他に興味のあることやその活動が忙しい」、「視力が衰えたため」、「家事・育児・介護が忙しい」がそれに続く。

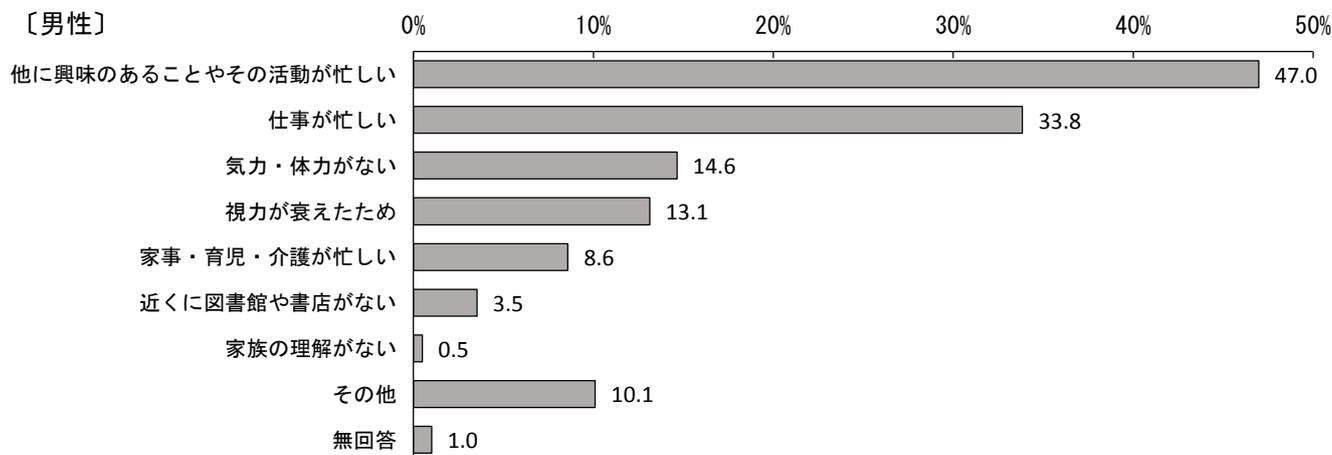
年代別では、30～50歳代では「仕事が忙しい」が最も高く、70歳以上では「視力が衰えたため」が53.6%で最も高い。

#### 【全体】

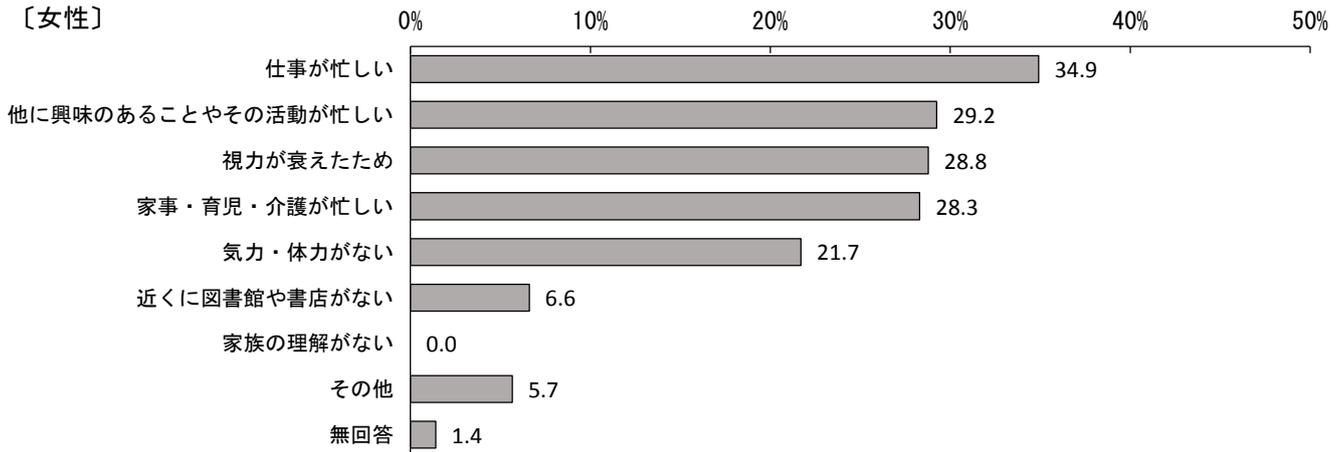


#### 【性別】

##### 〔男性〕

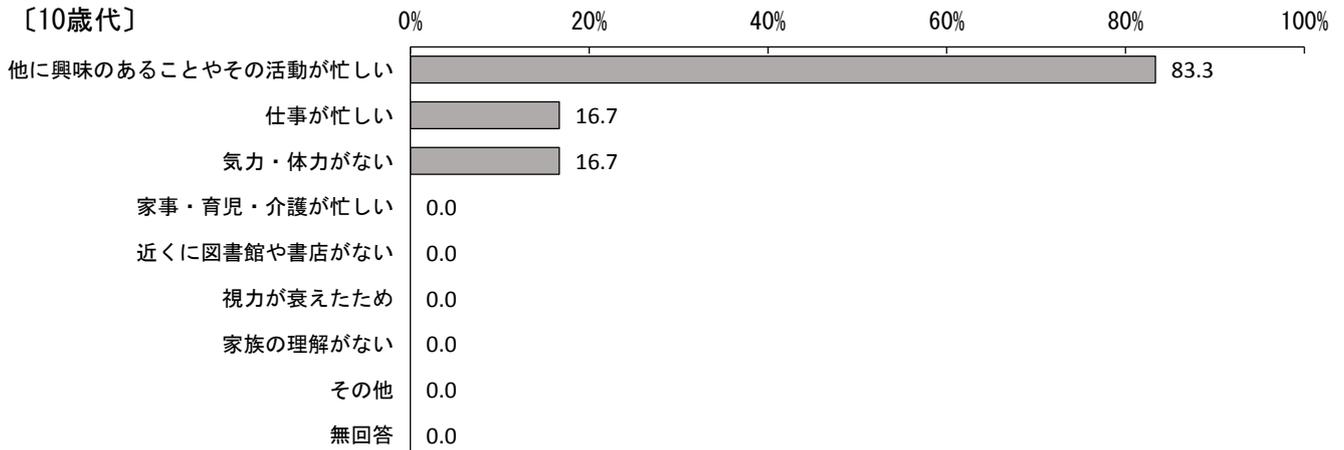


〔女性〕

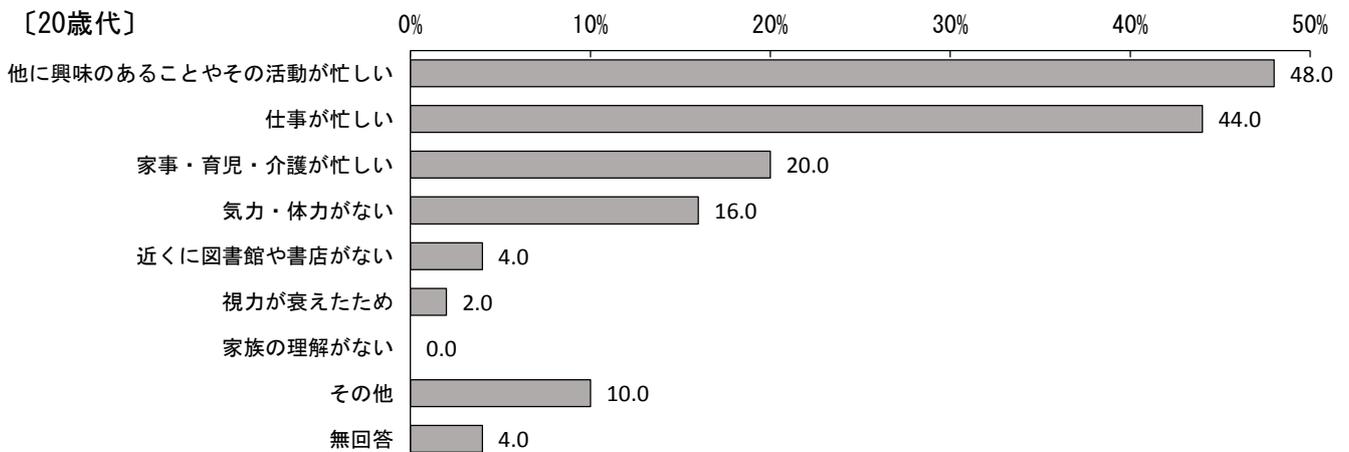


【年代別】

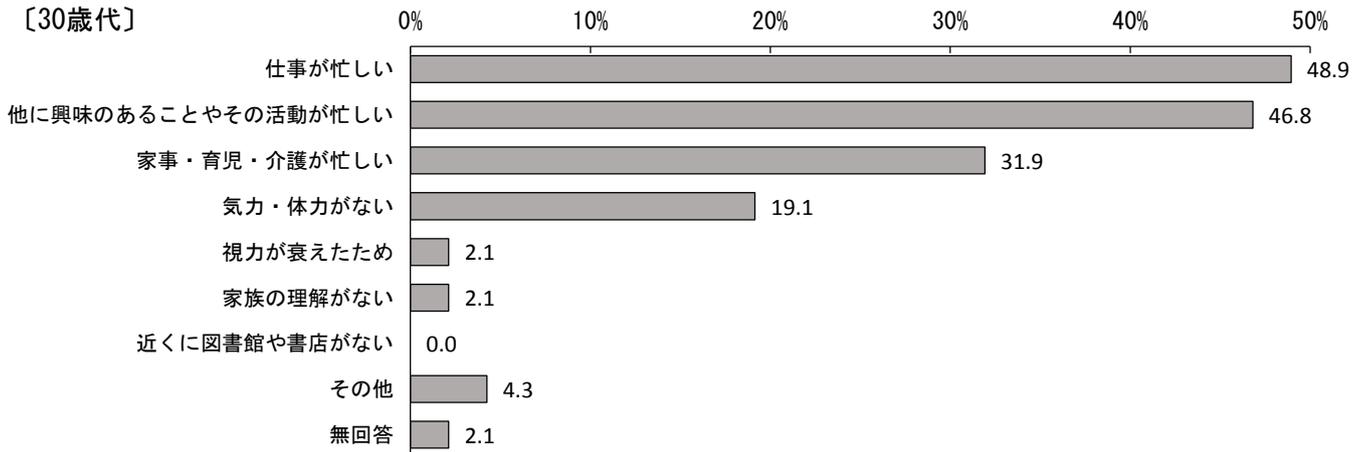
〔10歳代〕



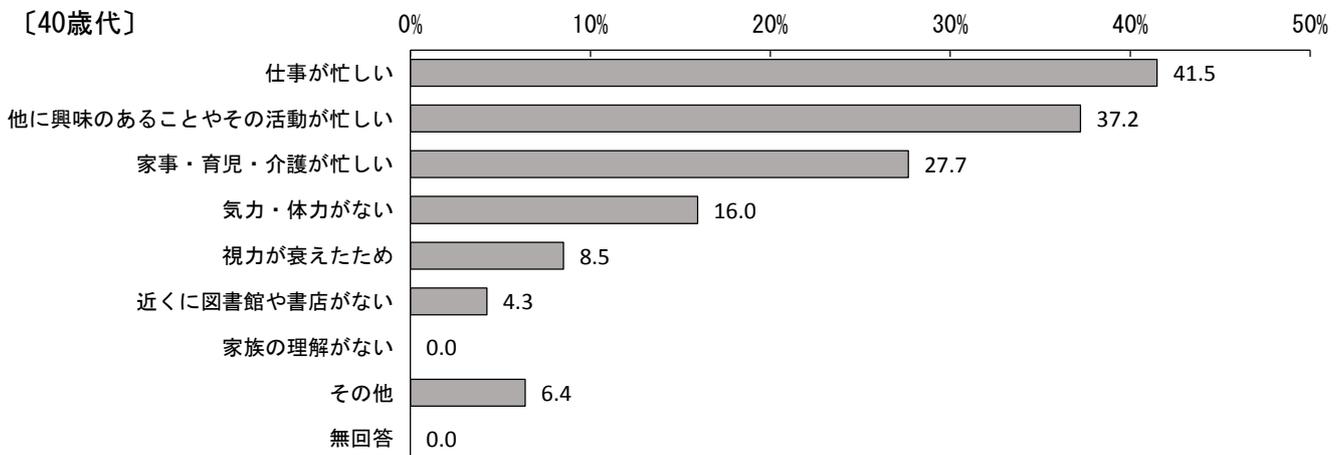
〔20歳代〕



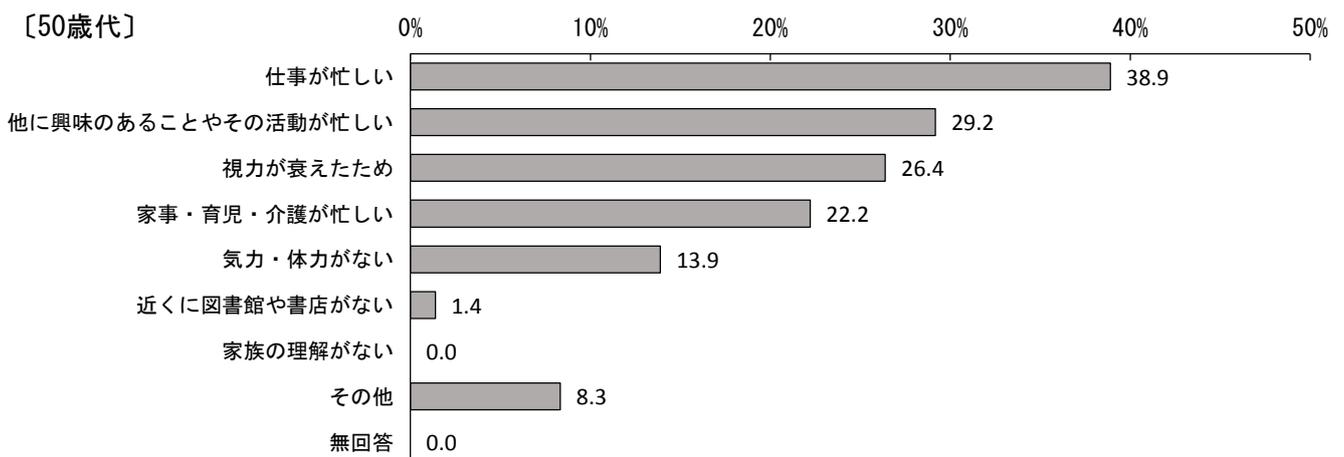
[30歳代]

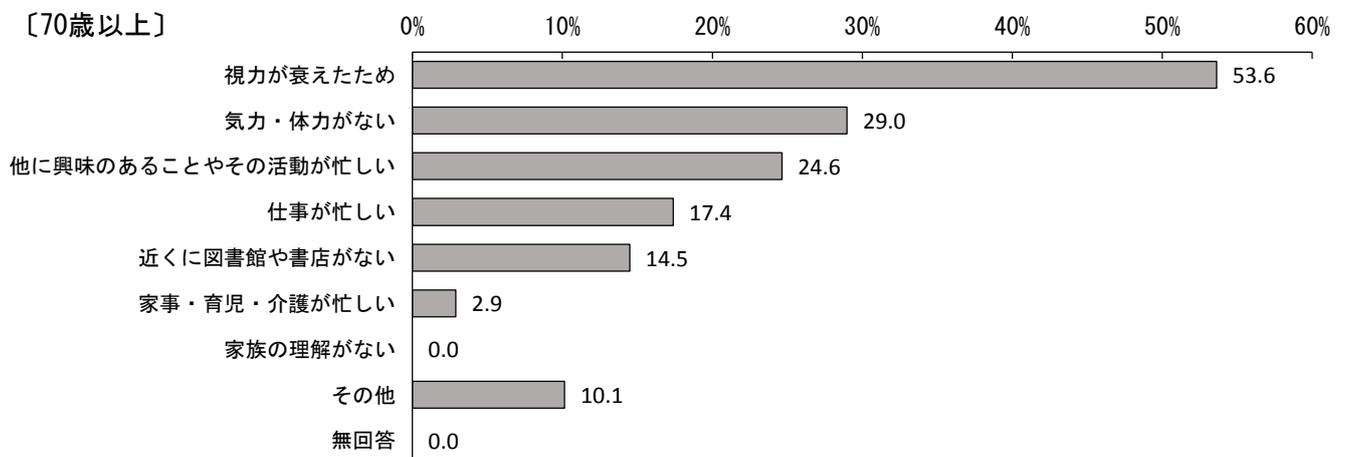
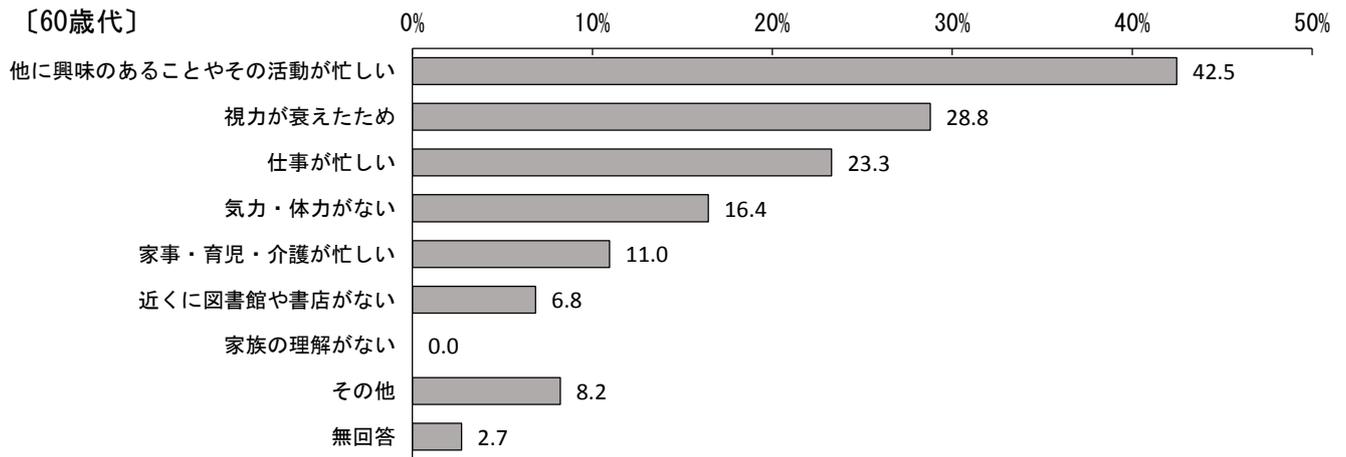


[40歳代]



[50歳代]





## 5 男女共同参画について

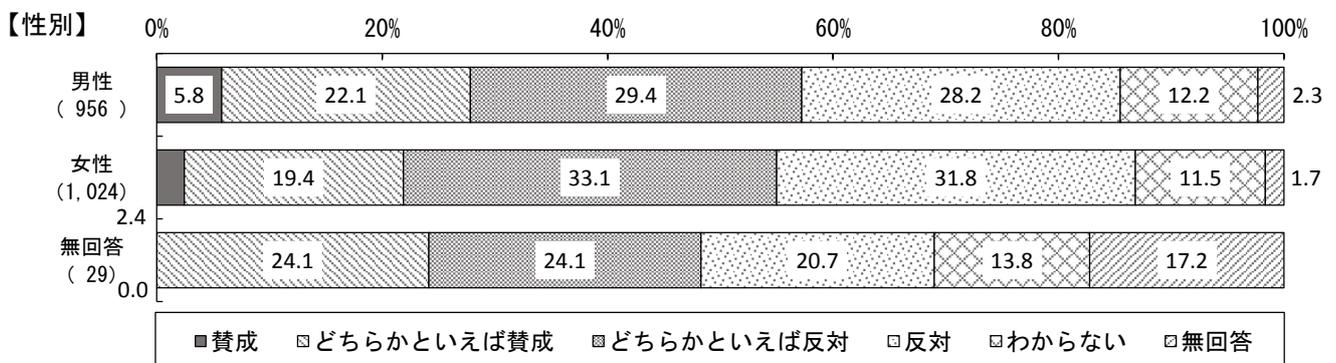
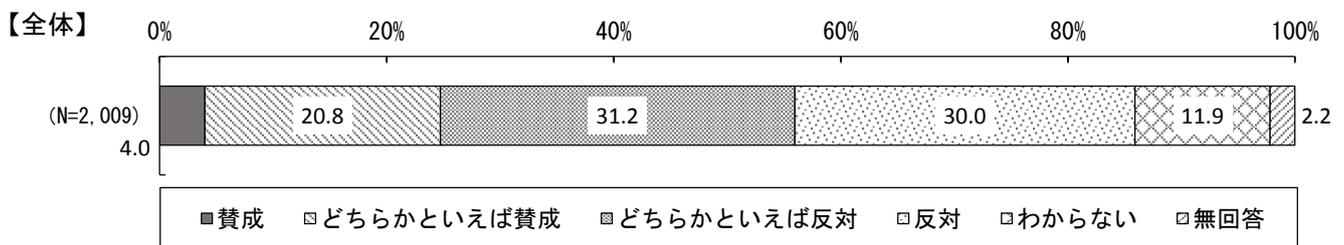
### 「男は仕事、女は家庭」の考え方（問4-51）

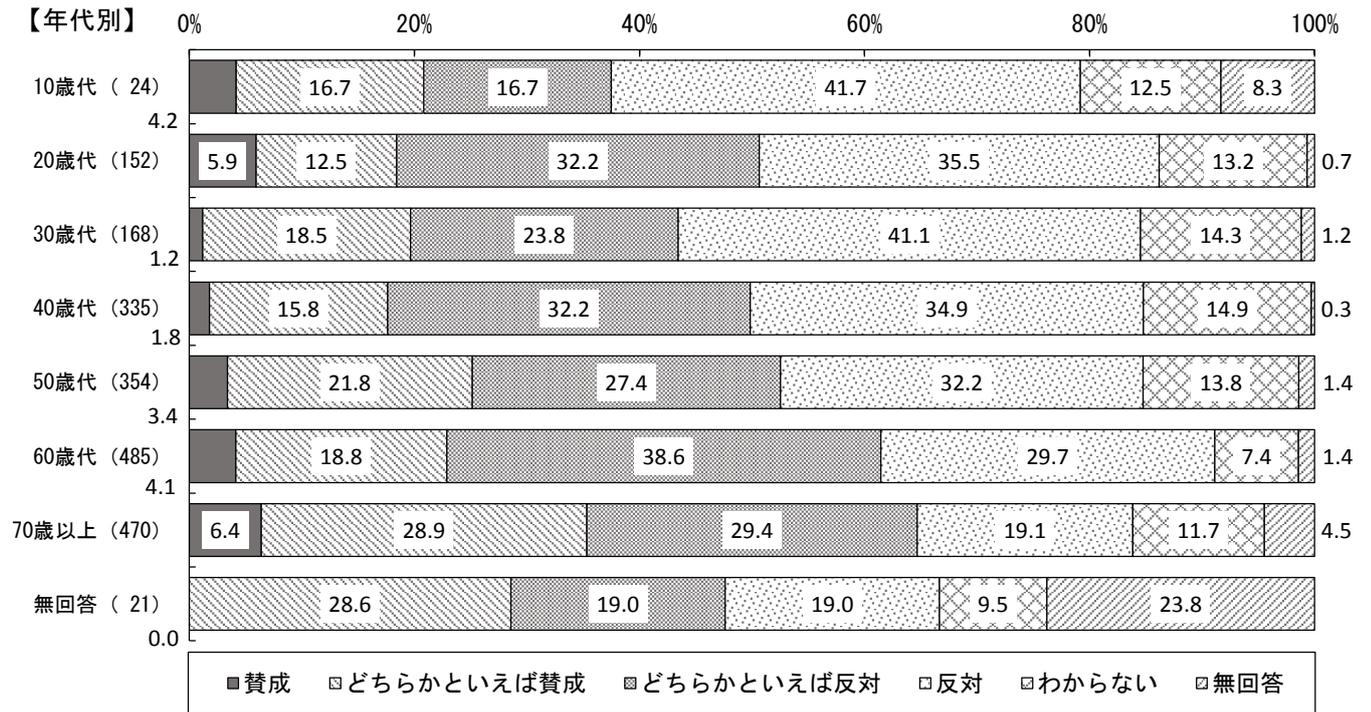
- ◆「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか。  
（○は1つ）

全体では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合 24.8%は、「反対」と「どちらかといえ  
ば反対」を合わせた割合 61.2%よりも低い。

性別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、男性が女性より高く、「反対」と「ど  
ちらかといえば反対」を合わせた割合は、女性が男性より高い。

年代別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、70歳以上が 35.3%で最も高い。「反  
対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、60歳代が 68.3%で最も高い。





## 6 子育て環境づくりについて

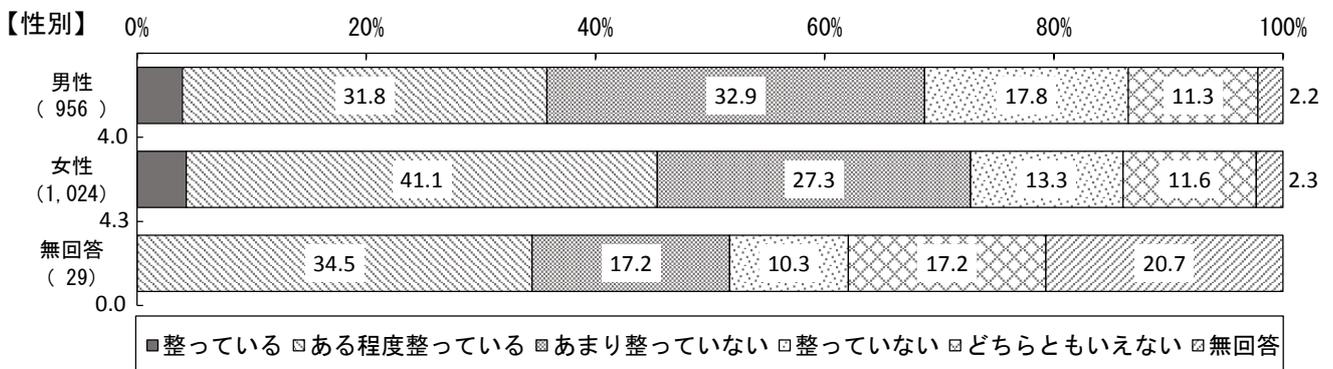
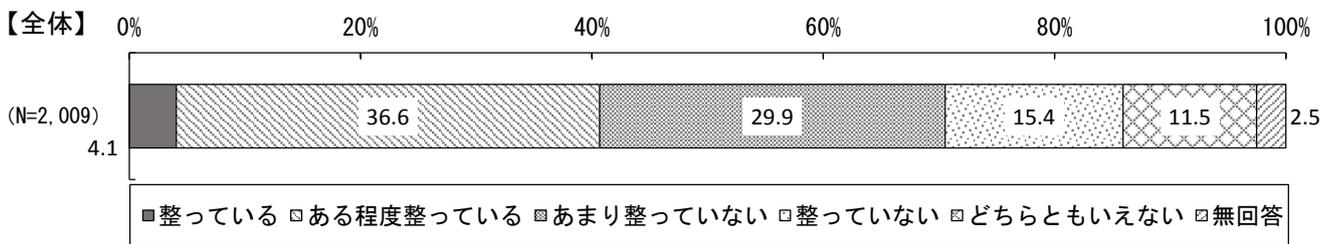
### (1) 子育て環境の整備状況（問4-52）

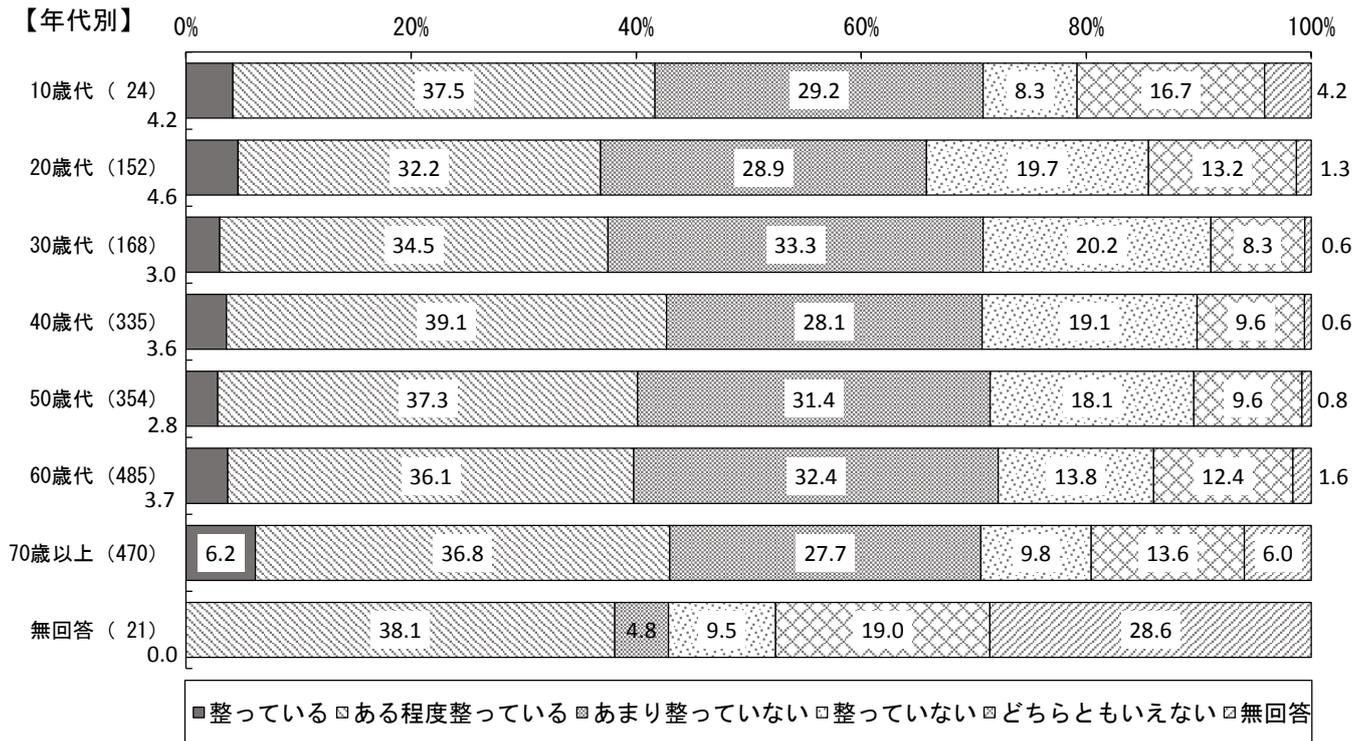
◆あなたの家庭や地域、職場において、子どもを産み育てやすい環境が整っていると思いますか。  
（○は1つ）

全体では、「整っている」と「ある程度整っている」を合わせた割合 40.7%は、「整っていない」と「あまり整っていない」を合わせた割合 45.3%よりも低い。

性別では、「整っている」と「ある程度整っている」を合わせた割合は、女性が男性より高く、「整っていない」と「あまり整っていない」を合わせた割合は、男性が女性より高い。

年代別では、20歳代～60歳代は「整っていない」と「あまり整っていない」を合わせた割合が、「整っている」と「ある程度整っている」を合わせた割合よりも高い。





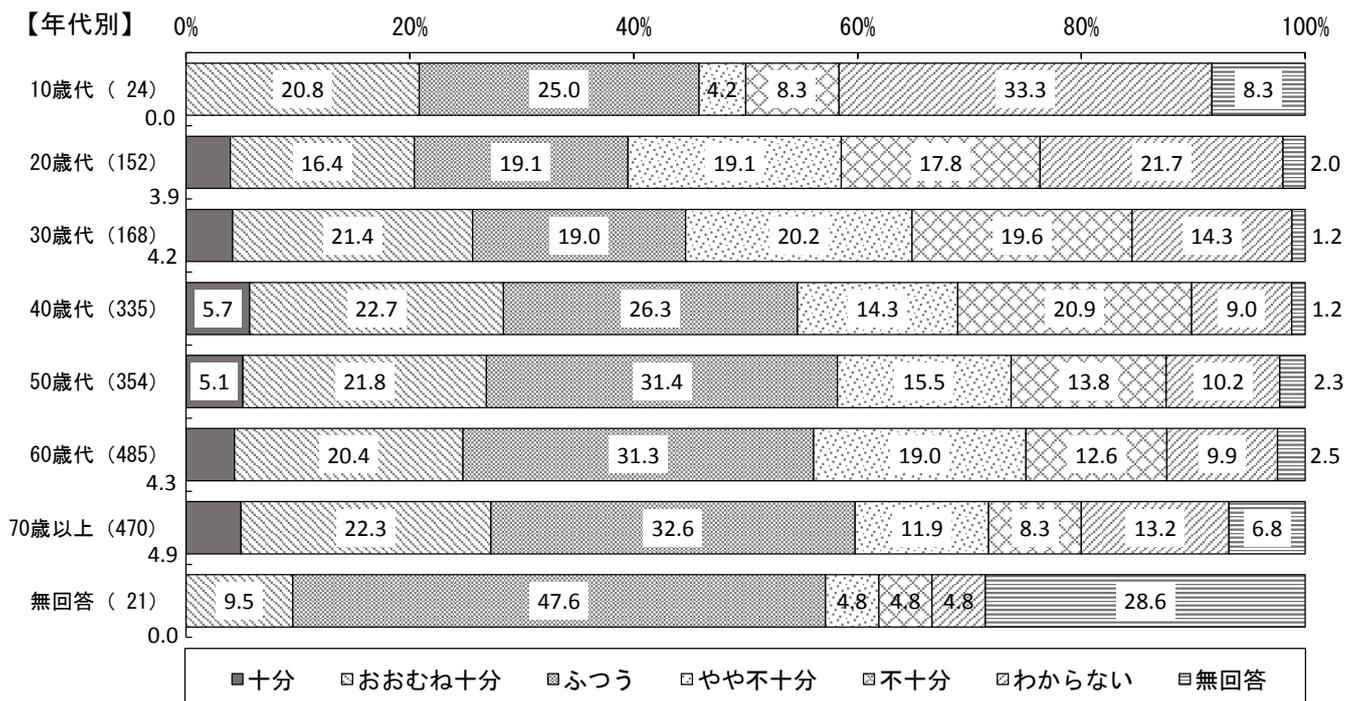
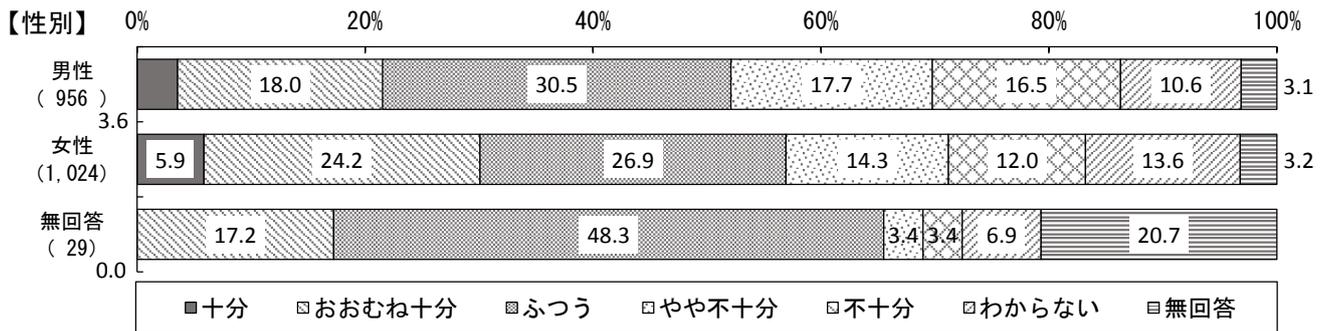
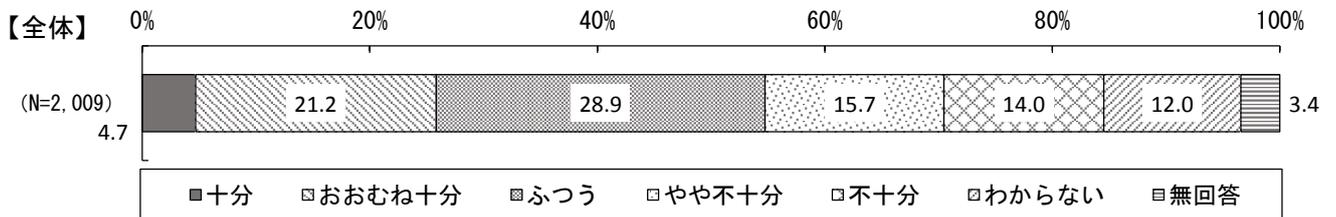
(2) 子育て家庭に対する県の経済的支援（問4-53）

◆県では、少子化対策として、子育て家庭に対して、保育料や医療費の助成など様々な経済的支援を行っています。これについてどう思いますか。（〇は1つ）

全体では、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合 25.9%は、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合 29.7%よりも低い。

性別では、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は、女性が男性より高く、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は、男性が女性より高い。

年代別では、20～60歳代は「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合が、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合を上回っている。



## 7 地域社会の住みやすさについて

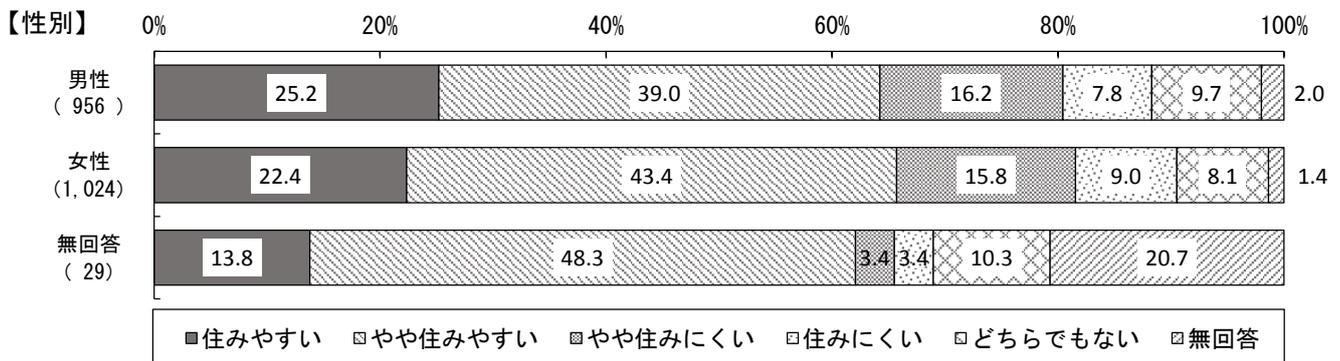
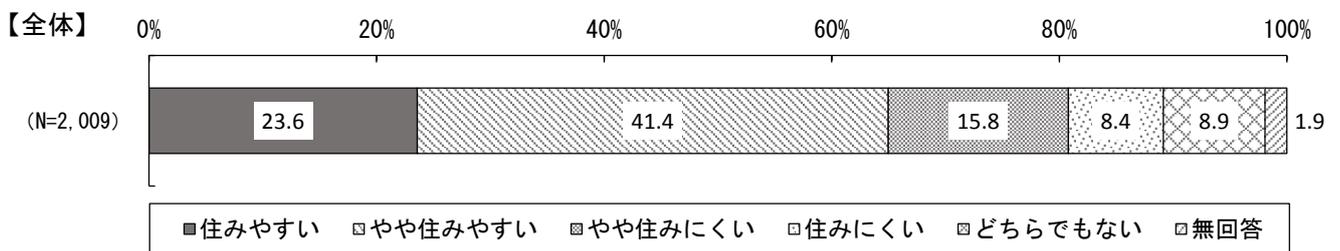
### 住んでいる地域の住みやすさ（問4-54）

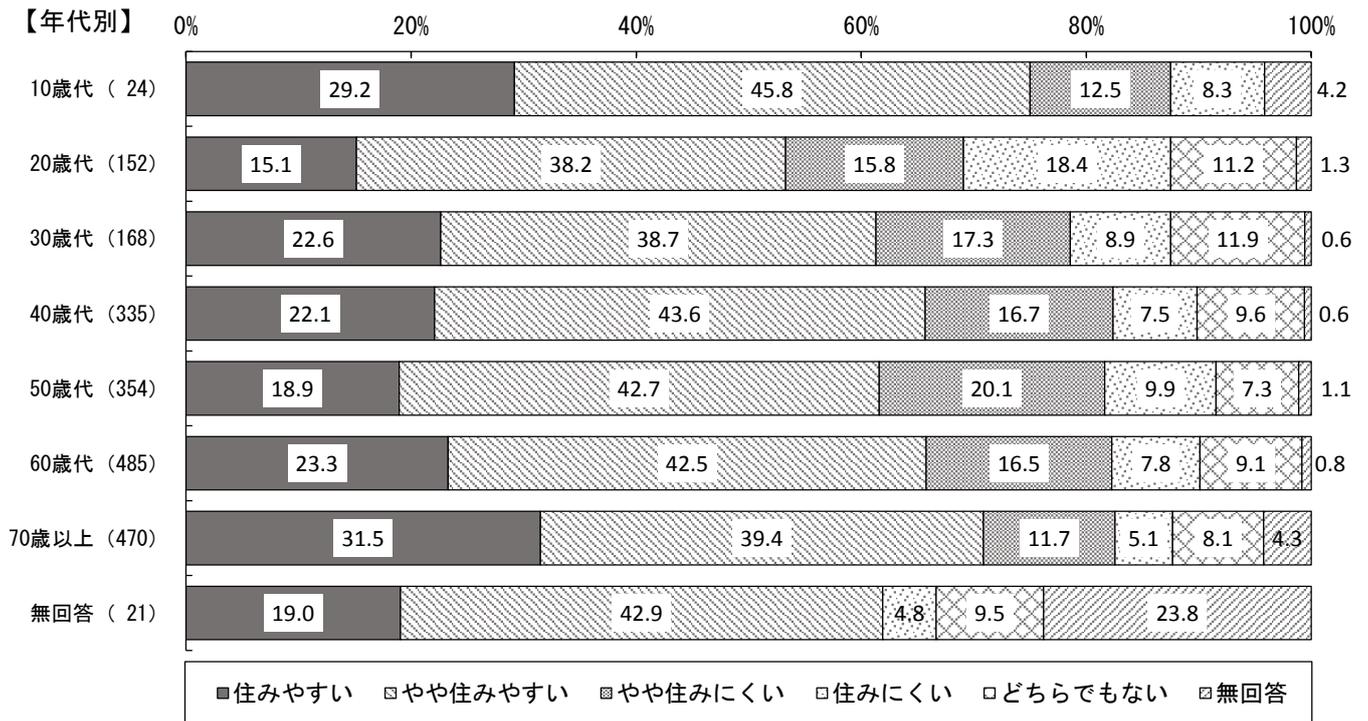
◆あなたは、現在お住まいの地域の住みやすさについて、どう思われますか。（○は1つ）

全体では、「住みやすい」と「やや住みやすい」を合わせた割合は65.0%と6割を超え、「住みにくい」と「やや住みにくい」を合わせた割合24.2%よりも高い。

性別では、「住みやすい」と「やや住みやすい」を合わせた割合は、女性が男性より高い。

年代別では、「住みやすい」と「やや住みやすい」を合わせた割合が各年代とも最も高く、10歳代、70歳以上が7割を超えている。





## 8 社会活動・地域活動について

### (1) 「社会活動・地域活動」への関心度（問4-55）

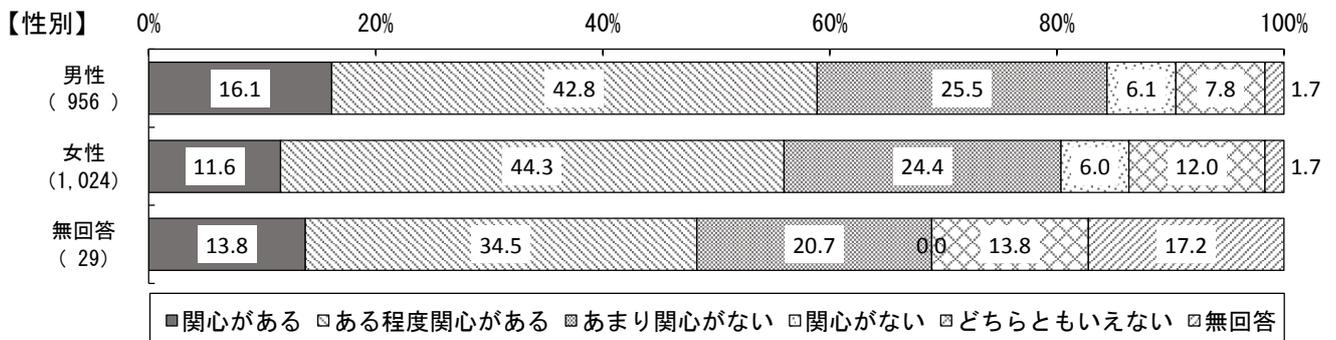
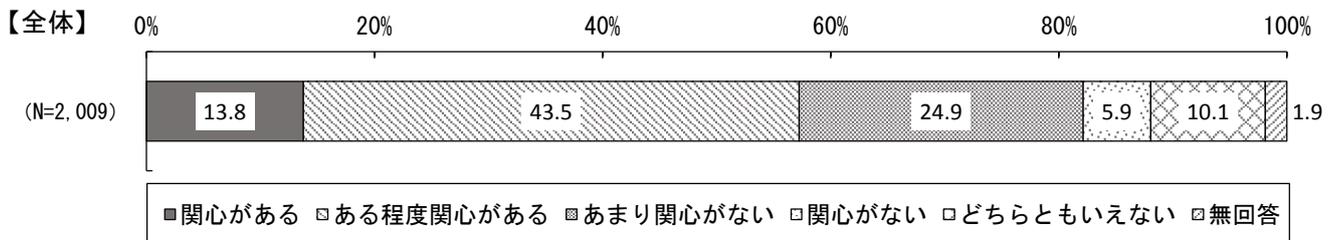
◆あなたは、「社会活動・地域活動」について関心がありますか。（○は1つ）

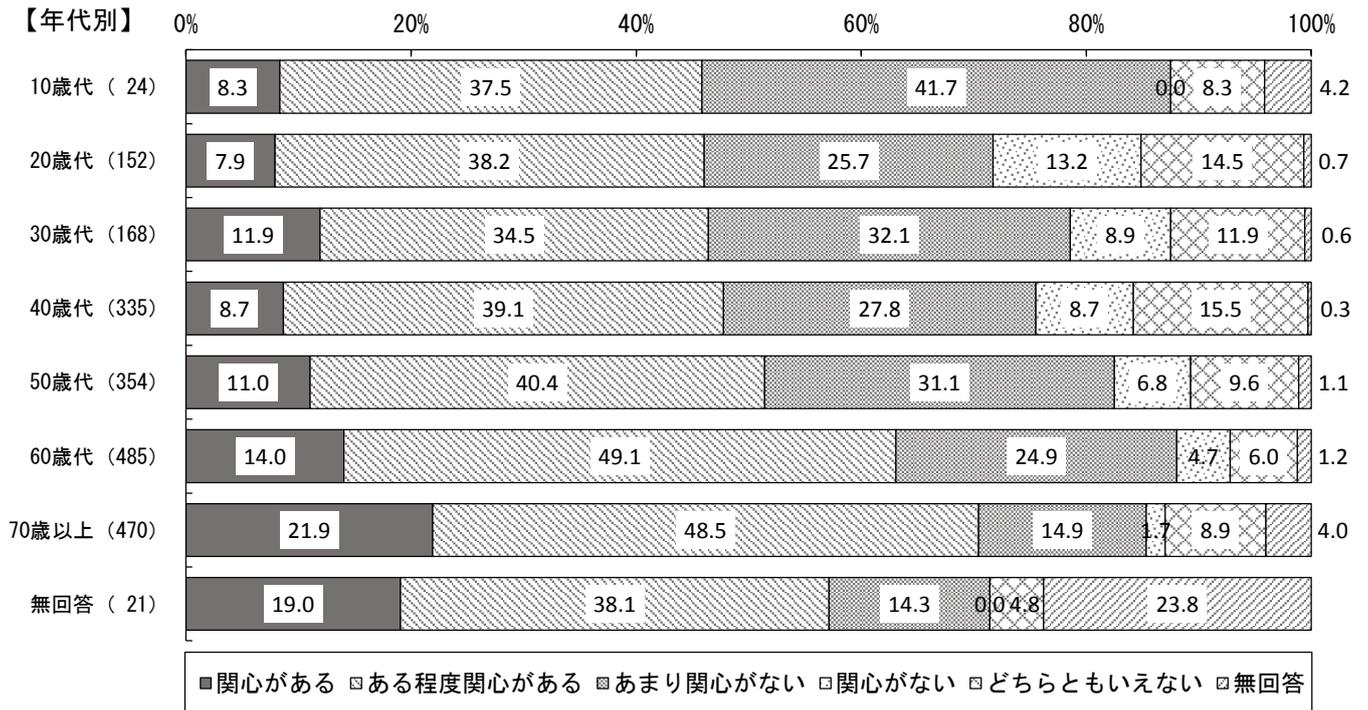
※「社会活動・地域活動」の具体例…地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い等

全体では、「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合は 57.3%で、「関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた割合 30.8%よりも高い。

性別では、「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合は、男性が女性より高い。

年代別では、「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合は70歳以上が70.4%で最も高く、10歳代が45.8%で最も低くなっており、年代が上がるほど割合が高い。



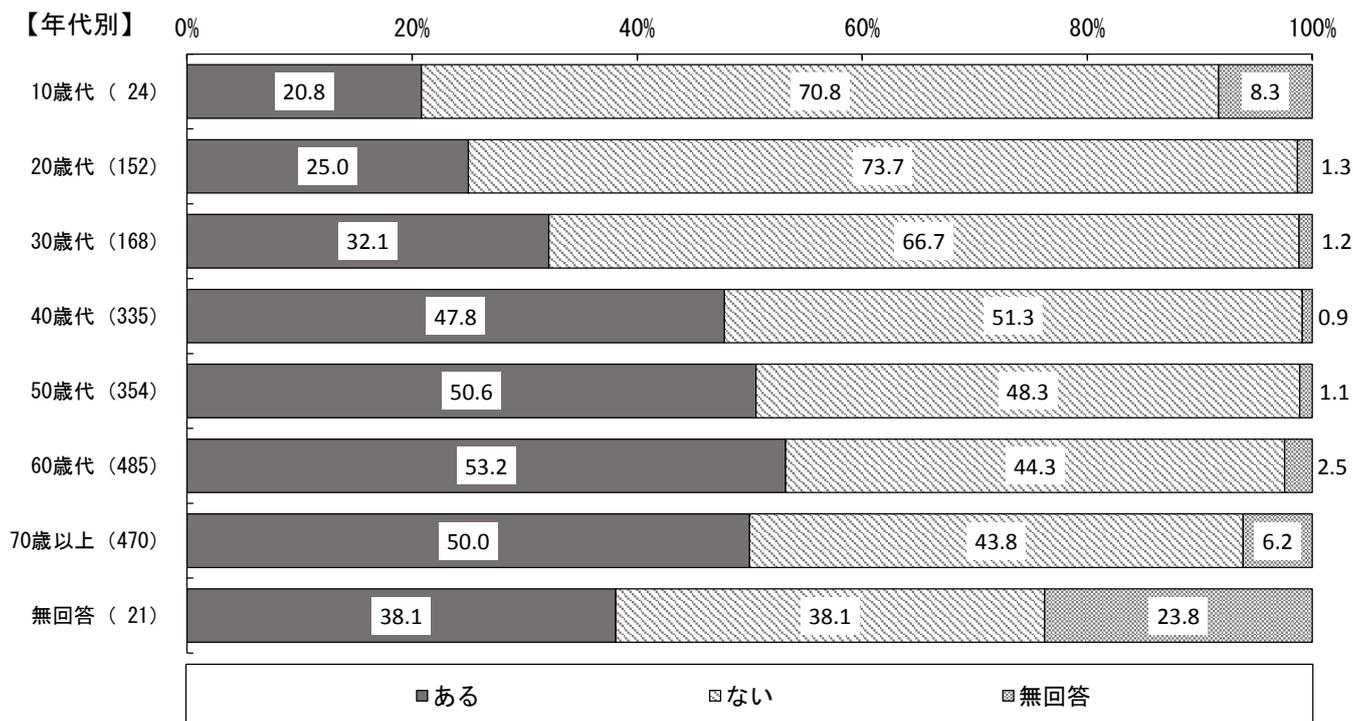
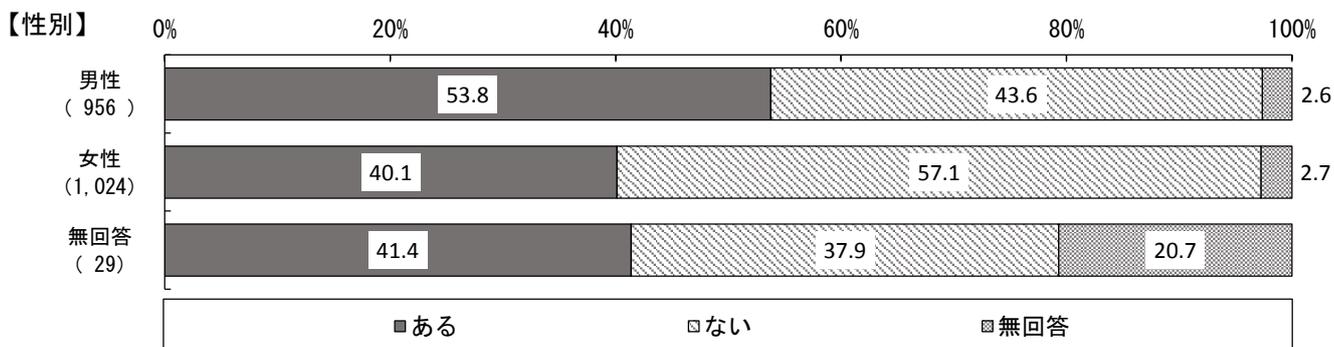
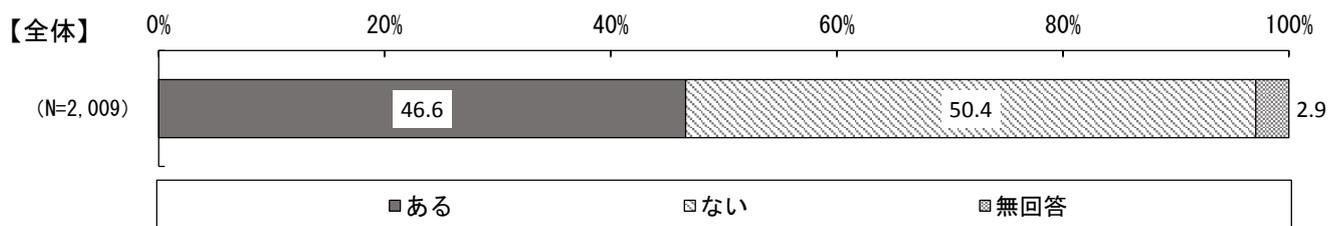


(2) 「社会活動・地域活動」への取組の有無（直近1年間）（問4-56）

◆ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」に取り組んだことがありますか。（どちらかに○）

全体では、「ある」の割合は46.6%、「ない」の割合は50.4%で、取り組んだことのない人の割合が高い。性別では、「ある」の割合は、男性が女性より高い。

年代別では、「ある」の割合は60歳代が53.2%で最も高く、10歳代が20.8%で最も低い。社会活動・地域活動に取り組んだ人の割合は、年代が上がるほど高い傾向がある。



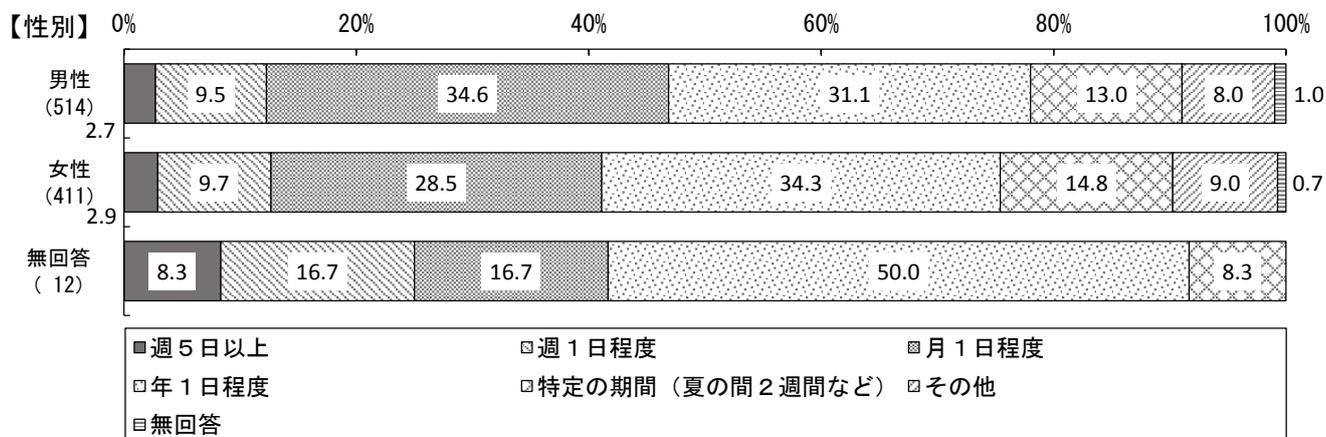
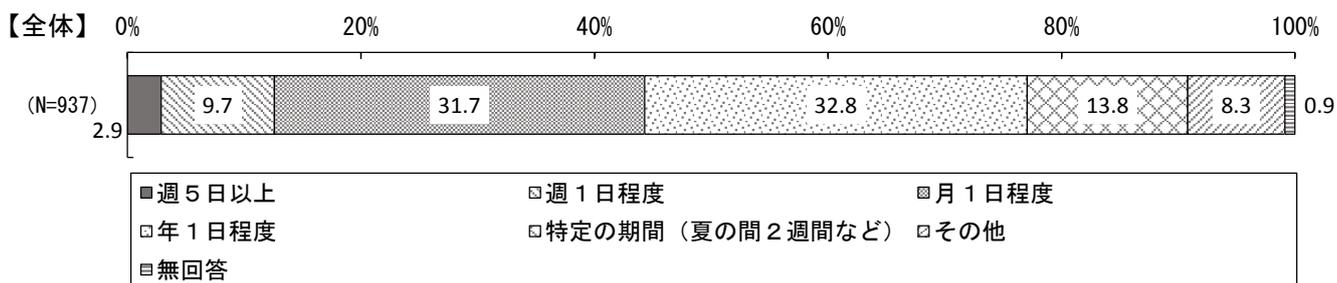
(3) 「社会活動・地域活動」への取組の頻度（問4-57）

◆前の質問で「ある」を選んだ方にお聞きします。「社会活動・地域活動」に取り組んだ頻度でもっとも当てはまるものはどれですか。（○は1つ）

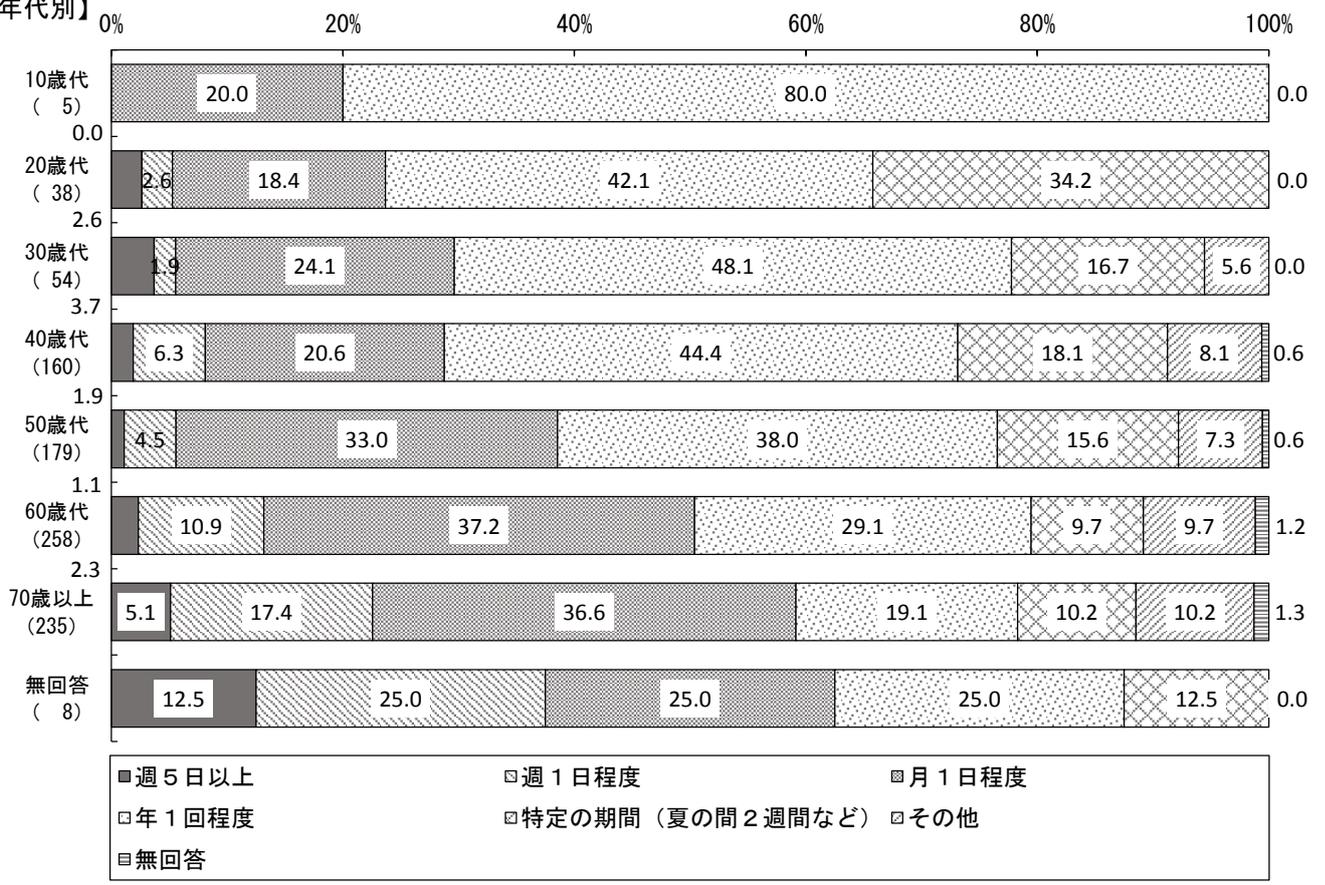
全体では、「年1日程度」の割合が32.8%と最も高く、次に「月1日程度」が31.7%で続いている。

性別では、月1日程度以上（「週5日以上」、「週1日程度」、「月1日程度」の合計）の割合は、男性が女性より高い。

年代別では、月1日程度以上の割合は70歳以上が59.1%で最も高く、10歳代が20.0%で最も低くなっており、年代が上がるほど割合が高い傾向がある。



【年代別】



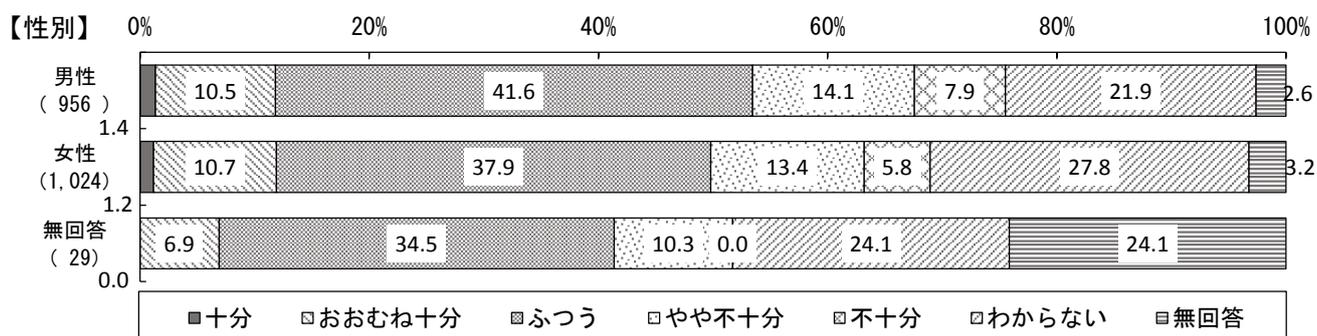
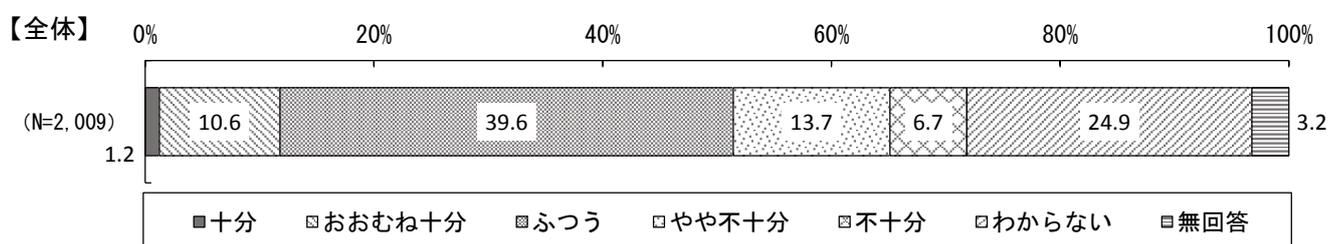
(4) 地域社会づくりについて県の取組に対する評価（問4-58）

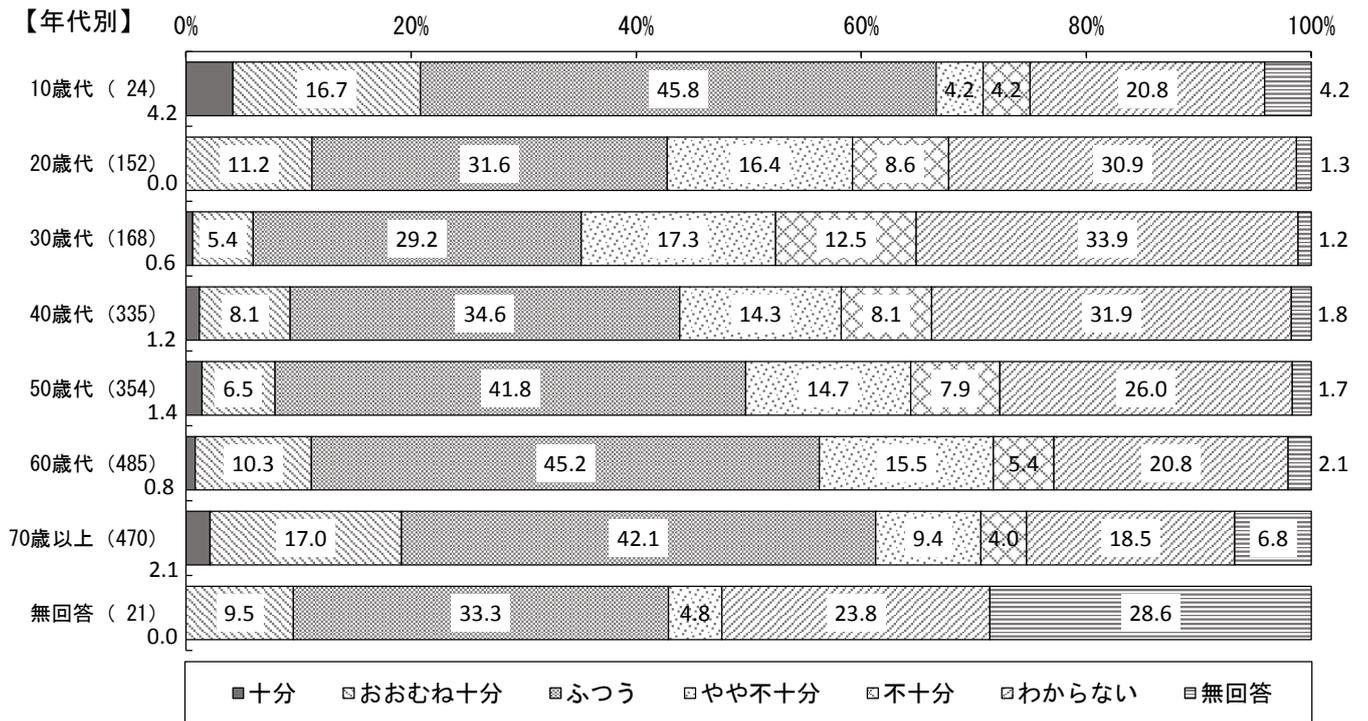
◆あなたは、幅広い県民層や多様な主体の協働による地域社会づくりについて、県の取組をどのように評価しますか。（○は1つ）

全体では、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合 11.8%は、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合 20.4%よりも低い。

性別では、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は男女で差はなく、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は男性が女性より高い。

年代別では、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は、10歳代が20.9%で最も高く、次に70歳以上が19.1%で高い。「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は、30歳代が29.8%で最も高い。





(5) 「集落」の維持・活性化に必要な対策（問4-59）

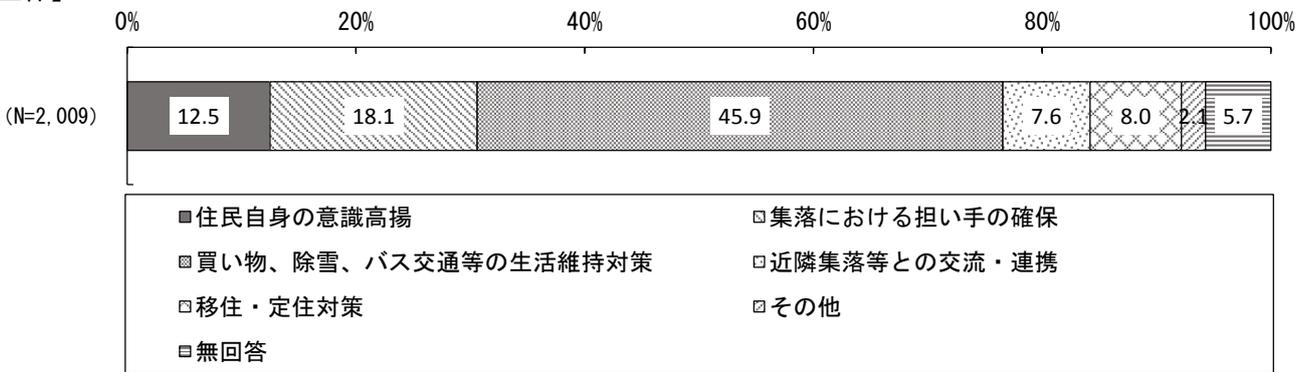
◆ 「集落」の維持・活性化に関して、どのような対策が特に必要だと思いますか。（○は1つ）

全体では、「買い物、除雪、バス交通等の生活維持対策」の割合が45.9%で最も高く、続いて「集落における担い手の確保」が18.1%、「住民自身の意識高揚」が12.5%で続く。

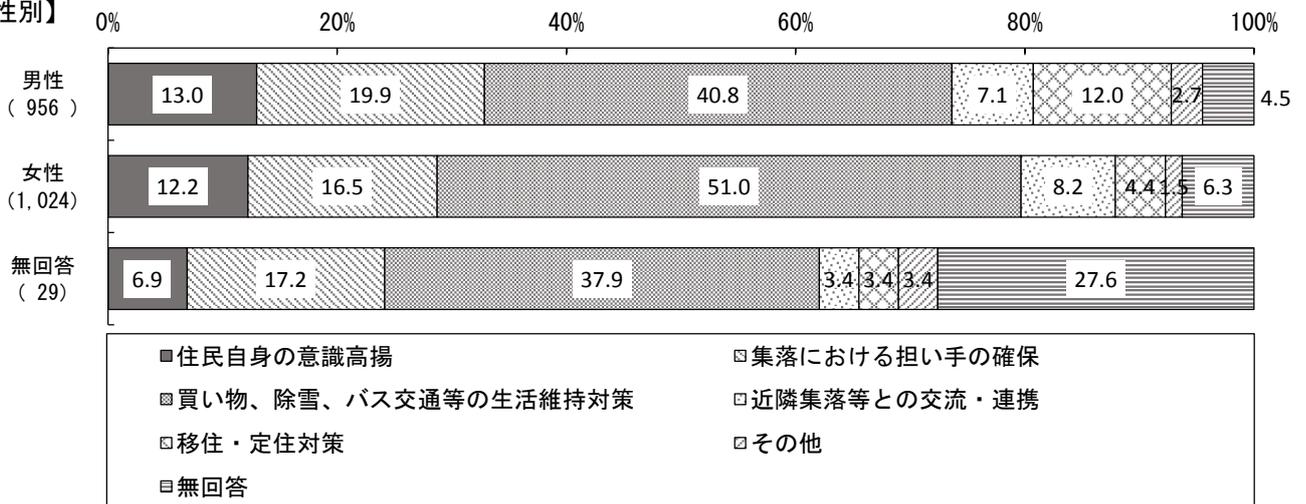
性別では、「買い物、除雪、バス交通等の生活維持対策」の割合は、女性が51.0%で、男性の40.8%を10.2ポイント上回る。「移住・定住対策」の割合は、男性が女性より7.6ポイント高い。

年代別では、「買い物、除雪、バス交通等の生活維持対策」の割合は、10歳代が58.3%で最も高い。「集落における担い手の確保」、「住民自身の意識高揚」の割合は、60歳代以上が他の年代より高い傾向にある。

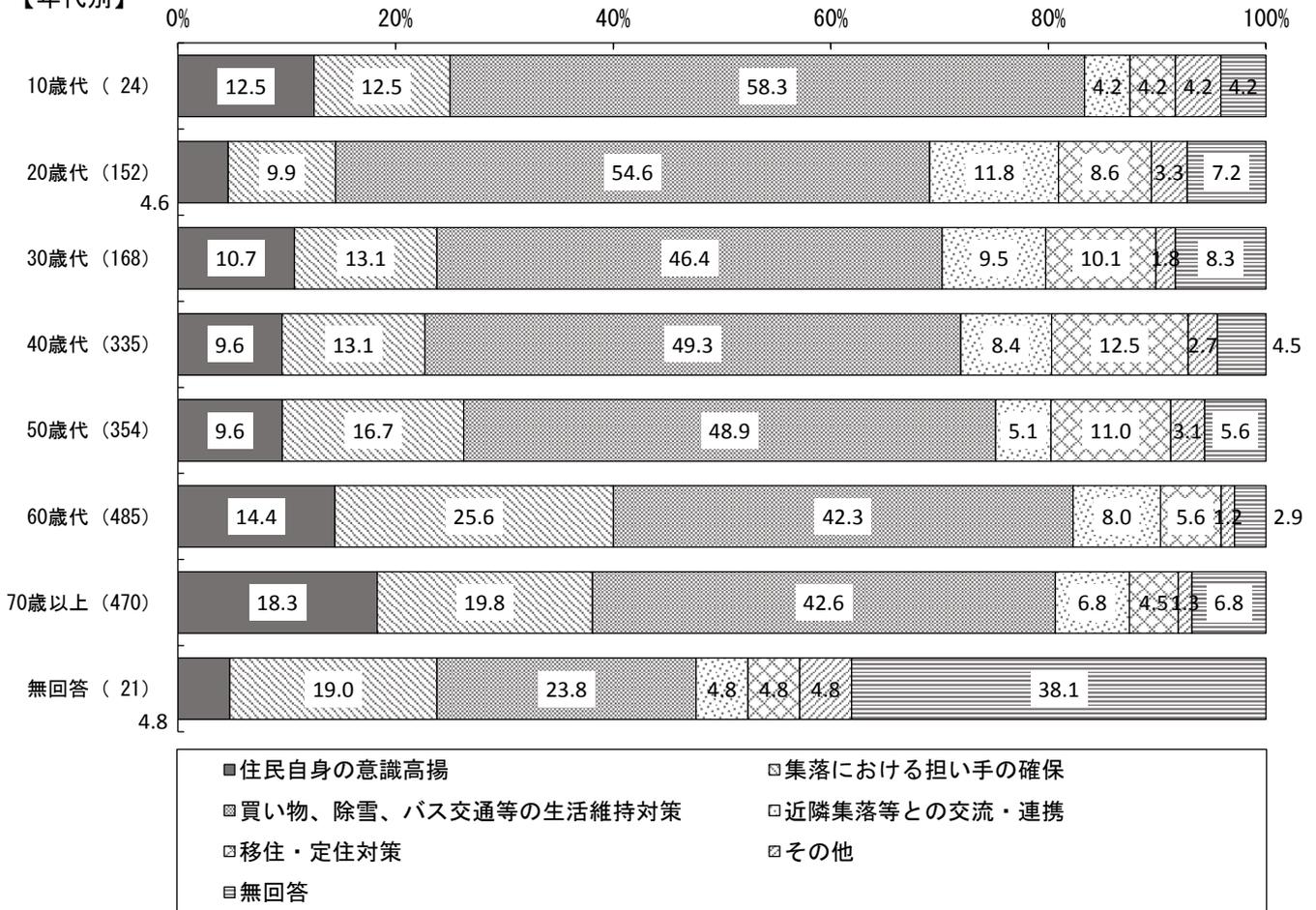
【全体】



【性別】



【年代別】



## 9 高齢者の社会参加について

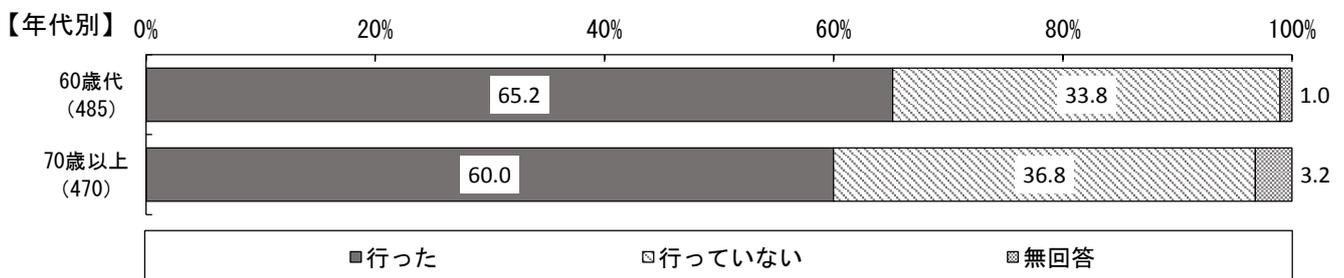
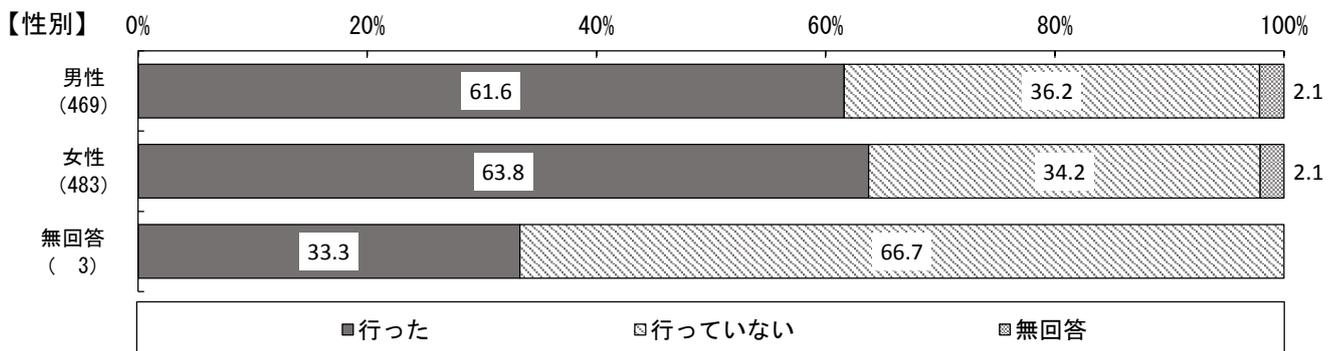
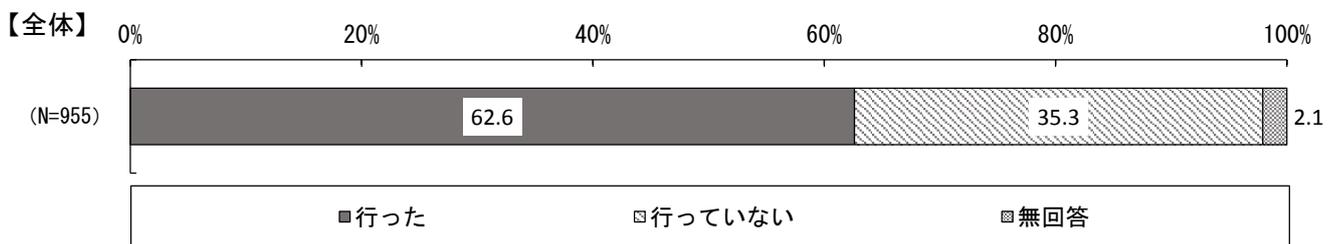
### 60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（平成29年度）（問4-60）

◆60歳以上の方にお聞きします。あなたは平成29年度に、仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか。（どちらかに○）

全体では、「行った」の割合は62.6%と6割を超え、「行っていない」の割合は35.3%である。

性別では、「行った」の割合は、女性が男性より高い。

年代別では、「行った」の割合は60歳代が65.2%であり、70歳以上より高いものの、70歳以上も仕事や社会活動等を行った割合は60.0%である。



## 10 認知症について

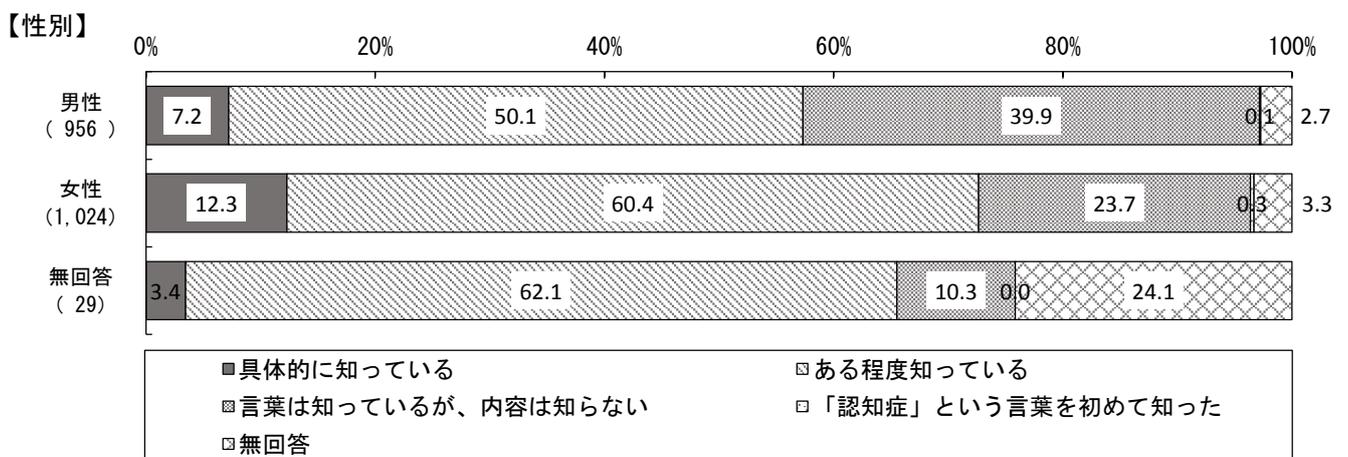
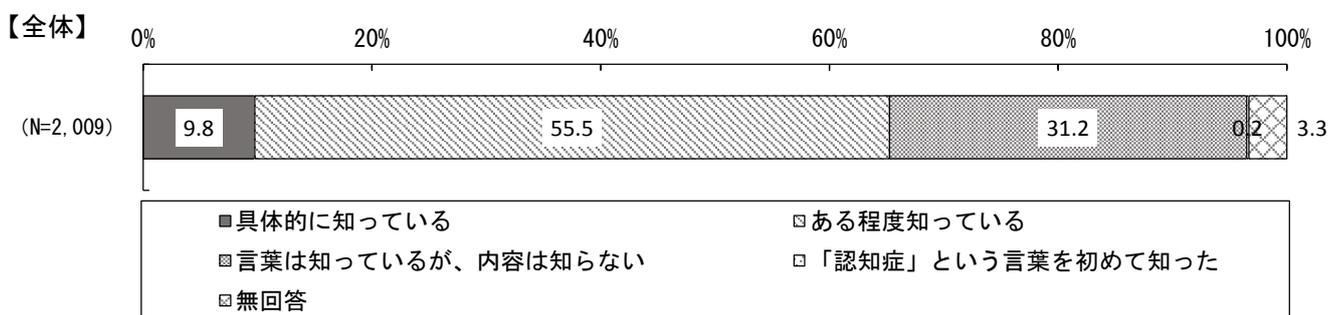
### 認知症の症状や認知症の方への対応の仕方に関する認知度（問4-61）

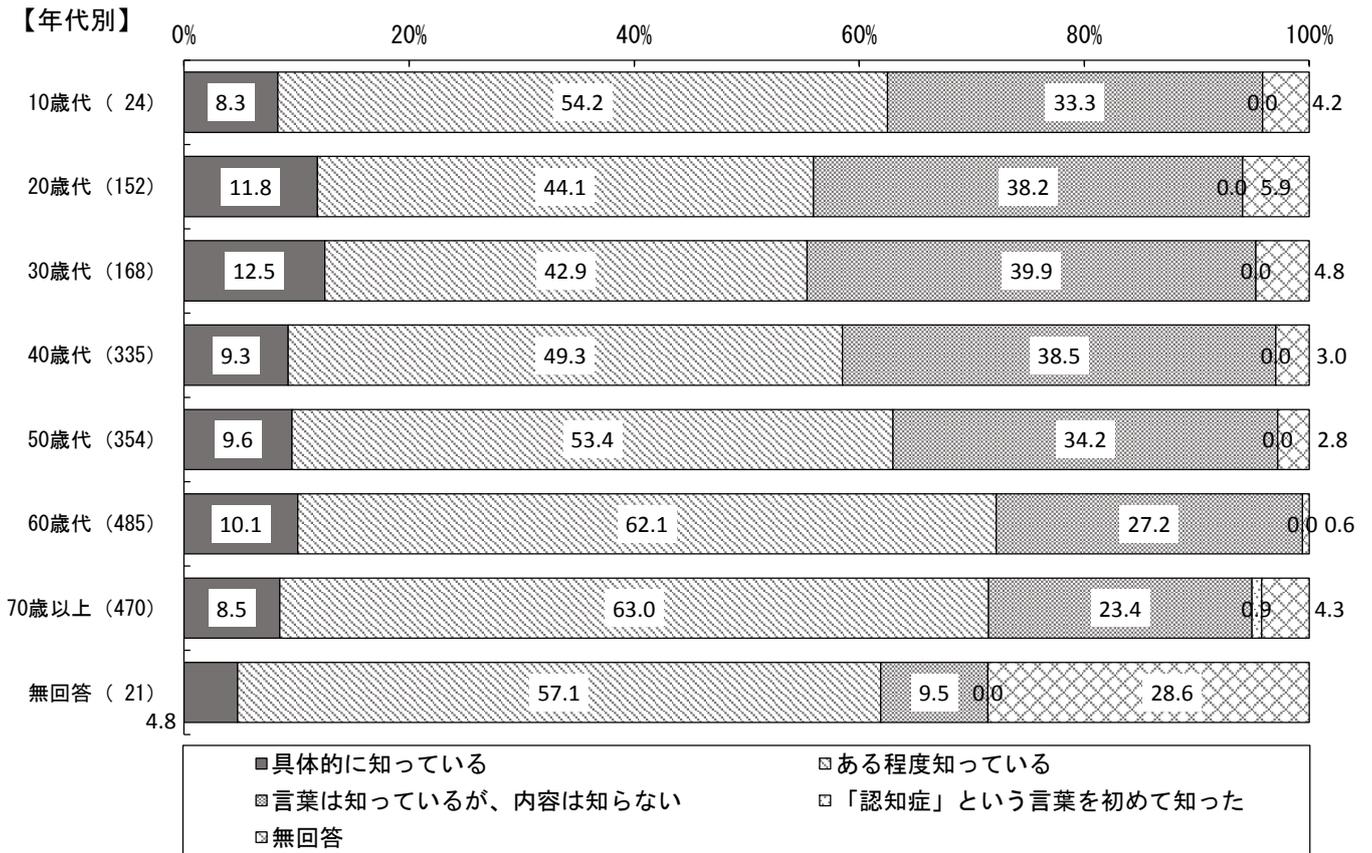
◆あなたは、認知症の症状や認知症の方への対応の仕方を知っていますか。（○は1つ）

全体では、「ある程度知っている」の割合が55.5%で最も高く、次に「言葉は知っているが、内容は知らない」が31.2%となっている。「具体的に知っている」は9.8%である。

性別では、「具体的に知っている」、「ある程度知っている」の割合とも、女性が男性より高い。

年代別では、「具体的に知っている」、「ある程度知っている」の割合は、60歳代以上で70%を上回り、他の年代より高い。





## 11 高齢者福祉サービスについて

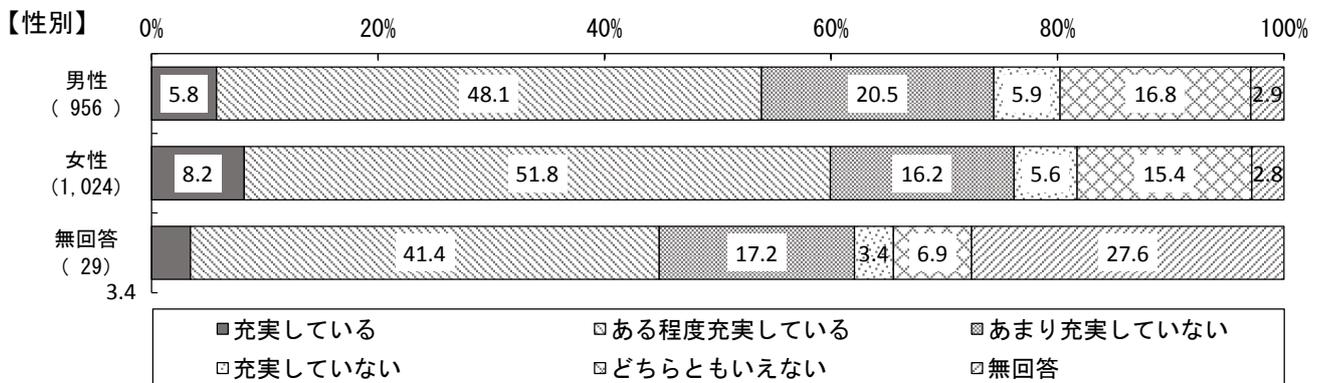
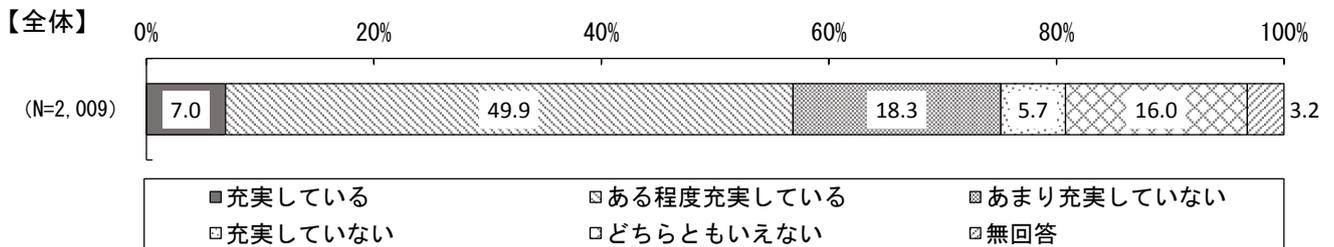
### 高齢者福祉サービスの充実度（問4-62）

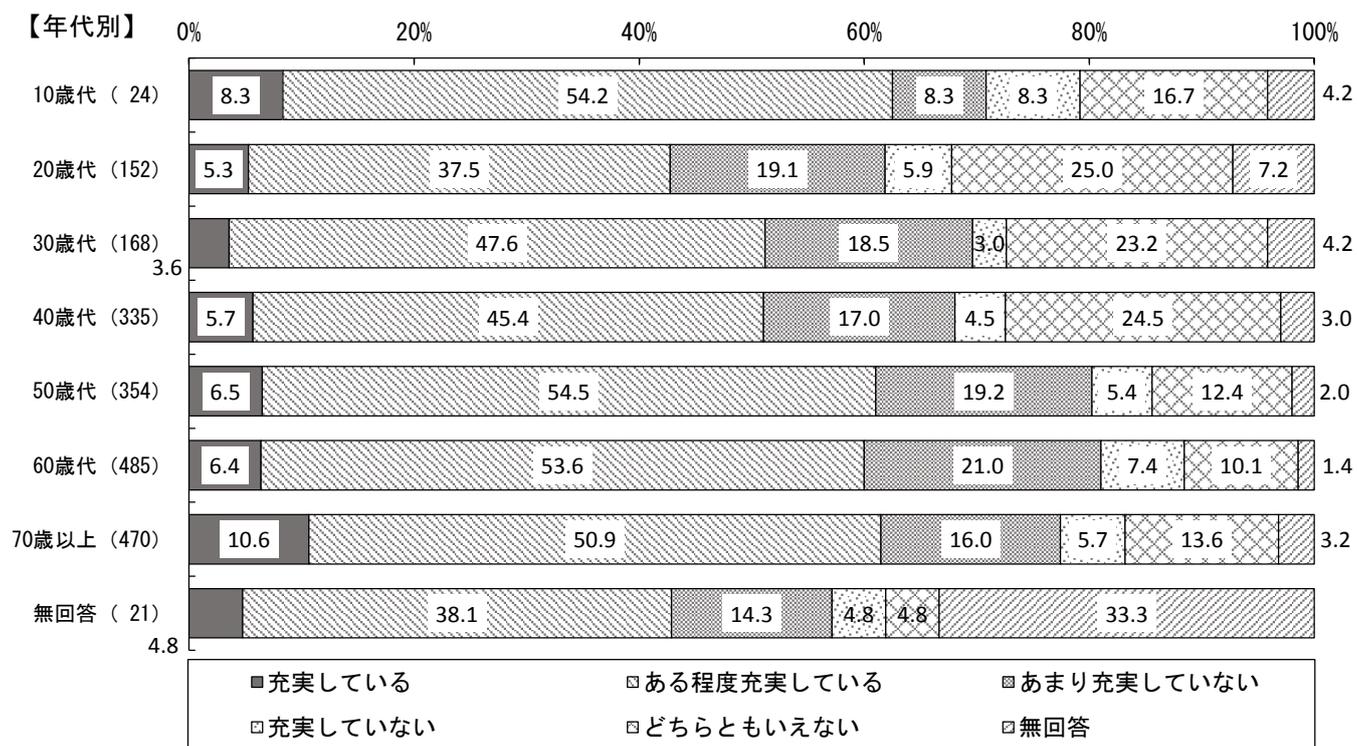
◆あなたの住む地域において、高齢者のための福祉サービス（在宅での介護サービスや老人ホームなどの施設の利用しやすさなど）が充実していると思いますか。（○は1つ）

全体では、「充実している」と「ある程度充実している」を合わせた割合 56.9%は、「充実していない」と「あまり充実していない」を合わせた割合 24.0%よりも高い。

性別では、「充実している」と「ある程度充実している」を合わせた割合は、女性が男性より高い。

年代別では、「充実している」と「ある程度充実している」を合わせた割合は、10歳代が62.5%で最も高く、「充実していない」と「あまり充実していない」を合わせた割合は、60歳代が28.4%で最も高い。





## 12 がん対策について

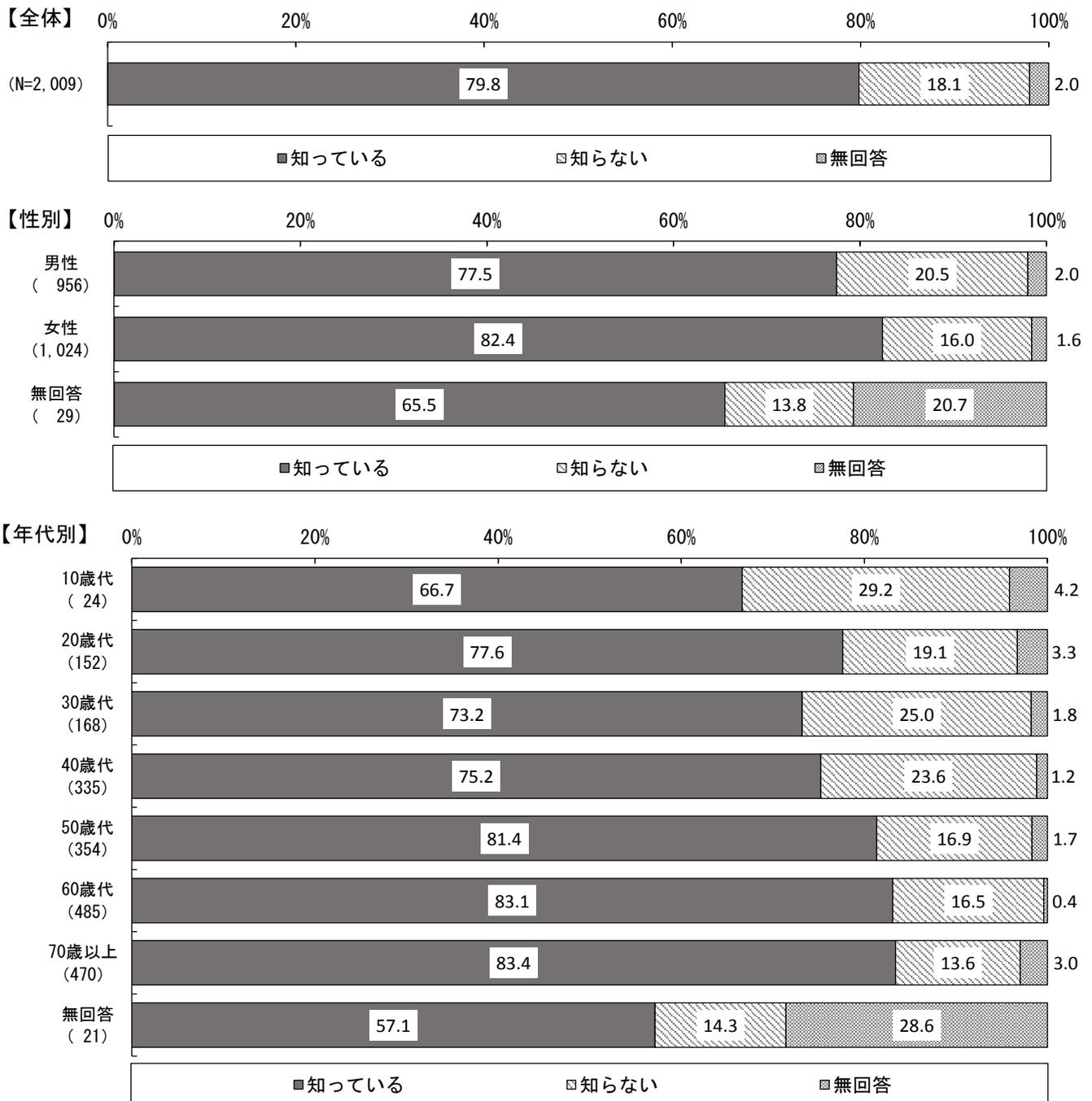
### (1) 日本人のがん発症率に関する認知度 (問4-63)

◆あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか。(どちらかに○)

全体では、「知っている」の割合は79.8%で、「知らない」の割合は18.1%である。

性別では、「知っている」の割合は、女性が男性より4.9ポイント高い。

年代別では、「知っている」の割合は、70歳以上が83.4%で最も高く、10歳代は66.7%で最も低い。

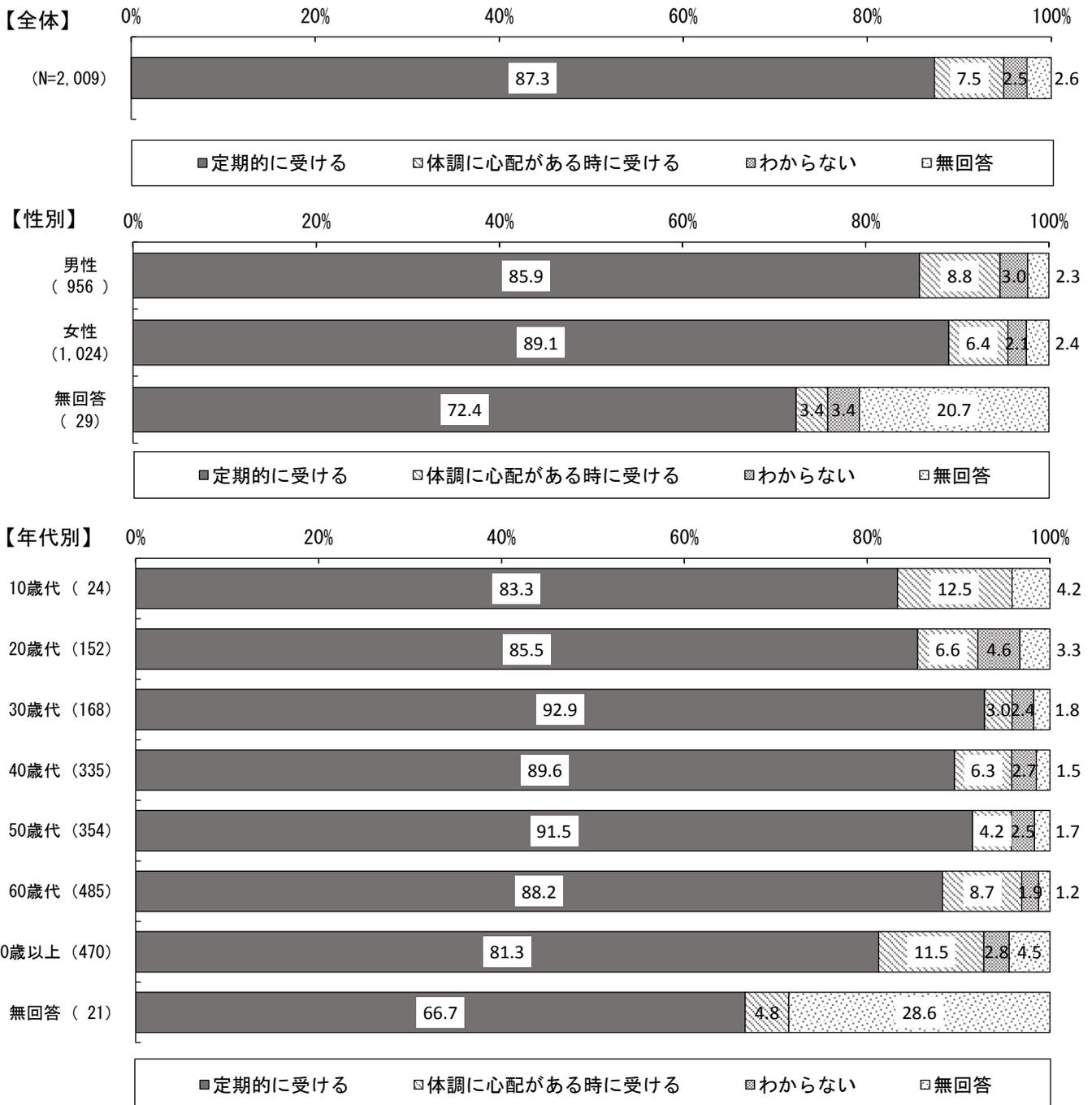


(2) がん検診の受診時期に対する考え方 (問4-64)

◆がんを早期に発見するためには、がん検診をどのように受ければよいと思いますか。(〇は1つ)

全体では、「定期的に受ける」の割合は87.3%で、「体調に心配がある時に受ける」の割合は7.5%である。性別では、「定期的に受ける」の割合は、女性が男性より3.2ポイント高い。

年代別では、「定期的に受ける」の割合は、30歳代が92.9%で最も高く、次に50歳代が91.5%である。最も低い70歳以上でも81.3%と8割を超える。



### 13 雪対策について

#### (1) 除雪で困ったことの有無（平成 29 年度の冬期間）（問 4－65）

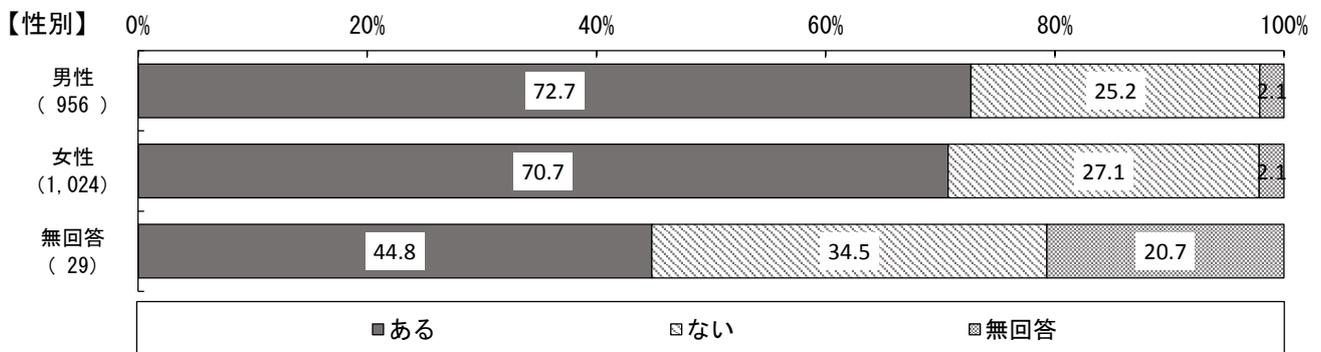
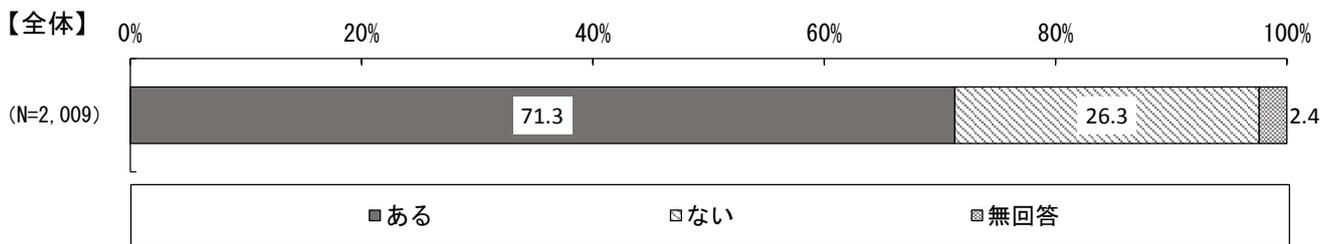
◆あなたは、平成 29 年度の冬期間に自宅の除雪や、行政が行った道路除雪など、雪に関して困ったことがありますか。（どちらかに○）

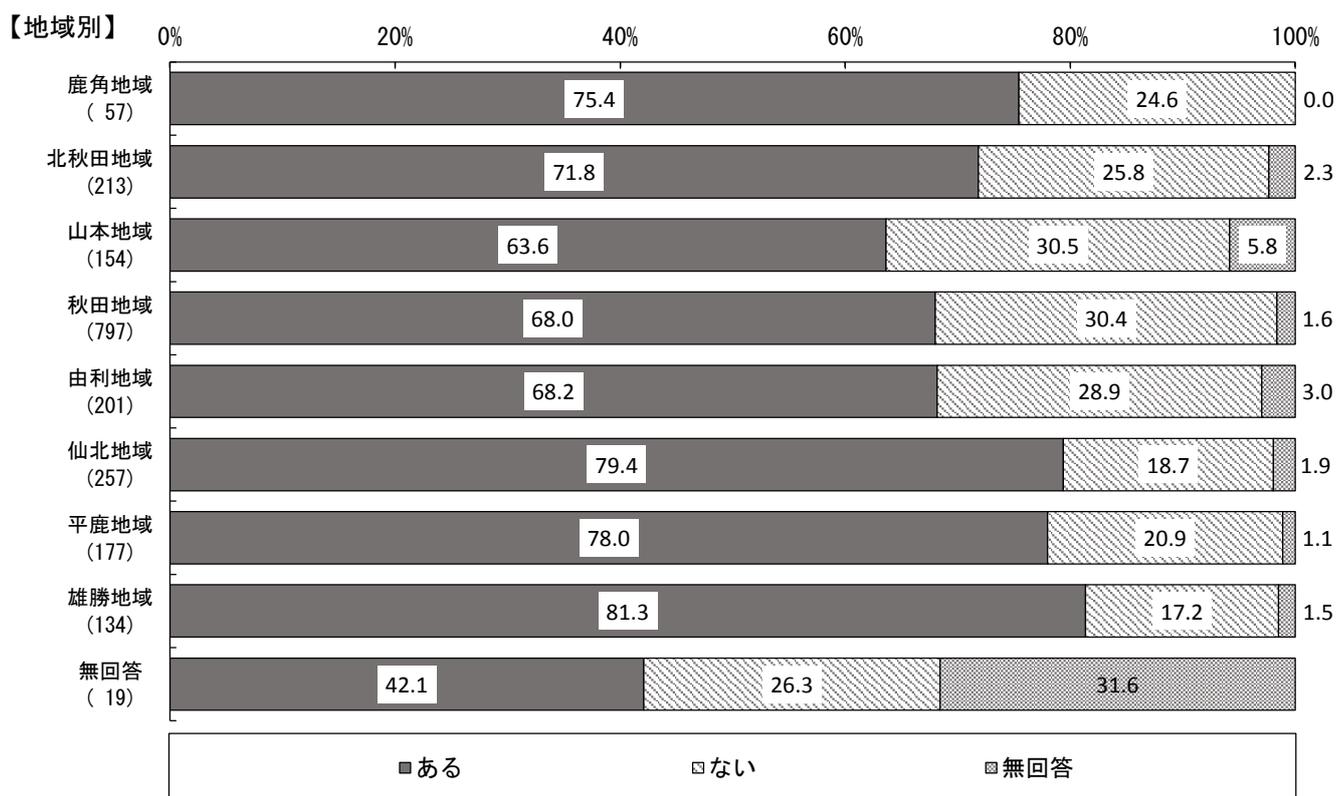
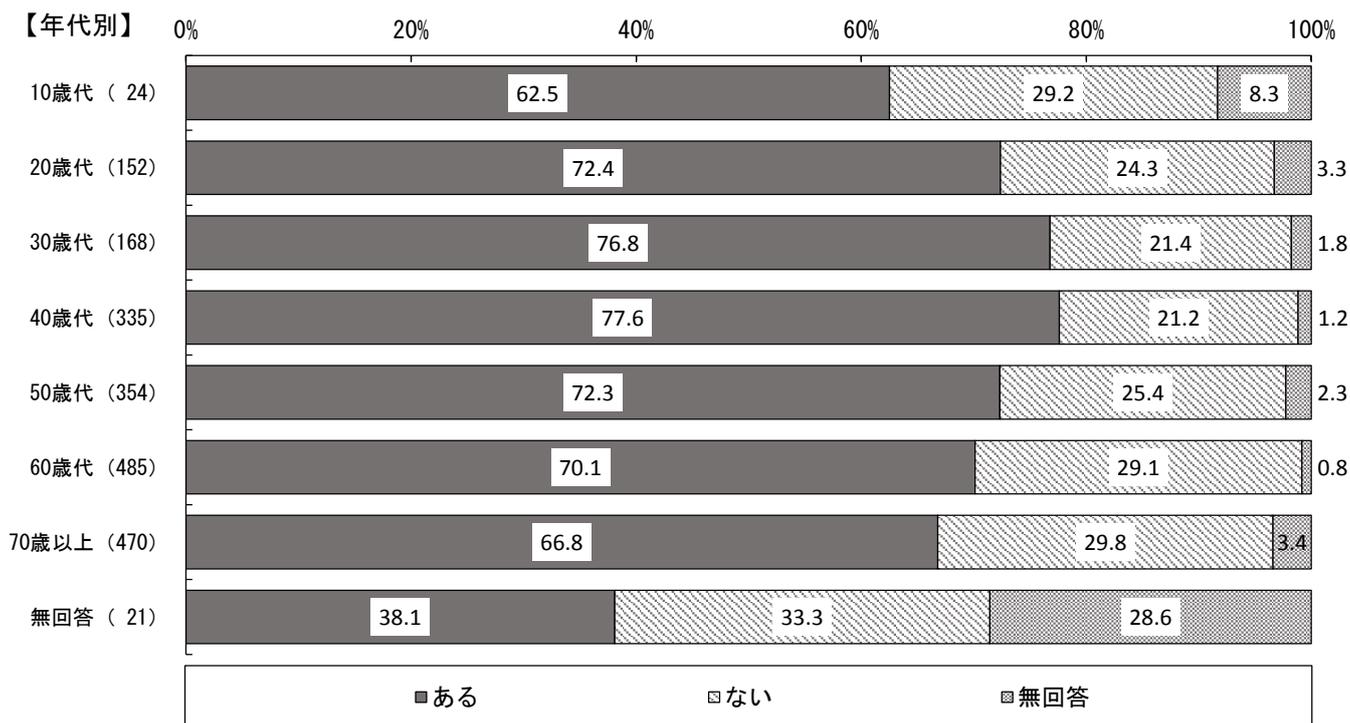
全体では、「ある」の割合は 71.3%で、「ない」の割合は 26.3%である。

性別では、「ある」の割合は男性が女性より高い。

年代別では、「ある」の割合は 40 歳代が 77.6%で最も高く、10 歳代が 62.5%で最も低い。30 歳代以下では年齢が上がるほど割合が高く、40 歳代以上では、年代が上がるほど割合が低い。

地域別では、「ある」の割合は、雄勝地域が 81.3%で最も高く、仙北地域、平鹿地域を含めた県南が他の地域より高い。続いて、鹿角地域が 75.4%である。山本地域は 63.6%で最も低い。

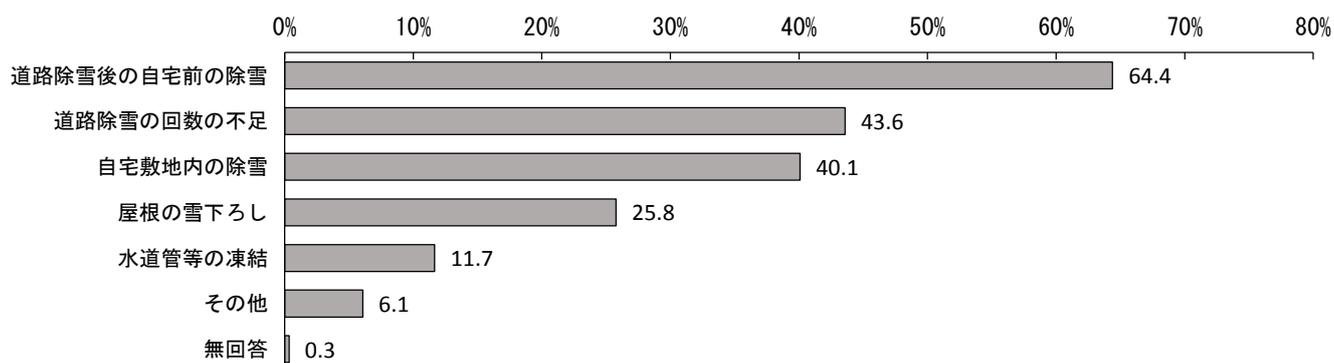




(2) 困ったことの内容 (問4-66)

◆前の質問で「ある」を選んだ方にお聞きします。あなたが困ったことで、当てはまるものはどれですか。(〇は3つまで)

「道路除雪後の自宅前の除雪」が64.4%で最も高く、「道路除雪の回数の不足」が43.6%、「自宅敷地内の除雪」が40.1%、「屋根の雪下ろし」が25.8%と続いている。



## 14 環境保全活動について

### (1) 環境保全活動への参加経験の有無 (問4-67)

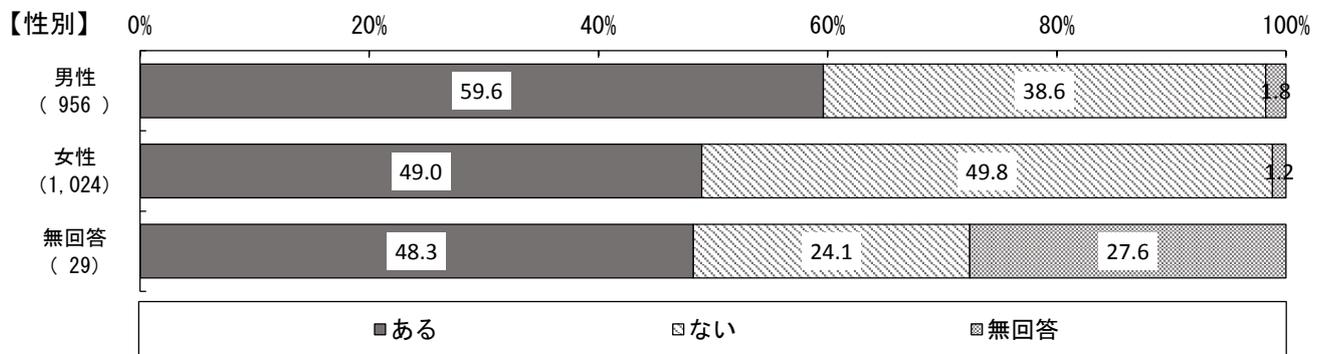
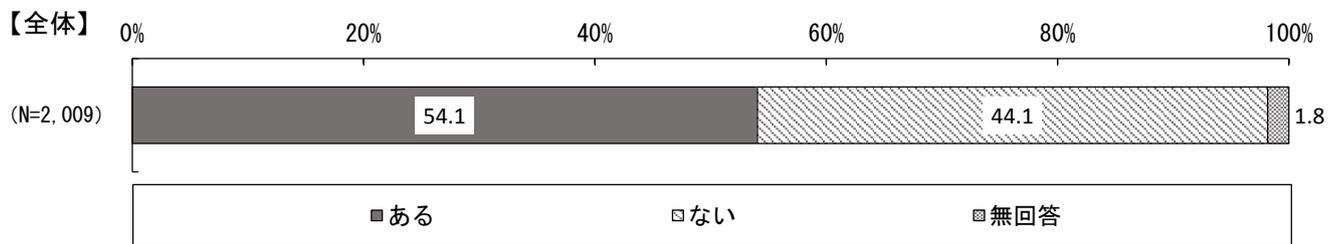
◆あなたは、これまで、環境保全活動（講演会やクリーンアップ活動等）に参加したことがありますか。  
（どちらかに○）

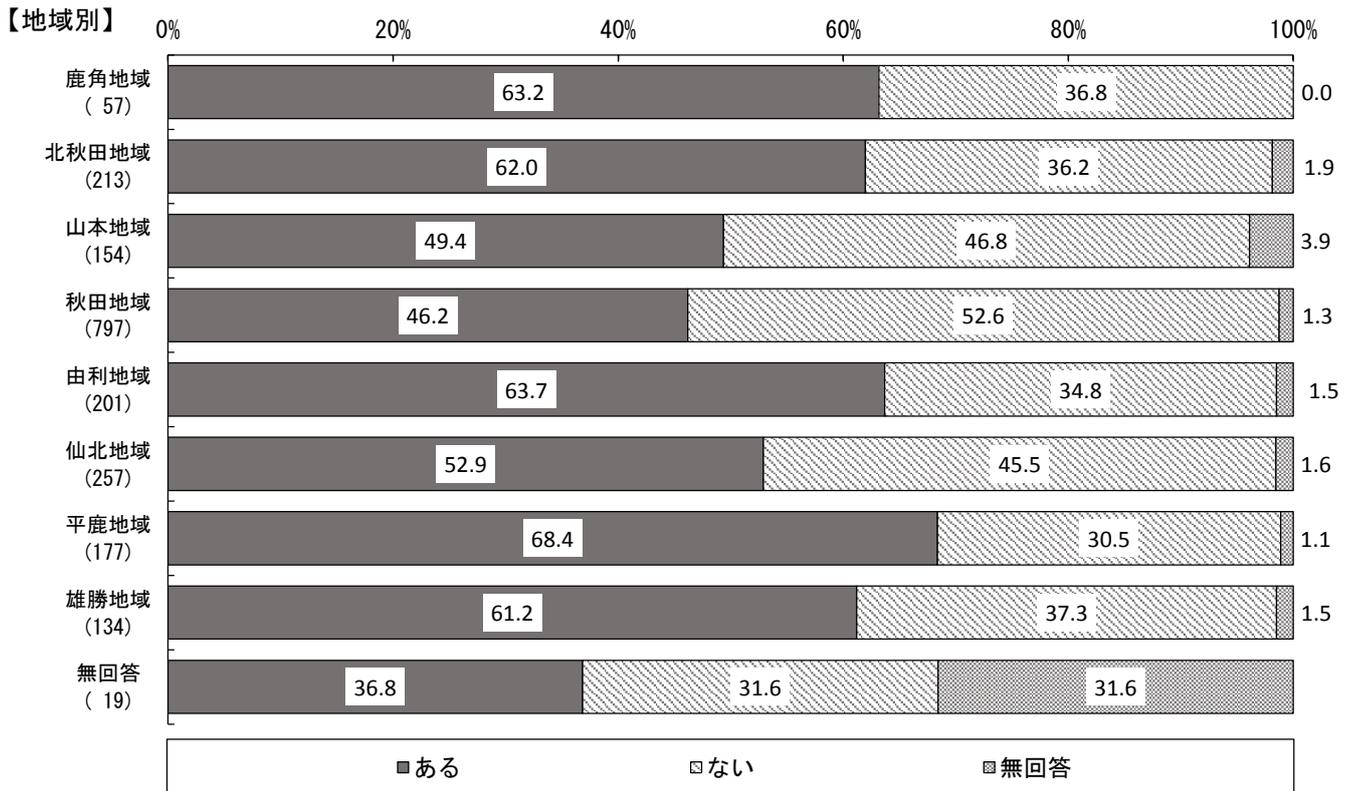
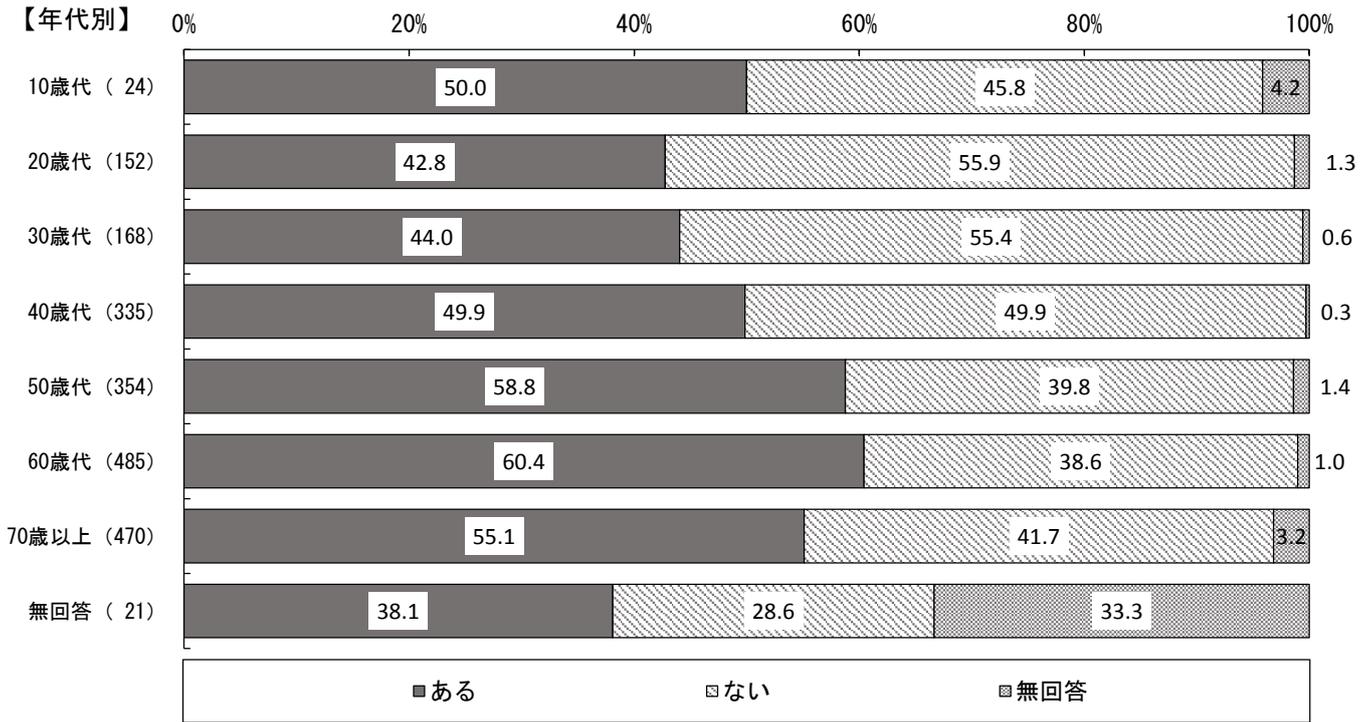
全体では、「ある」の割合は54.1%と半分を超え、「ない」の割合は44.1%である。

性別では、「ある」の割合は男性が女性より10.6ポイント高い。

年代別では、「ある」の割合は60歳代が60.4%で最も高く、20歳代が42.8%で最も低い。50歳代以上の年代は55%を超え、40歳代以下より割合が高い。

地域別では、「ある」の割合は、平鹿地域が68.4%で最も高く、由利地域が63.7%で次に高い。秋田地域は46.2%で最も低く、山本地域が49.4%で次に低い。



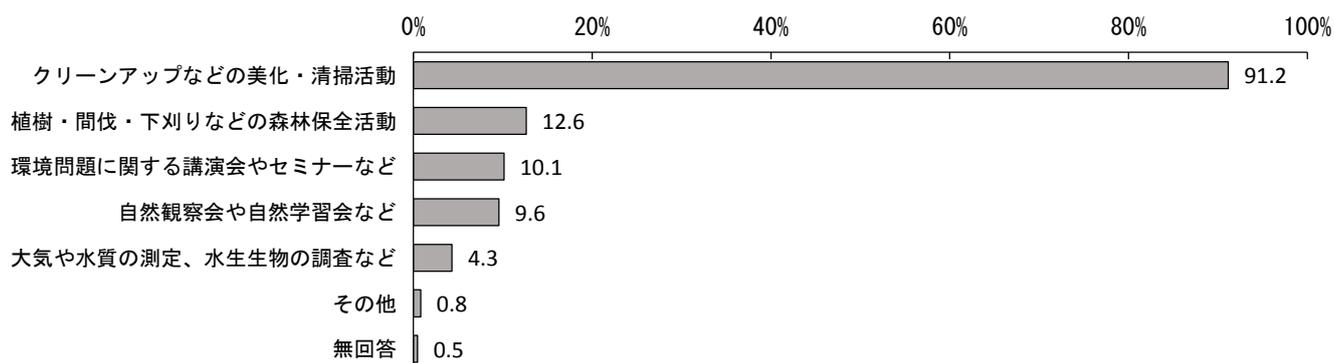


## (2) 参加した環境保全活動の内容 (問4-68)

◆前の質問で「ある」を選んだ方にお聞きします。あなたはこれまで、どのような環境保全活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

「クリーンアップなどの美化・清掃活動」の割合が91.2%で他の項目を引き離して高く、「植樹・間伐・下刈りなどの森林保全活動」が12.6%、「環境問題に関する講演会やセミナーなど」が10.1%、「自然観察会や自然学習会など」が9.6%と続いている。

### 【全体】



## 15 地球温暖化対策について

### (1) 優先させるべき対策（問4-69）

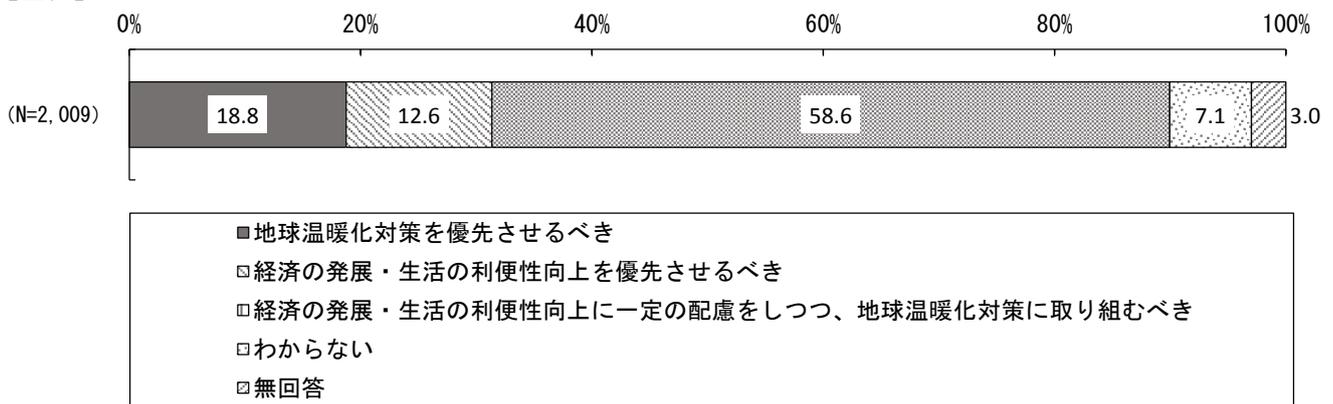
◆あなたは、「地球温暖化対策」と、「経済の発展・生活の利便性向上」のどちらを優先させるべきだと思いますか。（○は1つ）

全体では、「経済の発展・生活の利便性向上に一定の配慮をしつつ、地球温暖化対策に取り組むべき」の割合が58.6%と最も高く、「地球温暖化対策を優先させるべき」を約40ポイント上回っている。

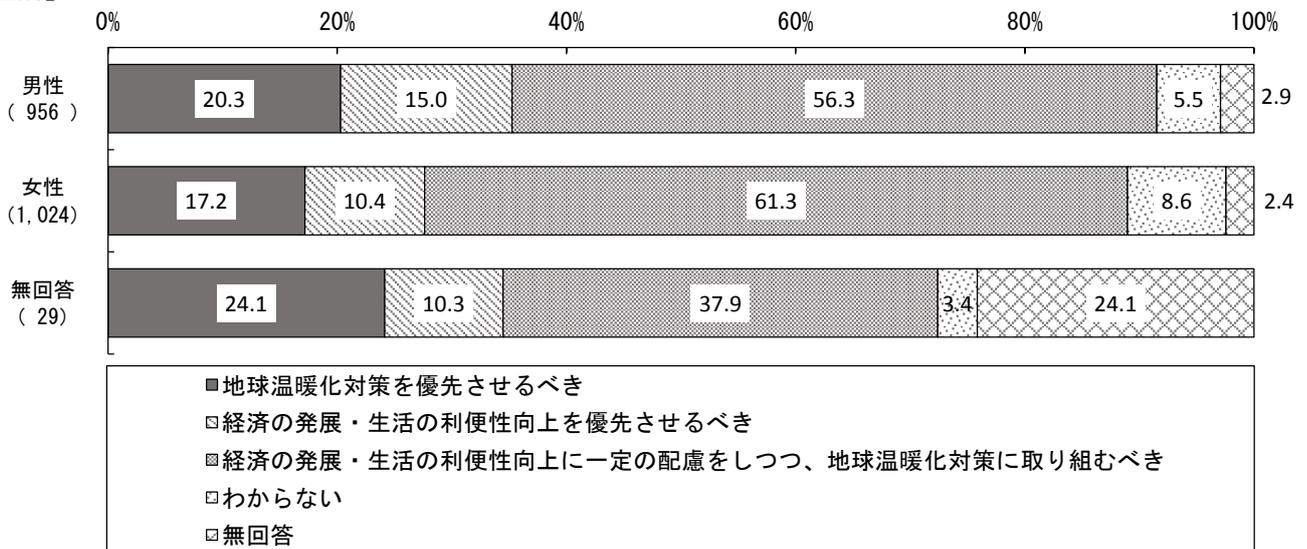
性別では、「地球温暖化対策を優先させるべき」、「経済の発展・生活の利便性向上を優先させるべき」の割合とも男性が女性より高く、「経済の発展・生活の利便性向上に一定の配慮をしつつ、地球温暖化対策に取り組むべき」の割合は女性が男性より高い。

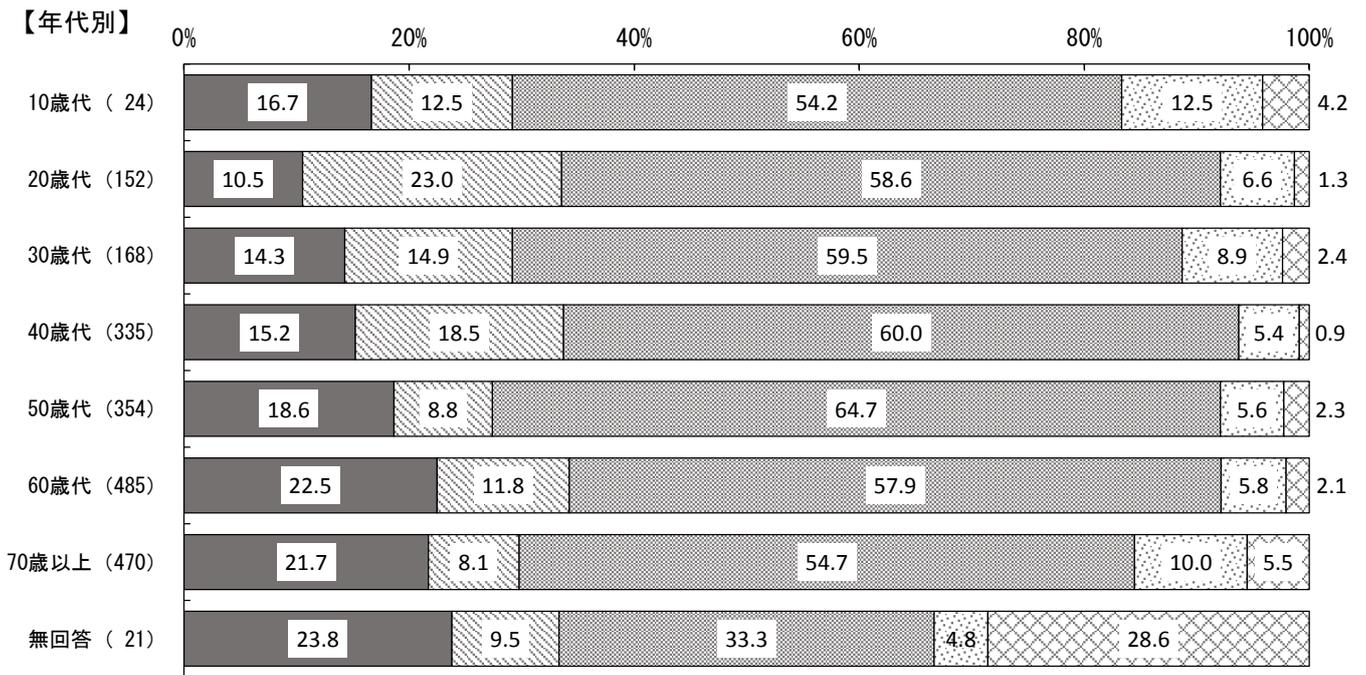
年代別では、「地球温暖化対策を優先させるべき」の割合は、60歳代及び70歳以上が他の年代より高く、「経済の発展・生活の利便性向上を優先させるべき」の割合は、20歳代が20%を超えて他の年代より高い。

#### 【全体】



#### 【性別】



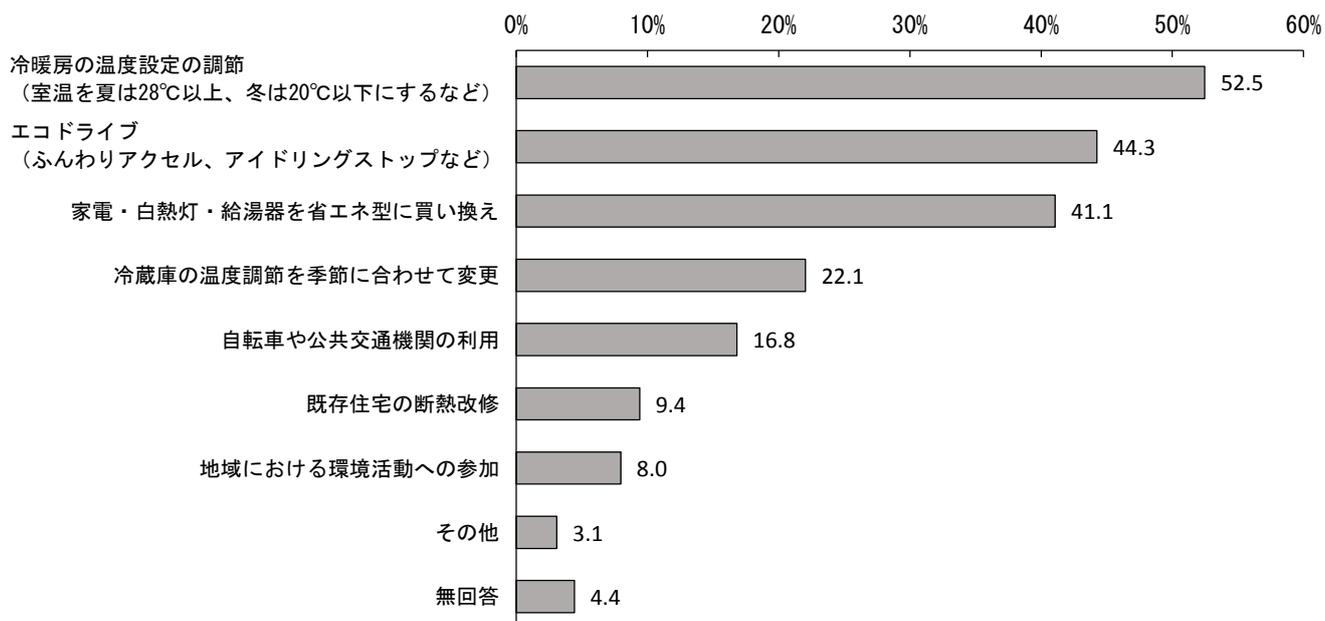


- 地球温暖化対策を優先させるべき
- ▣経済の発展・生活の利便性向上を優先させるべき
- ▣経済の発展・生活の利便性向上に一定の配慮をしつつ、地球温暖化対策に取り組むべき
- わからない
- 無回答

## (2) 地球温暖化防止への取組内容 (問4-70)

◆あなたは、地球温暖化防止に関してどのような取組(予定を含む。)をしていますか。  
(〇はいくつでも)

「冷暖房の温度設定の調節」の割合が52.5%で最も高く、「エコドライブ」が44.3%、「家電・白熱灯・給湯器を省エネ型に買い換え」が41.1%で続く。「冷蔵庫の温度調節を季節に合わせて変更」の割合も20%を超える。



## 16 海岸漂着ごみ対策について

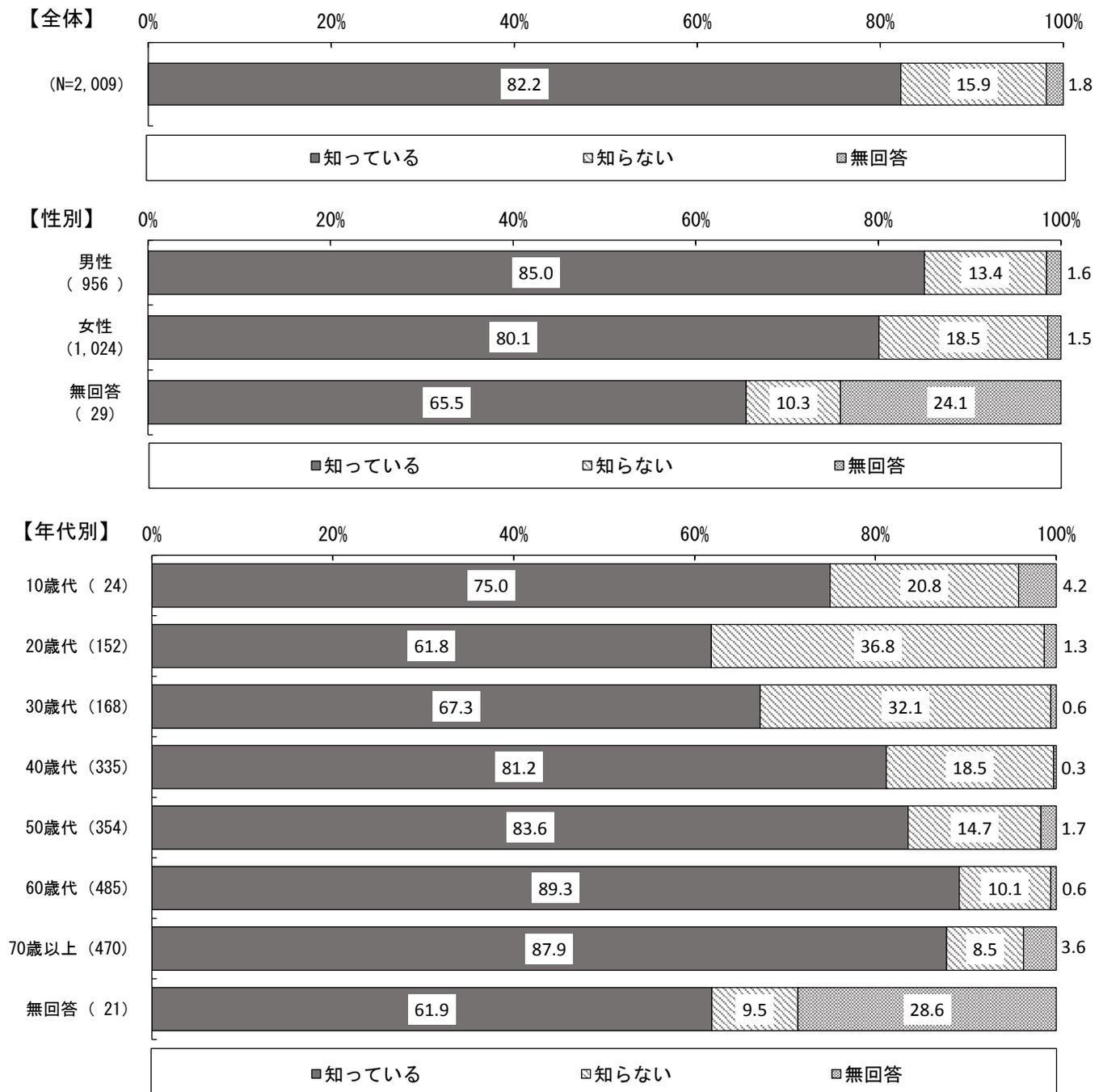
### (1) 海岸漂着ごみ問題に関する認知度（問4-71）

◆秋田県の海岸には毎年のようにごみが漂着し、海岸を汚すなどの問題が発生していますが、このことを知っていますか。（どちらかに○）

全体では、「知っている」の割合が82.2%であり、全体の8割を超える人が知っている。

性別では、「知っている」の割合は、男性が女性より高い。

年代別では、「知っている」の割合は、60歳代が89.3%で最も高く、20歳代が61.8%で最も低い。



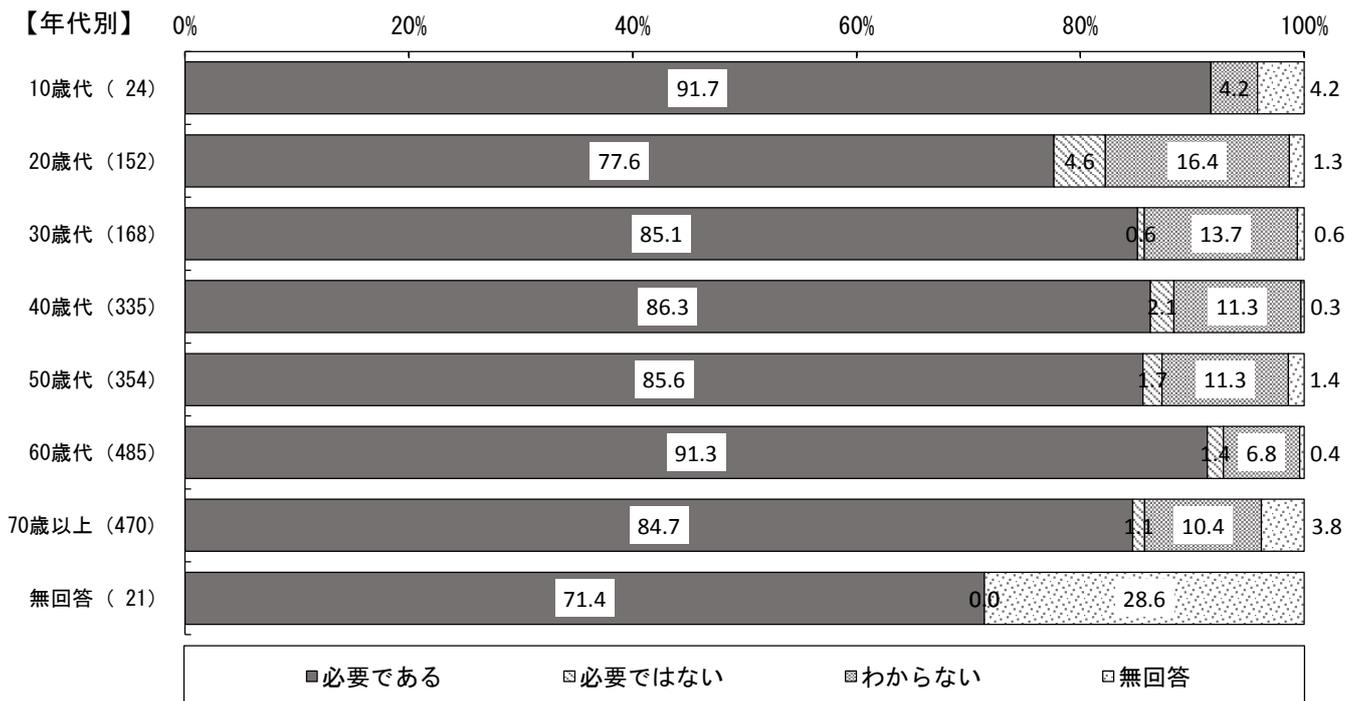
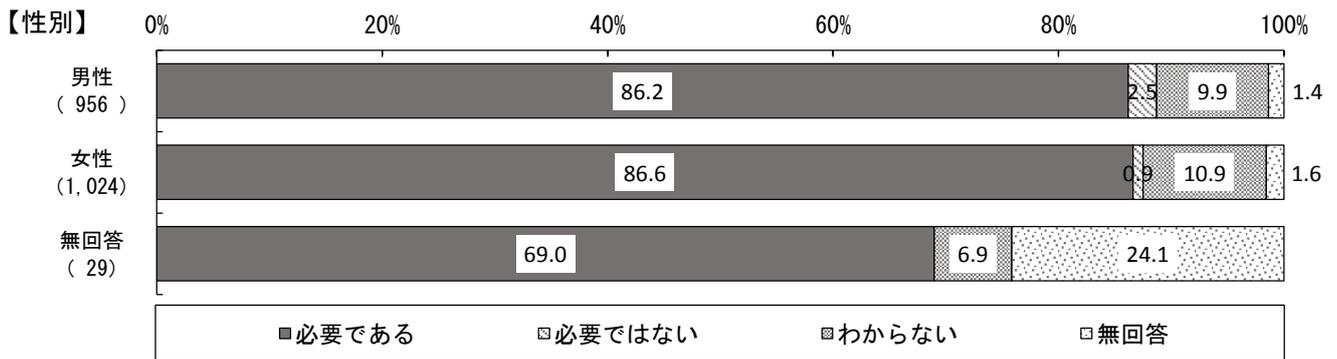
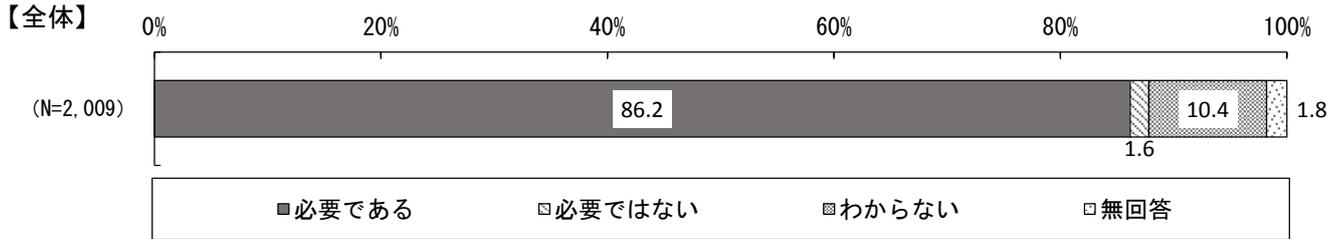
(2) 県などの取組の必要性 (問4-72)

◆この問題に対処するため、県などでは海岸や河川での清掃や発生抑制に関するイベントを実施する取組を続けてきましたが、このことについてどのように考えますか。(〇は1つ)

全体では、「必要である」の割合が86.2%と8割を超え、「必要ではない」の割合は1.6%である。

性別では、「必要である」の割合に男女で大きな違いがない。

年代別では、「必要である」の割合は、10歳代が91.7%で最も高く、20歳代が77.6%で最も低い。

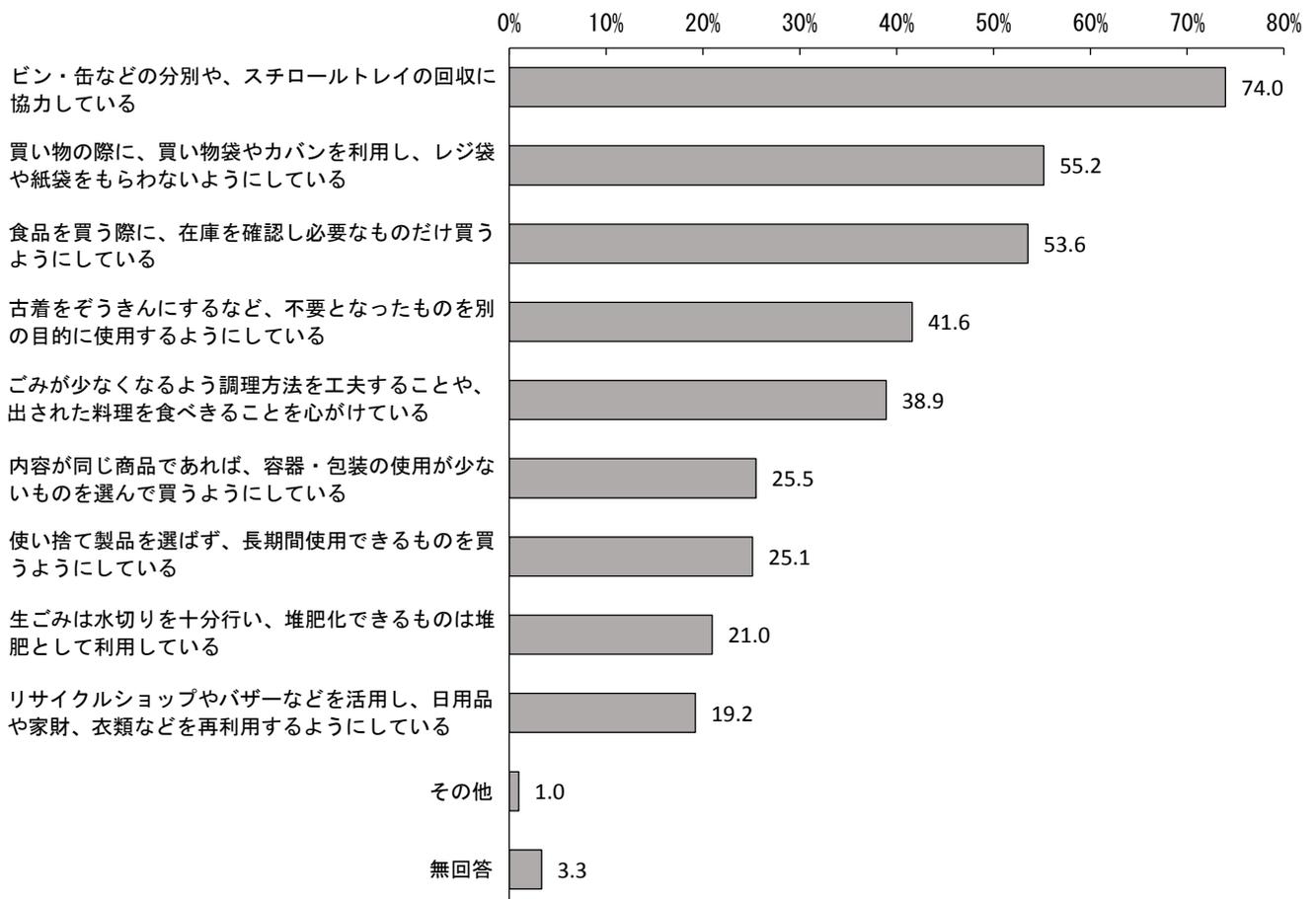


## 17 循環型社会の形成について

### (1) 暮らしの中での取組内容（問4-73）

◆あなたは、ごみを減らすために日ごろの暮らしの中で、どのような取組をしていますか。（〇はいくつでも）

「ビン・缶などの分別や、スチロールトレイの回収に協力している」という資源リサイクルへの協力の割合が74.0%で最も高い。続いて、「買い物の際に、買い物袋やカバンを利用し、レジ袋や紙袋をもらわないようにしている」、「食品を買う際に、在庫を確認し必要なものだけ買うようにしている」の割合が50%を上回る。「古着をぞうきんにするなど、不要となったものを別の目的に使用するようにしている」、「ごみが少なくなるよう調理方法を工夫することや、出された料理を食べきることを心がけている」の割合も30%を超えている。



## (2) 県に期待する取組の内容 (問4-74)

### ◆循環型社会の形成に向けて、県にどのような取組を期待しますか。(〇はいくつでも)

「売れ残りや期限切れの食品、食べ残しを減らす取組の推進」の割合が50.2%で最も高い。「ごみの減量化やリサイクル方法などの情報提供や環境学習等の充実」が48.8%、「金属リサイクルや食品リサイクル、リサイクル製品の普及など循環型社会ビジネスの振興」が45.0%、「稲わらやもみ殻、廃木材などの利活用の推進」が35.8%と続く。

